高校アーチェリー会報

第9号

全国高体連アーチェリー専門部

1995年4月

W&N
WIN & WIN ARCHERY

世界最強国の最高級世界戦略ボウ
ウイン&ウイン"フォーマックス"

WIN & WIN's FOMAX THE BOW TO WIN.

「勝利のための弓」

パーフェクトにまた一歩近づいた！

オリンピックや世界選手権で世界を席巻し続ける韓国。その世界最強国から、注目の最新ボウが発売されました。カーボンバイアスリムと人気のアルミ鍛造削り出しハンドル、そしてさまざまなオリジナルシステムを採用したまったく新しいボウ、FOMAX。韓国のコーチや世界チャンピオンなどの意見が集約された「勝利のための弓」です。

セット価格 ¥126,000
FOMAXハンドル ¥50,000
FOMAXカーボンバイアスリム ¥76,000
※価格には消費税は含まれておりません。
（セット価格には、スタビライザー、Vバー及びストリングは含まれておりません）

ハンドルカラー：ホワイト、グリーン、SIブルー、ゴールド、レッド、パープル、ロイヤルブルー、ブラック（左から）全8色

東日本代理店
株式会社エンゼル
〒110 東京都台東区東上野1-7-12 徳永ビル2F
☎03(3833)4972 FAX.03(3833)4772

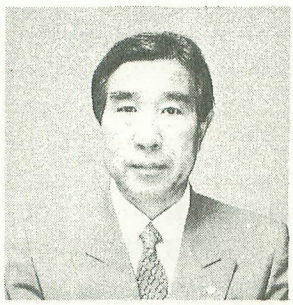
西日本代理店
株式会社ハスコ・エンタープライズ
〒543 大阪市天王寺区堂ケ芝2-5-4
☎06(774)0130 FAX.06(774)0081

目　　次

巻頭言　　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　部　長　松崎　洋右 …… 1
委員長挨拶　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　委員長　薮内　　徹 …… 2
副部長紹介　国際基督教大学高等学校長　桑ヶ谷森男 …… 3
沿　革 …… 4
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　顧問・監事一覧 …… 6
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　役員名簿一覧 …… 6
全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部　委員名簿一覧 …… 7
学校登録一覧 …… 8
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録状況一覧 …… 18
1994ジュニアチーム海外派遣　　立入　彰修　・　池田　幸一　・　五百蔵政雄 …… 19
1994全国選手権大会優勝校紹介　　男子　柏陵高校・女子　甲南女子高校 …… 42
学校紹介　岡山理科大附属高校・山口県立西京高校・香川県立観音時第一高校 …… 48
「JOCチームドクターから見たアーチェリー」JOCチームドクター　河野一郎 …… 58
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届の流れについて …… 62
登録届記入法 …… 63
指定都道府県番号表 …… 64
全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届用紙 …… 65
インターハイ・全国選手権大会栄光のあゆみ　同大会記録 …… 66
全国選抜大会栄光のあゆみ　同大会記録 …… 68
日本高校記録 …… 70
ＦＩＴＡ世界記録・日本記録 …… 72
記録収集について …… 74
高校公認記録規程 …… 77
記録承認申請書様式 …… 80
大会開催地・開催順 …… 81
平成８年度以降の全国高等学校アーチェリー選手権大会について
　　全国高校総合体育大会アーチェリー競技について …… 82
服装規程 …… 85
大会実施要項に記載すべき内容 …… 86
大会プログラム作成の基準について …… 88
全国高体連アーチェリー専門部規約 …… 94
総務委員会規程 …… 97
競技委員会規程 …… 98
審判委員会規程 …… 99
強化委員会規程 …… 100
事務局規程 …… 101
アーチェリー専門部表彰規程 …… 102
アーチェリー専門部慶弔規程 …… 103
口座番号・斡旋物資についての問い合わせ先 …… 104
あとがき …… 105

巻　頭　言

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
部長　松崎洋右



全国高等学校アーチェリー専門部関係各位の皆様方にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成６年度の諸行事も当初の計画通り遂行され、特に富山県宇奈月町にて開催されたインターハイに関しましては、実行委員会と開催地宇奈月町の皆様方の絶大なるご尽力によりまして、所期の目的及び成果を充分に挙げることができました、また初めての企画として今世界のトップクラスと言われている韓国のナショナルチーム前監督を招待し、大会に参加した指導者を対象にした指導者講習会を開催致しました。なかなかの評判であったと聞いております。

学校における部活動は、自らの可能性を信じひたむきに求め会う同志的仲間でなくてはならないと思います。そしてその活動は、飽くなき求道者であり、限りない挑戦者の姿であり、勝敗に涙し、精一杯に戦った、また努力してきた成就感こそ部活動のすべてで、スポーツ、それは青春そのものの燃焼であり、同好の士が目的をもち、自らの能力の限界にいどみ辛酸を越えてあらたな能力を生み出していく所に価値があるものと私は思います。

このアーチェリー専門部の活躍の一進の隆盛を支える力の一つに、全日本アーチェリー連盟、各都道府県高体連・都道府県アーチェリー協会をはじめとする関係の皆様方の、御指導、御援助と、特に平素より生徒ともに汗を流して指導されている全国各地の高等学校のアーチェリー部顧問の先生方、競技に携わる者に有ると思います。

弓具技術・競技技術の発展とともに、選手の低年年令化が進んできた今日、高校生にかけられる期待は、ますます大きくなりつつあります。昨今の各種世界大会では、他の競技団体と同じようにアーチェリー競技においても、お隣韓国を始とし各国々の大会メダリストにおいて若返りが多く見られます、今こそ、全国高体連の理念とアーチェリー専門部の使命と実践を踏まえながら、輝かしい「アーチェリー王国日本」を若い選手達で再現させて行く事を、組織に結集する先生方に期待いたします。

終わりに、平成７年度の各大会に向けては、より一層の関係各位の御協力と御指導をお願いするとともに、アーチェリー専門部の生徒が世界の舞台で日頃の鍛練の成果を十分に発揮し、活躍するときを夢見て、会報に寄せることばとします。平成８年度はオリンピック開催年です。

委員長あいさつ

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部
委員長　薮内　徹
（滋賀県立伊吹高等学校）

本専門部が目標と掲げて邁進してまいりましたインターハイ参加も、幾多の困難の末に実現して、はや３年目を迎えることになりました。

その間、競技形式にも積極的な変更を加え、従来の短距離（50・30m）のみで決着が着いた時代は過去のこととなり、グールプ・トーナメント戦を取り入れた、斬新でかつスピィーデーな競技方法に変化してきました。そして平成７年度からは、いよいよ長距離（90・70・60m）も競技に加え、いままでから世界で行われている正式な競技ルールに基づいて、エキサイティグな競技方法で個人戦・学校対抗戦を実施する運びとなりました。

また、これまで選抜大会シングル・ラウンド競技の対応が、オリンピックやアジア大会へ高校生からの代表選手の出場成果にも表れ、「世界に通用する高校生」を念頭に、オリンピック・ラウンドの導入も鑑みる時期に来ております。

一方、各地域では姉妹都市（校）関係で独自の海外交流や遠征も盛んになり、隔年毎の全米選手権・世界ジュニア選手権への派遣も定着して、若い伸び盛りの競技者がどんどんと外に意識や目を向けはじめ、経験と技量に一段と磨きをかけ飛躍を目指す時代になって来ました。

しかし、世界を目指し活躍させる現実的な方法は、競技形式の改定や交流派遣だけではありません。申し上げるまでもなく、各々の指導者が持ち味を分担し、日々の基礎的な競技力向上指導に加え、「筋力・心理・栄養・弓具メカニック」面にまで踏み込み、科学的な指導法の分析研究と一貫した指導体制とが肝要であります。同時に、世界の頂点に立つ韓国指導理論の検証とを併せて実践すれば、指導者・選手ともに、頼もしく高い可能性を秘めた期待がもてそうです。

ともかく、若い未完の高校生に適切なヒントを与え、ポイントを理解させれば急速に伸びます。臆せず何事も果敢に踏み出すことが重要で、互いの研究成果や情報交換の提供により、各地の指導者の資質向上・トップ選手の育成、すそ野の拡大を図る等、戦略的な充実が急務であります。どうか、常に斬道をリードする心構えを持って、日々の活動研鑽を行って頂きたいと希望します。

終わりに、先の阪神地区大震災において罹災され、大変悲しく辛い思いの方々に対しまして、衷心よりお見舞いと追悼の意を表し、偏にご冥福をお祈りいたします。また、学校施設等にも多大の被害が生じ、クラブ活動にも支障困難を来しておられるものと伺い、同情の言葉もございません。

このことに関し、各都道府県アーチェリー専門部から、心こもる義援金を当専門部にお寄せ頂きました。紙面をお借りして感謝とお礼を申しあげます。皆様のご厚志は、選抜大会時に被災地高等学校アーチェリー関係者にお渡しいたし、ともに一日も早い復興・復活を切に願うところであります。

副部長紹介

桑ヶ谷　森　男

KUWAGAYA　MORIO

国際基督教大学高等学校長

昭和28年３月　聖学院高等学校卒業

昭和32年３月　国際基督教大学卒業

昭和32年４月　県立浦和高等学校教諭に就任

昭和34年４月　聖学院中学・高等学校教諭に就任

昭和53年４月　国際基督教大学高等学校教頭に就任

平成４年４月　国際基督教大学高等学校長に就任

平成４年５月　学校法人　国際基督教大学理事に就任

沿　　革

昭和13年	・アメリカから帰国した、菅　重義氏により日本にアーチェリーが紹介される。
昭和22年	・日本洋弓会が設立される。（愛好者が増加傾向）
昭和34年	・日本アーチェリー協会設立 （学校への活動用具貸与による援助始まる）
昭和37年	・高校生を対象とした近畿総合体育大会が、全国で初めて開催される。
昭和43年	・第１回全国高校アーチェリー競技会開催（東大阪市・旧布施市）
昭和44年	・第２回全国高校アーチェリー競技会開催（静岡県）
昭和45年	・競技会の名称変更「全国高等学校アーチェリー選手権大会」以後より今日に至る。
昭和46年	・選手権参加規定変更・任意参加を各都道府県で２校以内と前年度優勝校に参加を制限。 ・組織を「全国アーチェリー連盟高校部」に改称
昭和49年	・選手権参加規定変更・各都道府県の代表校制に変更、男女１校と前年度優勝校に改正。 ・優勝碑「ダイアナ」（狩猟の女神：ギリシャ神話）が新たに新調される。 （川上源一氏と滋賀県協会の格別の好意により、ブロンズ像制定。） 【制作者：小谷　謙氏・日展会員・京都府在住】
昭和51年	・運営組織のより一層の明確化が図られる。 ・木村好治氏（青森県アーチェリー協会・元名久井農業高校校長）を初代高校部長に選出。 ・改定組織関係役員決定。
昭和52年	・選手権参加規定変更・団体出場校以外の学校より、個人選手の参加を認める。
昭和53年	・大会開催基準・運営細則に関する全面的な見直し、改正に着手。 （協会主導の運営から、高校サイドへの移行に伴い）
昭和54年	・部長、理事長制及び各都道府県ブロックの実情に即した常任理事や代表理事制を取り入れる。初代理事長に中田　昇氏を選出。 ・全国大会記録集創刊 ・全国高体連加盟に向け、高体連旗・表彰等の使用申請の働き掛けが始まる。
昭和55年	・全国高体連へ加盟申請する。 ・中田　昇氏　二代目高校部長に選出。 ・総務・競技・強化・事務局の４部門を設定し、積極的な組織運営策の取組が始まる。
昭和56年	・全国選手権大会開催方針変更・大会経費内部負担の軽減・大会運営への地元高校への協力要請 ・専門部設置県の増加を目指し、各地で運動広がる。

昭和57年	・小笠原朋憲氏三代目高校部長に選出。高体連加盟申請継続
昭和58年	・全国高体連正式加盟への手順決定される。
	・第１回全国高校選抜大会開催（愛知・森林公園）
	◎準加盟として競技種目を扱う。
	◎名義共催と全国総体開催期間中の同時開催禁止。
	◎加盟については、おおむね30都道府県で高体連加盟が審議条件または、40都道府県に於いて　実質的な活動の場合。
昭和59年	・組織拡充と事業実施内容等の統一化に向けて運動強化。
	・ジュニア選手の強化並びに全米選手権大会への派遣事業始まる。
昭和61年	・清本　修氏理事長に選出。
	・学校登録指定番号・ランキング制度開始。
	・会報の発刊始まる。
昭和62年	・アーチェリー専門部設置に向けて、各都道府県高体連事務局への意向調査、協力要請を行う。
昭和63年	・全国高体連への加盟承認される。（５月）
	・新組織による常任委員会開催。（伊豆下田市）
	・審判委員会を設置する。
	・全国高体連専門部規約審議、原案決定。
	・里見勝人氏（淑徳高校校長）四代目高校部長に選出。副部長に松崎洋右氏（大宮開成高）猪飼　彰氏（愛工大名電高）の２名を選出。
	・清本　修氏（可部高校）初代専門委員長に選出。
	・中込恵子（山梨・甲府第一高）オリンピック代表へ。
平成元年	・五代目高校部長　松崎洋右氏（大宮開成高）を選出
平成２年	・副部長に越田　稜氏（学習院高）を選出。清本　修氏退職にともない、４月より薮内徹氏（伊吹高校）が専門委員長を代行する。
平成３年	・４月　薮内徹氏（伊吹高校）２代目専門委員長に選出。
	・７月　第１回ジュニア世界選手権大会（ノルウェー）へ選手派遣。
平成５年	・４月　猪飼彰氏顧問に、鵜飼泰勇氏（愛知高校）を副部長に選出。
	・８月　全国高校総合体育大会参加（栃木県）
平成６年	・３月　全国高校選抜大会長浜ドーム開催。 越田稜氏（学習院高）顧問に、桑ヶ谷森男氏（国際基督教大学付属高）を副部長に選出。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部顧問・監事

平成７年・８年

役職名		氏名	勤務先			学校名	電話	FAX
顧問		木村　好治	〒039-15	青森県三戸郡五戸町天満後44-6		元全国高校部長	0178-62-3223	
		小笠原朋憲	〒153	東京都目黒区駒場1-35-32		元全国高校部長	03-3467-2130	
		里見　達人	〒174	東京都板橋区前野町5-14-1		元全国高校部長	03-3969-7411	
		清本　修	〒731-03	広島県高田郡八千代町上根827-2		前専門委員長	0826-52-3606	
		越田　稜	〒171	東京都豊島区目白1-5-1		元全国高校副部長	03-3986-0221	03-5992-1016
監事	監査	若林　武正	関東	〒235	横浜市磯子区岡村2-4-1	横浜学園高	045-751-6941	045-761-7965
	監査	神谷　育孝	近畿	〒602	京都市上京区今出川通寺町西入	同志社女子高	075-251-4305	075-251-4308

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部役員名簿

平成７年・８年

役職名		氏名	勤務先			学校名	電話	FAX
部長		松崎　洋右	〒330	埼玉県大宮市堀之内1-615		大宮開成高	048-641-7161	048-647-8881
副部長		桑ヶ谷森男	〒184	東京都小金井市東1-1-1		国際基督教大学付属高	0422-33-3401	0422-33-3376
		鵜飼　泰勇	〒464	名古屋市千種区光が丘2-11-41		愛知高校	052-721-1521	052-723-2254
委員長		薮内　徹	近畿	〒521-02	滋賀県坂田郡山東町朝日302	伊吹高	0749-55-2350	0749-55-2778
副委員長	総務強化	田中　康彦	東海	〒465	名古屋市千種区光が丘2-11-41	愛知高	052-721-1521	052-723-2254
	競技審判	雨宮建次郎	関東	〒153	東京都目黒区駒場1-35-32	日工大付属東京工業高	03-3467-2130	03-3467-2138
常任委員	総務委員長	吉田　五衛	北信越	〒910	福井市御幸2-25-8	高志高	0776-24-5175	0776-24-5177
	競技委員長	住友　和雄	四国	〒770	徳島市大和町2-2-15	徳島東工業高	0886-53-3274	0886-53-3296
	審判委員長	嶋守　英敏	東北	〒034	青森県十和田市相坂字高清水78	三本木農業高	0176-25-2215	0176-23-5341
	強化委員長	水上　英彦	東海	〒416	静岡県富士市平垣町1-1	富士見高	0545-61-0250	0724-63-5040
	総務委員	佐幸　修	近畿	〒543	大阪市阿倍野区天王寺町南2-8-19	大阪女子高	06-719-2801	06-714-0045
	競技委員	浦田　照行	北信越	〒939-07	富山県下新川郡朝日町道下603	泊高	0765-82-1191	0765-82-1192
	競技委員	金川　真二	中国	〒731-02	広島市安佐北区可部3-15-25	可部高	082-814-2032	082-814-2140
	審判委員	勢司　凱雄	北海道	〒062	札幌市豊平区月寒東1-3	札幌月寒高	011-851-3111	011-351-3112
	強化委員	堤　幸祐	九州	〒874-01	別府市大字野田78	別府女子短大付属	0977-67-6908	0977-67-8255
事務局	局長	宮崎　利帳	関東	〒330	埼玉県大宮市堀ノ内1-615	大宮開成高	048-641-7161	048-647-8881
	局員	松宮　博	関東	〒344	埼玉県春日部市上大増新田213	春日部共栄高	048-737-7611	048-737-8093

平成７年３月28日現在

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部委員名簿

平成７年・８年

	都道府県名	氏　名	学　校　名	〒	所　在　地	電　話	ＦＡＸ
1	北海道	勢司凱雄	道立　札幌月寒高	062	札幌市豊平区月寒東1条３丁目	011-851-3111	011-851-3112
2	青　森	嶋守英敏	県立　三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
3	岩　手	宮川邦郎	県立　盛岡工業高	020	紫波郡都南村大字羽場第18地割松崎	0196-38-3141	0196-38-8134
4	宮　城	遠藤誠一	市立　仙台工業高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	022-283-6478
5	秋　田	秋田県アーチェリー協	秋田県アーチェリー協会	010	秋田市新藤田大所44-4	0188-31-3126	
6	山　形	野崎　剛	県立　鶴岡南高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
7	福　島	渡邊正仁	県立　田村高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-7785
8	茨　城	奥倉　裕	私立　水城	310	水戸市白梅２丁目１番地45号	0292-47-6509	0292-48-3841
9	栃　木	後藤明男	県立　馬頭高	329-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
10	群　馬	武　倫夫	県立　館林女子高	374	館林市尾曳町６番１号	0276-72-1186	
11	埼　玉	稲田　忍	県立　上尾橋高	367	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-726-5397
12	千　葉	西尾　顕	県立　京葉高	290	市原市島野222	0436-22-2196	0436-25-1368
13	東　京	上原喜八	淑徳高	174	板橋区前野町5-14-1	03-3969-7411	03-3558-7992
14	神奈川	若林武正	横浜学園高	235	横浜市磯子区岡村２丁目４番１号	045-751-6941	045-761-7956
15	山　梨	吉成　謙	県立　甲府第一高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
16	新　潟	坂西精一	県立　長岡工業高	940	長岡市幸町２丁目７番70号	0258-36-4510	0258-39-2054
17	長　野	山上達夫	県立　長野南	381-22	長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	0262-83-3143
18	富　山	浦田照行	県立　魚津工業高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
19	石　川	中村　司	県立　金沢向陽高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
20	福　井	横山幹夫	県立　丹南高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
21	静　岡	水上英彦	富士見高	416	富士市平垣町１番１号	0545-61-0250	0545-63-5040
22	愛　知	荻原茂樹	弥富高	498	海部郡弥富町稲吉２丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-3974
23	三　重	加藤　多	三重高	515	松阪市久保町1232番地	0598-29-2959	0598-29-6944
24	岐　阜	津田博司	高山西高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
25	滋　賀	富永雅博	県立　虎姫高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
26	京　都	神谷育孝	同志社女子高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4305	075-251-4308
27	大　阪	佐幸　修	大阪女子高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南２丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
28	兵　庫	荒木亨典	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町６丁目1-22	078-611-1143	078-611-7070
29	奈　良	高見喬宏	県立　奈良高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
30	和歌山	辻内正昭	県立　貴志川高	640-04	那賀郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
31	鳥　取	山根俊一	県立　倉吉農業高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
32	島　根	足立廣義	県立　松江東高	690	松江市西川津町宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
33	岡　山	後藤　浩	新見女子高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
34	広　島	金川真二	県立　可部高	731-02	広島市安佐北区可部３丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
35	山　口	坂本憲昭	県立　下松高	744	下松市若宮町12-1	0833-41-0157	0833-41-3147
36	香　川	吉良洋平	県立　高松西高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
37	徳　島	住友和雄	県立　徳島東工業高	770	徳島市大和町２丁目2-15	0886-53-3274	0886-53-3296
38	愛　媛	愛媛県アーチェリー協	岡田　光彦　方	791	松山市高浜町1-1432-24	0899-52-3200	
39	高　知	高知県アーチェリー協	山崎　和朗　方	780	高知市西久万351-1	0888-24-0562	
40	福　岡	藤川　毅	県立　柏陵高	815	福岡市南区柏原４丁目47番１号	092-566-3232	092-565-2109
41	佐　賀	長谷川紘之	県立　高志館高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2008
42	長　崎	大塚敬輔	県立　大村工業高	856	大村市森園1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773
43	熊　本	長野　浩	私立　熊本フェイス女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
44	大　分	堤　幸祐	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-66-0224	0977-67-8133
45	宮　崎	野村光秋	宮崎県アーチェリー協会	880	宮崎市池内阿羅迫913-3	0985-26-3215	
46	鹿児島	前川泰博	県立　鹿児島工業高	890	鹿児島市草牟田２丁目57番１号	0992-22-9205	0992-22-9206
47	沖　縄	島袋盛範	県立　中部商業高	901-22	宜野湾市字我如古171番地	098-898-4888	098-888-4808

平成７年３月28日現在

学校登録一覧表

（太字都道県名は、高体連加盟）

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
北海道	01H01	道立 札幌月寒高	062	札幌市豊平区月寒東１条３丁目	011-851-3111	011-851-3112
24校	01H02	市立 札幌啓北商業高	005	札幌市南区石山1条2丁目15番1号	011-591-2021	011-591-2023
	01H03	道立 小樽潮陵高	047	小樽市潮見台2丁目1番1号	0134-22-0754	0134-22-5954
	01H04	函館ラサール高	041	函館市日吉町1丁目12番1号	0138-52-0365	0138-54-0365
	01H05	道立 室蘭清水丘高	051	室蘭市増市町２丁目	0143-23-1221	0143-23-1221
	01H06	道立 登別南高	059	登別市青葉町42番地1	0143-85-8586	0143-85-8586
	01H07	道立 旭川南高	071-01	旭川市西神楽４線６号	0166-65-8770	0166-65-8772
	01H08	道立 清水高	089-01	上川郡清水町北２条西2丁目2番地	01566-2-2156	01566-2-2156
	01H09	道立 帯広三条高	080-24	帯広市西23条2丁目12番地	0155-37-5501	0155-37-5503
	01H10	道立 帯広工業高	080	帯広市南町南８線西24-1	0155-48-5650	0155-48-2680
	01H11	道立 幕別高	089-06	中川郡幕別町南町81番地	0155-54-2977	0155-54-2159
	01H12	道立 札幌西高	064	札幌市中央区宮ノ森4条8丁目1番地	011-611-4401	011-611-4403
	01H13	道立 札幌啓成高	004	札幌市厚別区厚別東4条8丁目6-1	011-898-2311	011-898-2313
	01H14	道立 札幌開成高	065	札幌市東区北22条東21丁目	011-781-8171	011-781-5629
	01H15	道立 旭川北高	070	旭川市花咲町３丁目	0166-51-4620	0166-51-2818
	01H16	道立 旭川工業高	078	旭川市西神楽３線５号	0166-65-4115	0166-65-4127
	01H17	旭川実業高	071	旭川市末広８条１丁目	0166-51-1246	0166-51-9515
	01H18	帯広緑陽高	080	帯広市空港南町南９線34-1	0155-48-6605	0155-48-6603
	01H19	紋別北高	094	紋別市落石町１丁目３番18号	01582-4-5285	01582-4-5285
	01H20	道立 紋別南高	094	紋別市南が丘町６丁目３番47号	0152-3-3068	01582-3-3974
	01H21	北海道室蘭東高	050	室蘭市高砂町４丁目35-1	0143-44-4783	0143-44-4783
	01H22	東海大学第四高	005	札幌市南区南沢517-1-1	011-571-5175	
	01H23	道立 札幌白石高	003	札幌市白石区川北2261番地	011-872-2071	011-872-2072
	01H24	道立 丘珠高	065	札幌市東区北丘珠１条2-589-1	011-782-2911	011-782-8370
青森県	02H01	県立 三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
13校	02H02	県立 藤崎園芸高	038-38	藤崎町藤崎字下袋7の10	0172-75-3302	0172-75-6470
	02H03	八戸工業大学第二高	031	八戸市大字妙字中居林	0178-25-4311	0178-25-0568
	02H04	県立 むつ工業高	039-51	むつ市文京町22の7	0175-24-2164	0175-29-2893
	02H05	八戸工業大学第一高	031	八戸市白銀町右岩渕通7の10	0178-33-5121	0178-34-3942
	02H06	県立 名久井農業高	039-05	三戸郡名川町下名久井字下諏訪平1番地	0178-76-2215	0178-76-2260
	02H07	県立 青森西高	038	青森市新城字平岡226の20	0177-88-0372	0177-88-8038
	02H08	県立 青森東高	039-35	青森市大字原別字遠山13番地	0177-36-2444	0177-36-5866
	02H09	青森山田高	030	青森市浜田字板橋23	0177-39-2001	0177-39-1597
	02H10	県立 青森中央高	030	青森市大字浦町字奥野428番地	0177-39-5135	
	02H11	県立 五所川原農林高	037	五所川原市大字一野坪字朝日田2-37	0173-37-2121	
	02H12	県立 八戸南高	031	八戸市大字鮫町小舟渡平2-291	0178-34-6001	
	02H13	県立 五戸高	039-15	三戸郡五戸町字根岸6番地	0178-62-2828	0178-62-4435
	02H14					
	02H15					
	02H16	県立 柏木農業	036		0172-44-3015	
岩手県	03H01	県立 盛岡工業高	020	紫波郡都南村大字羽場第18地割松崎	0196-38-3141	0196-38-8134

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
3校	03H02	盛岡白百合学園高	020	盛岡市山岸4丁目29番16号	0196-61-6330	
	03H03	県立住田高	029-23	気仙郡住田町世田米字川口12の1	0192-46-3141	
	03H04					
	03H05					
宮城県	04H01	市立仙台工業高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	
2校	04H02	東陵高	988	気仙沼市字大峠山1番1号	0226-23-3100	0226-23-3107
	04H03					
	04H04					
秋田県	05H01	県立大館東高	017	大館市釈迦内字獅子ケ森1番地	0186-48-6607	
1校	05H02					
山形県	06H01					
6校	06H02	天真学園高	998	酒田市浜田1丁目3-47	0234-22-4733	
	06H03	県立鶴岡南高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
	06H04	県立鶴岡北高	997	鶴岡市若葉町16-5	0235-22-2262	0235-24-6101
	06H05	県立鶴岡家政高	997	鶴岡市新形町16-20	0235-22-1200	0235-22-1200
	06H06	県立鶴岡工業高	997	鶴岡市家中新町8-1	0235-22-5505	0235-25-1877
	06H07	県立山添高	997-03	東田川郡櫛引町大字上山添字文栄38番地	0235-57-2100	0235-57-2101
	06H08					
	06H09					
福島県	07H01	県立田村高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-3385
5校	07H02	県立福島高	960	福島市森合町5番72号	0245-35-2391	
	07H03	県立福島南	960	福島市渡利字七社宮17	0245-23-4740	0245-21-6400
	07H04	県立須賀川女子高	962	須賀川市陣場町128	0248-75-2151	0248-72-7979
	07H05	県立岩瀬農業高	969-04	岩瀬郡鏡石町大字鏡田字桜町207	0248-62-3145	
茨木県	08H01	私立水城	310	水戸市白梅2丁目1番地45号	0292-47-6509	0292-48-3841
1校	08H02					
栃木県	09H01	県立馬頭高	324-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
3校	09H02	県立黒羽高	324	那須郡黒羽町前田780	0287-54-0179	0287-54-4179
	09H03	県立鳥山高	321	那須郡鳥山町中央3丁目9番8号	0287-83-2075	0287-83-0145
群馬県	10H01	県立沼田女子高	378	沼田市東倉内町753-3	0278-22-4495	
11校	11H02	県立藤岡北高	375	藤岡市篠塚90	0274-22-2308	
	10H03	県立沼田高	378	沼田市西原新町1510番地	0278-23-1313	
	10H04	県立太田高	373	太田市西本町12の1	0276-31-7181	
	10H05	県立安中実業高	379-01	安中市安中1-2-8	0273-81-0227	0273-82-7207
	10H06	県立館林女子高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-1186	
	10H07	県立桐生西高	376	桐生市相生町3丁目551-1	0277-52-2455	
	10H08	高崎商科短期大学附属高	370	高崎市大橋町237番地の1	0273-22-2827	0273-22-2827
	10H09	私立新島高	379	安中市安中3702	0273-81-0240	0273-81-0630
	10H10	県立高崎東高	370	高崎市元島名町1510	0273-52-1251	0273-53-0994
	10H11	私立前橋育英高	371	前橋市朝日が丘町13	0272-51-7087	0272-52-9419
埼玉県	11H01	大宮開成高	330	大宮市堀之内1-615	048-641-7161	048-647-8881

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
10校	11H02	県立 豊岡高	358	入間市豊岡1丁目15番1号	0429-62-5216	0429-65-6635
	11H03	県立 行田高	361	行田市大字長野1320番地	0485-56-6291	0485-56-1215
	11H04	県立 所沢中央高	359	所沢市並木8丁目2番	0429-95-6088	0429-94-6557
	11H05	春日部共栄高	344	春日部市上大増新田213	048-737-7611	048-737-8093
	11H06	花咲徳栄高	347	加須市花崎江橋519	0480-65-7181	0480-65-4893
	11H07	県立 上尾橘高	367	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-726-5397
	11H08	県立 新座高	352	新座市池田1-1-2	0484-79-5110	
	11H09	県立 日高高	350-12	入間郡日高町旭ヶ丘806	0429-89-7920	0429-85-4412
	11H10	県立 北本高	364	北本市古市場1丁目152番	0485-92-2200	0485-90-1009
	11H11					
千葉県 13校	12H01	県立 京葉高	290	市原市島野222	0436-22-2196	0436-25-1368
	12H02	千葉英和高	276	八千代市村上709-1	0474-84-5141	
	12H03	県立 津田沼高	275	習志野市秋津5-9-1	0474-51-1177	
	12H04	県立 磯辺高	260	千葉市磯辺2丁目7番1号	0472-77-2211	
	12H05	県立 松戸矢切高	271	松戸市中矢切54番地	0473-68-4741	
	12H06	県立 姉崎高	299-01	市原市姉崎2632番地	0436-62-0601	
	12H07	県立 流山中央高	270-01	流山市大畔275-5	0471-54-3551	
	12H08	県立 生浜高	260	千葉市塩田町372	0472-66-4591	0472-68-2680
	12H09	県立 船橋高	273	船橋市東船橋6丁目1番1号	0474-22-2188	
	12H10	八街学園高	289-11	印旛郡八街町八街ほ625	0434-43-3221	0434-43-3443
	12H11	拓殖大学紅陵高	292	木更津市桜井1403番地	0438-37-2511	
	12H12	県立 泉高	280-01	千葉市高根町875-1	0472-28-2551	
	12H13	志学館高	292	木更津市真舟3丁目29番1号	0438-37-3131	
	12H14					
東京都 31校	13H01	東京学園高	153	目黒区下目黒6-12-25	03-3711-6641	
	13H02	都立 四谷商業高	165	中野区上鷺宮5-11-1	03-3990-4226	03-3926-7523
	13H03	明治大学付属中野高	164	中野区東中野3丁目3番4号	03-3362-8704	03-3368-3113
	13H04	駒場東邦高	154	世田谷区池尻4-5-1	03-3466-8221	
	13H05	日工大付属東京工業高	153	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2138
	13H06	玉川学園高	194	町田市玉川学園6丁目1番1号	0427-28-3503	0427-28-3588
	13H07	都立 山崎高	194-01	町田市山崎町字9号1453-1	0427-92-2891	0427-94-0440
	13H08	学習院高等科	171	豊島区目白1丁目5番1号	03-3986-0221	03-5992-1016
	13H09	麻布高	106	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	
	13H10	獨協高	112	文京区関口3-8-1	03-3943-3651	03-3943-9119
	13H11	慶応義塾女子高	108	港区三田2丁目17番23号	03-3451-3618	03-3451-3642
	13H12	武蔵野高	114	北区西ケ原4-56-20	03-3910-0151	
	13H13	東海大学付属高輪台高	108	港区高輪2-2-16	03-3441-8234	03-3441-8238
	13H14	早稲田大学高等学院	177	練馬区上石神井3丁目31番1号	03-5991-4151	03-3928-4110
	13H15	城北高	174	豊島区目白5-23-5	03-3956-3157	03-3956-9779
	13H16	足立高	120	足立区千住旭町40-24	03-3888-5331	03-3888-6720
	13H17	淑徳高	174	板橋区前野町5-14-1	03-3969-7411	03-3558-7992

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	13H18	都立 大山高	173	板橋区小茂根5-18-1	03-3958-2121	03-3959-8591
	13H19	昭和第一学園高	190	立川市栄町2-45-8	0425-36-1611	0425-37-6880
	13H20	国際基督教大学高	184	小金井市東町1-1-1	0422-33-3405	0422-33-3376
	13H21	都立 第四商業高	176	練馬区貫井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040
	13H22	日体桜華女子高	189	東村山市富士見町2-5-1	0423-91-4133	0423-92-6424
	13H23	明治学院東村山高	189	東村山市富士見町1丁目12番3号	0423-91-2142	0423-91-5926
	13H24	都立 館高	193	八王子市館町1097番136	0426-63-3315	0426-62-9831
	13H25	大東文化学園高				
	13H26	藤村女子高				
	13H27	都立 野津田高	194-01	町田市野津田町2000番	0427-34-2311	0427-34-9388
	13H28	都立 小平西高	187	小平市小川町1-502-95	0423-45-1411	
	13H29	文京女子高	113	文京区本駒込6-18-3	03-3964-5301	03-3964-7294
	13H30	私立 国士館	154	世田谷区世田谷4-28-1	03-3421-7042	03-5481-3149
	13H31	千歳高	157	世田谷区粕谷３丁目8-1	03-3300-5235	03-3300-2306
神奈川県	14H01	横浜高	236	横浜市金沢区能見台通46-1	045-781-3396	045-785-1541
19校	14H02	相模女子大学高	228	相模原市文京2-1-1	0427-42-1442	
	14H03	県立 横浜緑ヶ丘高	231	横浜市中区本牧緑ヶ丘37番地	045-621-8641	
	14H04	浅野高	221	横浜市神奈川区子安台1-3-1	045-421-3281	045-421-4080
	14H05	三浦高	238	横須賀市衣笠栄町3丁目80番地	0468-52-0284	
	14H06	市立 横須賀高	238	横須賀市森崎5丁目1番1号	0468-36-0413	0468-36-1361
	14H07	県立 東金沢高	236	横浜市金沢区富岡東2丁目6番1号	045-774-1188	045-776-2357
	14H08	県立 小田原城内高	250	小田原市南町1-6-34	0465-23-3251	0465-23-6142
	14H09	県立 湘南高通信制少年工科学校	238-03	横須賀市幸浜2-1	0468-56-1291	
	14H10	平和学園高	253	茅ヶ崎市富士見町5番2号	0467-87-0132	0467-87-2088
	14H11	東海大学附属相模高	228	相模原市相南3-33-1	0427-42-1251	0427-42-1159
	14H12	慶応義塾高	223	横浜市港北区日吉4丁目1番2号	044-563-1111	
	14H13	横浜学園高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
	14H14	県立 永谷高	233	横浜市港南区下永谷町1-28-1	045-824-2126	045-825-3605
	14H15	市立 南高	233	横浜市港南区東永谷町2丁目1番1号	045-822-1910	
	14H16	県立 上矢部高	245	横浜市戸塚区上矢部町3230	045-861-3500	045-862-6347
	14H17	鎌倉女学院高	248	鎌倉市由比ヶ浜2-10-4	0467-25-2100	0467-25-1358
	14H18	県立 三崎水産高	240	横須賀市長坂1-2-1	0468-56-3128	0468-57-6457
	14H19	県立 湯河原高	259-03	足柄下郡湯河原町吉浜1576-31	0465-63-1281	0465-62-0675
山梨県	15H01	県立 甲府第一高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
8校	15H02	山梨英和高	400	甲府市愛宕町112	0552-52-6184	0522-51-7468
	15H03	甲府湯田高	400	甲府市青沼3丁目10-1	0552-33-0127	0552-33-0129
	15H04	県立 農林高	400-01	中巨摩郡竜王町西八幡4533	0552-76-2611	
	15H05	県立 機山工業高	400	甲府市下飯田1丁目9番1号	0552-28-7281	
	15H06	私立 山梨学院付属高	400	甲府市酒折３丁目3-1	0552-37-1047	0552-35-7091
	15H07	県立 甲府西高	400	甲府市下飯田4-1-1	0552-28-5161	0552-28-5164
	15H08	県立 韮崎高	407	韮崎市若宮３丁目2-1	0551-22-2415	0551-22-2415

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
新潟県	16H01	県立長岡工業高	940	長岡市幸町2丁目7番70号	0258-36-4510	0258-39-2054
5校	16H02	敬和学園高	950-31	新潟市太夫浜325	025-259-2391	025-259-7281
	16H03	新潟産業大学附属高	945-13	柏崎市大字安田2510番地2	0257-24-6644	0257-24-0386
	16H04	県立新潟中央高	951	新潟市学校町通り2番地5317-1	025-229-2191	
	16H05	新潟県個人登録協会				
長野県	17H01	県立篠ノ井校	388	長野市篠ノ井布施高田1161番地2	0262-92-0066	
2校	17H02	県立長野南		長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	0262-83-3143
	17H03					
富山県	18H01	高岡竜谷高	933	高岡市古定塚4-1	0766-22-5141	0766-25-8149
5校	18H02	県立魚津工業高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
	18H03	新川高	937	魚津市吉島1350	0765-24-2015	0765-24-2015
	18H04	県立富山中部高	930	富山市芝園町３丁目1-26	0764-41-3541	0764-41-3543
	18H05	県立大門高	939-02	射水郡大門町二口１番地２	0766-52-5571	0766-52-5571
石川県	19H01	県立柳田農業高	928-03	鳳至郡柳田村字柳田イ倍3番地	0768-76-1211	0768-76-0079
4校	19H02	県立金沢向陽高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
	19H03	県立工業高	920	金沢市本多町2丁目3番6号	0762-61-7156	0762-65-5346
	19H04	県立金沢桜丘高	920	金沢市大樋町16番1号	0762-52-1225	0762-52-1643
	19H05					
福井県	20H01	県立丹南高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
4校	20H02	県立金津高	919-06	坂井郡金津町南金津33-1	0776-73-1255	0776-73-4904
	20H03	敦賀気比高	914	敦賀市沓見164-1	0770-24-2150	0770-24-2620
	20H04	県立高志高	910	福井市御幸２丁目25-8	0776-24-5175	0776-24-5177
	20H05					
	20H06					
静岡県	21H01	県立修善寺工業高	410-24	田方郡修善寺町牧之郷892番地	0558-72-3322	0558-72-1955
14校	21H02	富士見高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
	21H03	県立静岡商業高	420	静岡市田町７丁目90番地	054-255-6241	054-255-9241
	21H04	県立袋井高	437	袋井市愛野2446-1	0538-42-0191	0538-43-0710
	21H05	県立浜松工業高	433	浜松市初生町1150	053-436-1101	053-437-9988
	21H06	県立浜松商業高	432	浜松市文丘町4番11号	053-471-3351	053-475-2109
	21H07	信愛学園高	430	浜松市下池川町34番3号	053-471-5336	053-475-2395
	21H08	興誠高	430	浜松市高林1丁目17番2号	053-471-4136	053-471-4137
	21H09	県立浜松北高	432	浜松市広沢1丁目30番1号	053-454-5548	053-456-3316
	21H10	県立浜松湖東高	431-11	浜松市大人見町3600	053-485-0215	053-485-3947
	21H11	県立三ヶ日高	431-14	引佐郡三ケ日町釣78-1	0535-25-0103	0535-25-0426
	21H12	県立天竜林業高	431-33	天竜市二俣町二俣601番地	0539-25-3139	0539-25-7422
	22H13	静岡北高	420	静岡市瀬名3240	0542-61-5801	0542-62-5573
	22H14	県立静岡東高	420	静岡市川合757番地	0542-61-6636	0542-63-5970
	22H15					
	22H16					
愛知県	22H01	愛知高	464	名古屋市千種区光ケ丘2丁目11番41号	052-721-1521	052-723-2254

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
20校	22H02	愛知工業大学名電高	464	名古屋市千種区若水3丁目2番12号	052-721-0311	052-722-8302
	22H03	弥富高	498	海部郡弥富町稲吉２丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-3974
	22H04	愛知女子高	451	名古屋市西区新道1丁目23番15号	052-571-8422	052-561-0713
	22H05	東海女子高	468	名古屋市天白区中平２丁目901番地	052-801-6222	052-804-0647
	22H06	東海高	461	名古屋市東区筒井1-2-35	052-936-5112	052-936-9744
	22H07	東邦高	465	名古屋市名東区平和が丘3丁目11番地	052-782-1171	052-782-7151
	22H08	金城学院高	461	名古屋市東区白壁4-64	052-931-6236	
	22H09	県立安城東高	446	安城市北山崎町大土塚10	0566-74-1231	
	22H10	三河高	444	岡崎市岡町字原山12-10	0564-48-5211	0564-48-5300
	22H11	桜丘高	440	豊橋市南牛川2丁目1番の11	0532-61-6421	0532-63-9278
	22H12	県立衣台高	471	豊田市太平町平山５番地	0565-33-1080	
	22H13	県立西尾東高	445	西尾市小島町大郷1-4	0563-56-1911	
	22H14	県立岡崎東高	444-35	岡崎市竜泉寺町字後山27番地	0564-52-8911	
	22H15	名古屋工業高	466	名古屋市昭和区円上町22-38	052-871-2681	052-881-0761
	22H16	中京女子大学附属高	461	名古屋市東区大幸南２丁目1番10号	052-723-0851	052-723-1744
	22H17	市立向陽高	466	名古屋市昭和区広池町47番地	052-841-7138	052-853-2453
	22H18	県立豊橋南高	441	豊橋市南清水町元町450番地	0532-25-1476	0532-25-4887
	22H19	県立岡崎西高	444	岡崎市日名南町７番	0564-25-0751	0564-25-9201
	22H20	県立岡崎高	444	岡崎市明大寺町伝場１	0564-51-0202	0564-55-9422
三重県	23H01	三重高	515	松阪市久保町1232番地	0598-29-2959	0598-29-6807
３校	23H02	県立四日市南高	510	四日市市大字永字岡山4917	0593-45-3177	0593-45-9549
	23H03	松阪女子高	515	松阪市久保町梅村１番地	0598-29-4151	0598-29-6944
	23H04					
	23H05					
岐阜県	24H01	聖マリア女学院高	501-25	岐阜市福富201	0582-29-1102	0582-29-3029
３校	24H02	高山西高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
	24H03	県立大垣西高	503	大垣市中曽根町字大畔147番地１	0584-91-5611	0584-91-9967
滋賀県	25H01	県立大津商業高	520	大津市御陵町2-1	0775-24-4284	0775-26-1802
11校	25H02	県立大津高	520	大津市馬場1丁目1番1号	0775-23-0386	0775-26-1772
	25H03	県立栗東高	520-30	栗太郡栗東町小野618	0775-53-3350	0775-54-1537
	25H04	市立守山女子高	524	守山市勝部町962番地	0775-82-2019	0775-83-2829
	25H05	県立甲南高	520-33	甲賀郡甲南町寺庄427	0748-86-4145	0748-86-4983
	25H06	県立八幡商業高	523	近江八幡市宇津呂町10	0748-32-2072	0748-32-4052
	25H07	県立愛知高	529-13	愛知郡愛知川町102	0749-42-2150	0749-42-6172
	25H08	県立伊吹高	521-02	坂田郡山東町朝日302番地	0749-55-2350	0749-55-2778
	25H09	県立長浜商工高	526	長浜市地福寺町3-72	0749-62-3370	0749-65-1344
	25H10	県立虎姫高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
	25H11	県立北大津高	520-02	大津市仰木の里１丁目23-1	0755-73-5881	0775-73-7076
	25H12					
	25H13					
京都府	26H01	同志社高	606	京都市左京区岩倉大鷺町89	075-781-7121	075-781-7124

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
8校	26H02	同志社女子高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4305	075-251-4308
	26H03	福知山商業高	620	福知山市字堀水内	0773-22-6224	
	26H04	市立洛陽工業高	601	京都市南区唐橋大宮尻町22	075-691-3161	
	26H05	市立紫野高	603	京都市北区紫野大徳寺町22	075-491-0221	
	26H06	府立木津高	619-02	相楽郡木津町字木津内田山34	07747-2-0031	07747-2-0031
	26H07	府立兎道高	611	宇治市五ケ庄雲峰4-1	0774-33-1691	0749-33-1696
	26H08	府立府立工業高	620	福知山市大字石原小字上野45	0773-27-5161	0773-27-5162
	26H09					
大阪府	27H01	府立和泉工業高	594	和泉市冨秋町33	0725-41-1250	0725-45-8985
17校	27H02	大阪高	533	大阪市東淀川区相川2-18-51	06-340-3031	06-349-3719
	27H03	大阪工業大学高	535	大阪市旭区大宮5丁目16番1号	06-952-3131	06-953-9497
	27H04	大阪女子高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
	27H05	関西大倉高	567	茨木市室山2丁目14番1号	0726-43-6321	0726-43-8375
	27H06	市立岸和田産業高	596	岸和田市別所町541	0724-22-4861	0724-22-4862
	27H07	府立久米田高	596	岸和田市額原町	0724-43-6651	0724-43-0307
	27H08	此花学院高	544	大阪市生野区勝山南2丁目6番38号	06-716-0003	06-716-0009
	27H09	帝塚山学院高	558	大阪市住吉区帝塚山中3丁目10番51号	06-672-1151	06-678-8797
	27H10	星翔高	566	摂津市三島3丁目5番36号	06-381-0220	06-383-4822
	27H11	府立西野田工業高	553	大阪市福島区大開2丁目17番62号	06-461-0023	06-461-3483
	27H12	初芝高	591	堺市日置荘西町51	0722-85-0128	0722-86-8405
	27H13	桃山学院高	545	大阪市阿倍野区昭和町3丁目1番64号	06-621-1181	06-621-1111
	27H14	府立山本高	581	八尾市山本町北1-1-44	0729-99-0552	0729-99-4374
	27H15	府立工業高等専門学校	572	寝屋川市幸町26番12号	0720-21-6401	0720-21-0134
	27H16	府立岸和田高	596	岸和田市岸城町10-1	0724-22-3691	0724-32-5266
	27H17	府立池島高	579	東大阪市池島町6-3-9	0729-87-3302	0729-82-3134
兵庫県	28H01	滝川高	654	神戸市須磨区宝田町2丁目1-1	078-732-1625	078-732-7391
17校	28H02	須磨ノ浦女子高	654	神戸市須磨区行幸町2丁目7-3	078-731-6637	078-731-6149
	28H03	甲南高	659	芦屋市山手町31-3	0797-31-0551	0797-31-7458
	28H04	市立琴丘高	670	姫路市今宿668	0792-92-4925	
	28H05	県立星陵高	655	神戸市垂水区星陵台4丁目3-2	078-707-6565	078-707-6589
	28H06	夙川学院高	662	西宮市神園町2-20	0798-74-5061	0798-74-1596
	28H07	松蔭高	657	神戸市灘区青谷3丁目4番47号	078-861-1105	078-861-1887
	28H08	甲南女子高	658	神戸市東灘区森北5丁目6-1	078-411-2531	078-411-2535
	28H09	神戸山手女子高	650	神戸市中央区諏訪山町6番1号	078-341-6050	078-341-1882
	28H10	県立舞子高	655	神戸市垂水区学が丘3丁目2番	078-783-5151	078-783-5152
	28H11	県立姫路東高	670	姫路市本町68	0792-85-1166	0792-85-1167
	28H12	県立夢野台高	653	神戸市長田区房王寺町2丁目1	078-691-1546	078-691-1548
	28H13	須磨女子高	654	神戸市須磨区板宿町3-15-14	078-732-1968	
	28H14	滝川第二高	651-22	神戸市西区平野町下村字平瀬436-1	078-961-2381	078-961-4591
	28H15	県立西宮甲山高	662	西宮鷲林寺字剣谷10番地	0798-74-2460	0798-74-2461
	28H16	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-611-1143	078-611-7070

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	28H17	三田西陵高	669-13	三田市ゆりのき台3-4	0795-65-5287	0795-65-5289
	28H18					
奈良県	29H01	県立奈良高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
3校	29H02	天理高	632	天理市杣之内町1260	07436-3-1511	07436-3-1368
	29H03	奈良学園高	639	大和郡山市山田町430	07435-4-0351	07435-4-0335
	29H04					
和歌山県	30H01	県立貴志川高	640-04	那賀郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
1校	30H02					
	30H03					
鳥取県	31H01	米子北高	683	米子市米原523番地	0859-22-9371	0859-32-6838
5校	31H02	県立倉吉農業高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
	31H03	県立倉吉東高	682	倉吉市下田中町801番地	0858-22-5205	0858-22-5206
	31H04	県立鳥取商業高	680	鳥取市湖山町北2丁目401番地	0857-28-0156	0857-28-0157
	31H05	県立鳥取東高	680	鳥取市立川町5丁目210	0857-22-8495	0857-22-8497
	31H06					
	31H07					
島根県	32H01	県立松江東高	690	松江市西川津町字宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
1校	32H02					
	32H03					
岡山県	33H01	岡山理大学附属高	700	岡山市理大町1-1	0862-52-3161	0862-55-8512
3校	33H02	新見女子高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
	33H03	高梁日新高	716	高梁市内山下150番地	0866-22-3466	
	33H04					
	33H05					
広島県	34H01	尾道高	722	尾道市栗原町1268-1	0848-23-2312	0848-23-3664
18校	34H02	国立広島大学附属福山高	721	福山市春日町吉田	0849-41-8350	0849-41-8356
	34H03	市立呉豊栄高	737	呉市阿賀中央5丁目13番56号	0823-72-5577	0823-74-3501
	34H05	市立呉宮原高	737	呉市宮原３丁目１番１号	0823-21-9306	0823-31-9308
	34H06	県立海田高	736	安芸郡海田町つくも町1番60号	082-822-3030	082-822-3803
	34H07	県立加計高	731-35	山県郡加計町加計3780-1	08262-2-0488	08262-2-1691
	34H08	広島山陽学園山陽高	733	広島市西区観音新町4丁目12-5	082-232-9156	082-232-2497
	34H09	修道高	730	広島市中区南千田西町8-1	082-241-8291	082-249-0870
	34H11	県立広島工業高	734	広島市南区出汐2丁目4-75	082-254-1421	082-253-3407
	34H12	国立広島大学附属高	734	広島市南区翠1丁目1-1	082-251-0191	082-252-0725
	34H13	県立広島皆実高	734	広島市南区出汐2丁目4-76	082-251-6441	082-251-6441
	34H14	県立可部高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
	34H15	山陽女子高	738	廿日市市佐方本町1-1	0829-32-2221	0829-32-7681
	34H16	県立因島北高	722-21	因島市重井町長浜5574	08452-4-1281	08452-4-3585
	34H20	広島第一女子商業高	732	広島市東区山根町天神谷108-8	082-262-0128	082-263-9228
	34H22	県立賀茂高	724	東広島市西条町西条東770	0824-23-2559	0824-22-2792
	34H23	県立福山葦陽高	720	福山市久松台３丁目1-1	0849-23-0400	0849-23-0200

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	34H24	私立 広島工業大学付属高	731-51	広島市佐伯区三宅１丁目6-25	0829-21-2137	0829-24-3020
山口県	35H01	県立 久賀高	742-23	大島郡久賀町第4851番地の2	08207-2-0024	08207-2-0096
8校	35H02	県立 下関西高	751	下関市後田町4丁目10番1号	0832-22-0892	0832-22-0892
	35H03	聖光高	743	光市光井9丁目22-1	0833-72-1187	0833-72-1189
	35H04	県立 田布施工業高	742-15	熊毛郡田布施町麻郷奥	0820-48-2306	0820-52-2269
	35H05	県立 田布施農業高	742-15	熊毛郡田布施町大字波野195番地	0820-52-2157	0820-53-6036
	35H06	県立 西京高	753	山口市大字黒川2580番地の1	0839-23-8508	0839-32-0721
	35H07	県立 華陵高	744	下松市朱武上屋称下217-2	0833-44-1285	
	35H08	県立 下松高	744	下松市大字河内114	0833-41-0157	0833-41-3147
	35H09					
	35H10					
香川県	36H01	県立 高松西高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
4校	36H02	県立 観音寺第一高	768	観音寺市観音寺町甲648-1	0875-25-4155	0875-25-4145
	36H03	尽誠学園高	765	善通寺市生野町855番地	0877-62-1515	0877-63-3860
	36H04	県立 高松南高	761	高松市一宮町531	0878-85-1131	0878-85-1133
徳島県	37H01	県立 徳島工業高	770	徳島市北矢三町2丁目1番1号	0886-31-4185	0886-31-1110
4校	37H02	県立 鳴門高	772	鳴門市撫養町斉田字岩崎135-1	0886-85-3217	
	37H03	県立 徳島東工業高	770	徳島市大和町２丁目2-15	0886-53-3274	0886-53-3296
	37H04	私立 生光学園	771	徳島市応神町中原38	0886-41-1032	0886-41-4075
愛媛県	38H01					
	38H02					
高知県	39H01	県立 高知小津高	780	高知市城北町1-14	0888-22-5270	
2校	39H02	私立 高知高	780	高知市北端町100	0888-40-1111	0888-44-7578
福岡県	40H01	県立 柏陵高	815	福岡市南区大字柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
5校	40H02	県立 折尾高	807	北九州市西区大膳2丁目23番1号	093-691-3561	093-691-9529
	40H03	県立 門司北高	800-01	北九州市門司区猿喰1462-2	093-481-4673	093-481-5768
	40H04	小倉女子商業高	803	北九州市小倉北区皿山町15番1	093-561-1334	093-561-4844
	40H05	私立 大牟田高	837	大牟田市大字草木852	0944-53-5011	0944-53-8251
	40H06					
	40H07					
佐賀県	41H01	県立 佐賀高志館高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2005
2校	41H02	県立 厳木高	849-31	東松浦郡厳木町下厳木727	0955-63-2535	0955-51-5021
	41H03					
長崎県	42H01	県立 大村工業高	856	大村市森園町1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773
4校	42H02	県立 諫早東高	854-02	北高来郡森山町杉谷名317	0957-36-1010	
	42H03	県立 長崎南商業高	851-02	長崎市北浦町2885-1	0958-36-0120	
	42H04	私立 鎮西学院	854	諫早市栄田町1057	0957-25-1234	0957-25-1237
	42H05					
熊本県	43H01	県立 第二高	862	熊本市東町3-8	096-368-4125	
5校	43H02	有明高	864	荒尾市増永2200番地	0968-63-0958	0968-64-1366
	43H03	東海大学第二高	862	熊本市大江町渡鹿223	096-382-1146	096-385-2161

都道府県名	指定学校番号	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
	43H04	私立 熊本フェイス女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
	43H05	県立 氷川高	869-42	八代郡鏡町大字鏡村937	0965-52-3611	0965-52-3611
大分県	44H01	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-66-0224	0977-67-8133
11校	44H02	明星高	874	別府市野口原3088番地	0977-21-2090	0977-24-3142
	44H03	大分櫻丘高				
	44H04	県立 鶴見丘高	874	別府市鶴見字横打4433-2	0977-21-0118	
	44H05	大分電波高	870	大分市新貝11-40	0975-58-3734	
	44H06	県立 別府羽室台高				
	44H07	県立 佐伯豊南高				
	44H08	大分東明高	870	大分市千代町2丁目4-4	0975-35-0201	0975-35-0966
	44H09	県立 大分豊府高	870	大分市大字羽屋600番1	0975-46-2222	
	44H10	大分高	870-01	大分市横尾字大丸尾	0975-51-1101	
	44H11	県立 大分上野台高	870	大分市上野丘２丁目10番１号	0975-43-6249	
	44H12					
	44H13					
宮崎県	45H01	県立 都城泉ヶ丘高				
2校	45H02	県立 都城西高				
	45H03					
	45H04					
鹿児島県	46H01	鹿児島純心女子高	890	鹿児島市鴨池町1847	0992-54-4121	
2校	46H02	県立 鹿児島工業高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	0922-22-9205	0992-22-9206
	47H03					
	47H04					
沖縄県	47H01	県立 豊見城南高	901-02	豊見城村字翁長520	0988-50-1951	
5校	47H02	県立 宜野湾高	901-22	宜野湾市字真志喜2丁目25番1号	09889-7-1020	
	47H03	県立 中部商業高	901-22	宜野湾市字我如古２丁目２番１号	098-898-4888	098-898-4808
	47H04	県立 前原高	904-22	具志川市字田湯1827番地	098-973-3249	
	47H05	県立 鏡が丘養護学校	901-21	浦添市当山750	098-877-4940	098-877-9958

○　都道府県数　　46県（内35都道府県 高体連に加盟 平成６年12月現在）

○　学校数　　340校

○　新規加盟校の指定学校番号は、各都道府県で指定学校番号を付記し本専門部へ通知すること。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟 登録状況一覧表

平成６年12月７日現在

番号	都道府県名	単独校		複数校	女子			女子合計	男子			男子合計	合計			総合計
		女子	男子		１年	２年	３年		１年	２年	３年		１年	２年	３年	
1	○北海道	5	5	14	40	44	33	117	55	65	49	169	95	109	82	286
2	○青森	3	3	5	18	22	24	64	36	25	29	90	54	47	53	154
3	○岩手	2		1	16	18	18	52	26	9	9	44	42	27	27	96
4	宮城	1		1	3	5	2	10	2	5	1	8	5	10	3	18
5	秋田															
6	○山形	2		3	17	8	9	34	9	12	10	31	26	20	19	65
7	○福島	2	1	2	11	15	2	28	5	13	10	28	16	28	12	56
8	茨城			1	1	3	1	5	2		5	7	3	3	6	12
9	○栃木			2	9	6	4	19	14	5	5	24	23	11	9	43
10	○群馬	4	2	2	35	19	31	85	15	15	15	45	50	34	46	130
11	○埼玉	1		8	41	32	51	124	36	44	35	115	77	76	86	239
12	○千葉	2	2	9	38	23	24	85	46	62	34	142	84	85	58	227
13	○東京	4	8	11	63	68	41	172	112	88	61	261	175	156	102	433
14	○神奈川	3	5	8	51	47	35	133	64	66	56	186	115	113	91	319
15	○山梨	2	3	1	16	7	7	30	8	6	4	18	24	13	11	48
16	新潟		2	2		1	6	7		12	12	24		13	18	31
17	○長野		1	1		4	14	18		10	5	15		14	19	33
18	○富山		1	4	10	12	6	28	22	18	16	56	32	30	22	84
19	○石川			3		9	5	14		8	17	25		17	22	39
20	○福井	1		3	3	16	19	38	6	12	12	30	9	28	31	68
21	○静岡	1	2	9	38	37	34	109	65	69	37	171	103	106	71	280
22	○愛知	4	6	5	24	30	24	78	71	62	41	174	95	92	65	252
23	三重			1	3	7	6	16	6	1	2	9	9	8	8	25
24	岐阜	1		2	2	12	9	23		8	7	15	2	20	16	38
25	○滋賀	2		9	31	22	24	77	17	38	15	70	48	60	39	147
26	○京都	1	1	6	40	27	28	95	35	44	37	116	75	71	65	211
27	○大阪	2	6	9	44	38	28	110	76	75	69	220	120	113	97	330
28	○兵庫	7	2	8	53	65	64	182	31	48	39	118	84	113	103	300
29	○奈良		1	2	7	9	6	22	11	7	18	36	18	16	24	58
30	○和歌山	1		1	2	1	1	4	2		4	6	4	1	5	10
31	○鳥取			5	28	14	12	54	19	10	16	45	47	24	28	99
32	島根			1		8	2	10		8	2	10		16	4	20
33	岡山	1		1	8	5	4	17	3	3	5	11	11	8	9	28
34	○広島	3	5	11	68	39	29	136	53	49	24	126	121	88	53	262
35	○山口	1	1	6	26	16	18	60	23	33	32	88	49	49	50	148
36	○香川			3	28	19	6	53	30	11	14	55	58	30	20	108
37	徳島	1		2	26	1	5	32	1	10	5	16	27	11	10	48
38	愛媛															
39	高知															
40	○福岡	1	1	3	15	22	11	48	15	20	13	48	30	42	24	96
41	○佐賀	1		1	11	2	3	16	5		6	11	16	2	9	27
42	○長崎	2		2	14	10	17	41	16	14	12	42	30	24	29	83
43	○熊本	1	1	3	11	10	4	25	12	25	16	53	23	35	20	78
44	○大分	2		1	18	3	13	34	11	3	2	16	29	6	15	50
45	宮崎															
46	○鹿児島	1		1	2	4	2	8	9	6	6	21	11	10	8	29
47	○沖縄	1	1	3	25	13	7	45	6	17	5	28	31	30	12	73
合計		66	60	176	896	773	689	2358	975	1036	812	2823	1871	1809	1501	5181

○高体連加盟 35都道府県 340校＋α

第３回ジュニア世界選手権大会
第３回世界Ｊｒ．選手権大会

チームキャプテン
滋賀県立草津東高等学校　教諭　立　入　彰　修

私の海外遠征も今回で４度目となりました。４度目とは言うものの今回は前回までの男子コーチと違い、チームキャプテンとしての遠征でした。今回は技術指導はコーチの五百蔵・池田両先生におまかせし、私は現地でのマネージメントと選手達のメンタル・コントロールに徹しました。

前者のマネージメントには私も大変苦労をしました。バスによる計画輸送は欧米人独特のおおらかさと言いますか、時間の曖昧さでお手上げ状態でした。チームキャプテン・ミーティングや試合中に流れるイタリア語訛の英語を聞き、即座に判断し、コーチ・選手達に連絡しなければなりませんでした。飛行機搭乗の為のチェックイン・入国審査・出国審査・ホテルへのチェックイン・支払い・試合結果のファックス・試合終了後に行われたバンケットでのスピーチ等、その他誌上に書き尽くせないほどの仕事がチームキャプテンにはありました。しかし頼りないチームキャプテンも両コーチの先生方のサポートにより、何とか無事に帰国できました。両先生方には大変迷惑をかけたと反省しております。

後者のメンタル・コントロールは、コーチの両先生と相談のうえ、前回の世界Ｊｒ．大会より密度の濃いメンタルトレーニングを実施しました。

まず、選手決定のその日に丹田呼吸を教え、毎日練習前の20分間にその丹田呼吸の実施を義務づけました。その他に呼吸をしながらのイメージトレーニングの初期段階の練習も実施させました。

最初の合宿（７月25日から７月31日・広島国際大会）までにはかなりの選手が呼吸もマスターしており、イメージも描けるようになっていました。合宿初日は折からの台風の影響で練習できなかった為、メンタルトレーニングを実施しました。丹田呼吸の中で自分のgood-shootingをイメージさせ、矢がすべてゴールドに吸い込まれる映像を頭の中で描かせ、試合（広島国際大会）に臨みましたところ結果は良好でした。

広島国際大会が終了後は最終の合宿までに、以下のメンタルコントロール練習をさせました。

＊　練習前20分間、呼吸をしながら、試合中の自分がミスをしても焦ることなく、堂々と試合をし、最終まで落ちついてshootingしている自分をイメージする。

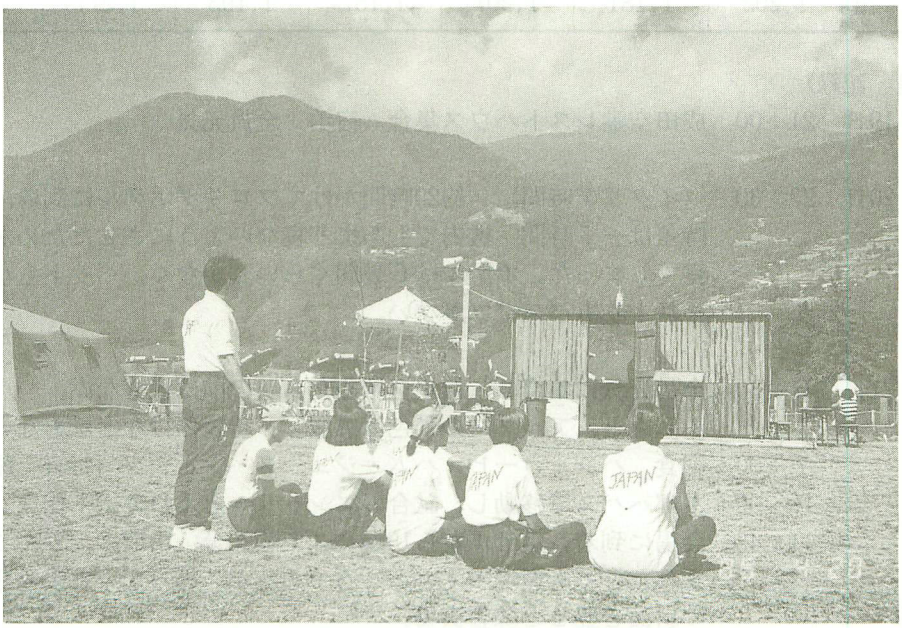
最終合宿（８月14日から15日）では、丹田呼吸をしながら心の中で50からカウントダウンさせ、「自分は旨いんだ矢が外れる訳がない。」というふうなプラスの内言をさせました。これは短時間で脳波の α 波が出せるようにするためのものです。この呼吸とプラスの内言は試合（世界大会）が終わるまで毎日続けさせました。その他にコーチ陣の資料として、選手がどのような心理状態にあるのかを把握するため、ＰＯＭＳ・ＴＳＭＩ・ＭＴＴＮのテストを実施し、その結果を分析し、選手への接し方や話す内容を検討し、コーチ陣の意志の疎通をはかりました。その結果彼等のもっている実力を、本番で発揮させることができたと思います。今回実施したメンタルトレーニングの詳細は、昨年12月におこなわれた

全国指導者講習会で、詳しく報告させていただきましたのでそれをご利用下さい。

しかしながら、今回の世界Jr.のレベルが今までとは全く違いました。それは韓国の初参加もありますが、一番の原因は、参加年齢制限の拡大であると思われます。昨年度のフランス大会に出場していた選手が、今回の大会にも沢山出場していました。そんな状況の中で自分たちの力を発揮し、団体五位に輝いた男子は立派だと思います。女子は残念ながら決勝ラウンド一回戦で敗退しましたが、予選ラウンドの成績はとても経験２年とは思えない頑張りでした。

日本のアーチェリーは世界から後れをとっていると私は思いません。私は過去３年間中学校からの選手育成及び、全国指導者の統一見解等を上げてきました。中学校からの選手育成はまだまだ課題はありますが、高校の指導者には毎年12月に行われている全国指導者講習会で、全ア連からの「基本射型の考え方」が伝えられ、それは浸透したと思われます。

今回も各国のコーチから社交辞令ではあるとおもいますが、「たった２年の経験で日本チームの健闘は素晴らしい。」という賞賛の声を聞きました。日本がシニアの大会で対等に世界と戦うには、高校優秀選手の大学及び企業での受け皿と、そのチームの指導者の育成ではないかと思います。他のスポーツに見られるような企業のバックアップが必要ではないでしょうか。そして中体連・高体連・大学学連・実業団・全日本アーチェリー連盟強化部が、自分たちの範囲の中で事業などを進めて行くのではなく、各々がコミュニケーションを取り、一致団結した強化策を取らないと日本は今後世界のレベルから後れを取るのではないでしょうか。



現地でのメンタルコントロールの練習風景

第３回世界ジュニア選手権大会参加報告

イタリア　ロンチェグノ　1994.８.19～31

日本代表チーム男子コーチ
神奈川県　横浜高等学校　池　田　幸　一

《日本代表男子チーム》

園田　孝史　　神奈川　　横浜高等学校
桜井　隼　　東　京　　東京工業高等学校
角野　良太　　神奈川　　横浜高等学校
吉田　慶二　　奈　良　　奈良高等学校

〈選考結果〉

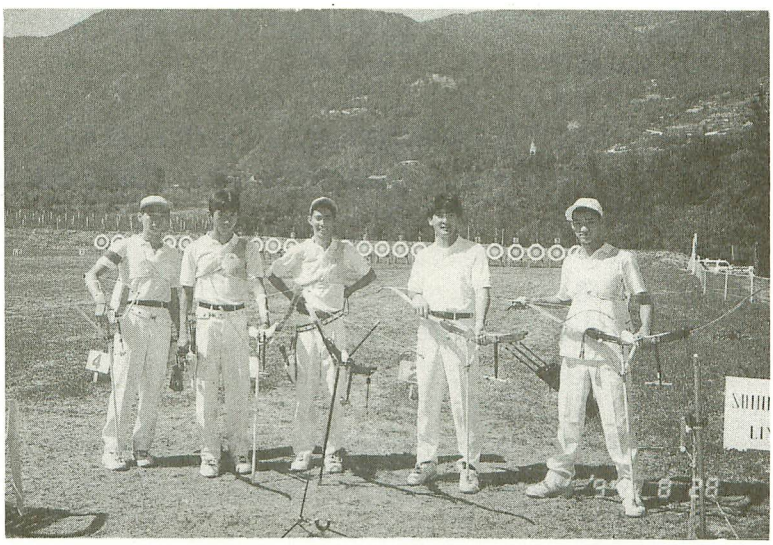
	選　抜	２次選考会		最終選考会		広島国際	平　均
園　田	1,282	1,187	1,263	1,230	1,281	1,240	1,247
桜　井	1,188	1,209	1,223	1,176	1,181	1,242	1,203
角　野	1,181	1,194	1,229	1,143	1,208	1,221	1,196
吉　田	1,202	1,181	1,207	1,157	1,193	1,211	1,192

〈日程・記録〉

８月19日　21：00　成田空港レストハウス集合　宿泊　全員元気

20日　23：30　（イタリア時間）　約20時間かけてフロリダホテルに到着。
時差は－７時間　機内でもあまり寝ないようにさせたためかすぐに寝てしまった。ホテルは６畳間ぐらいしかなく、ベッドも小さい。それよりもバスタブがない。

21日　６：30　全員元気に集合し、散歩を始めたら目の前は大きな湖。
涼しさと、アルプスの景色に感激し、時差ぼけなど誰もない。
７：00　朝食　パン・コーヒ・ハム・ジュース・フルーツ（毎日一緒）
10：00　本部へバスで移動し、試合のエントリーとＩＤカード作成。
11：45　会場に到着。ホテルから15kmバスで約20分、山間の、りんご畑に囲まれたとても環境のよいところであるが、思っていたより狭い。崖の斜面を登ると練習会場。
13：00　練習再開　全員気持ち良く射っている。
16：30　ホテル着
19：30　夕食、メニューは昼食とあまり変わらない。
20：30　全体ミーティング　後　男子ミーティング
21：00　選手達は全員寝てしまった。



練習会場にて

22日　6：00　起床
　　6：30　体操・ストレッチ
　　7：00　朝食
　　8：00　出発
　　8：45　練習
　　園田　全距離当たっている
　　桜井　平均的である
　　角野　レストアップがでる
　　吉田　ほとんど右に集まる
　　13：00　昼食
　　14：30　バス発
　　15：00　ホテル
　　16：00　散歩中約30分歩いたら大きなスーパーマーケットを発見。少し買い物の時間を与える。
　　19：30　夕食
　　20：30　ミーティング
　　21：00　選手のＰＯＭＳシステム分析
　　今日まで２日間ここにいるが、午前中は気候が涼しくたいへん過ごしやすいが、14時から17時までの時間は、日本の夏と同じでたいへん暑い。男子の場合は、午前中が主なので、なるべくその時間に練習するようにした。

23日　6：00　起床
　　6：30　体操・ストレッチ
　　7：00　朝食

8：00　出発
9：00　公式練習
11：00　弓具検査
　12時まで公式練習は続いたが、運営がのんびりとしており、3時間で6射を12回ぐらいしか射てなかったので、練習会場で気のすむまで射たせた。
13：00　昼食
14：30　バス発
15：00　ホテル着　45分後発
16：20　再び会場へ
17：00～18：30　開会式
　選手がＩＤカードを紛失し、イタリア語の本を持って本部へ、なんとか言葉が通じ、再発行してもらったが、たいへんだった。
19：30　夕食
20：30　ミーティング
　今日は朝から雨が降っていたが、昼からは晴れた。標高が分からないが山岳地帯なので天気は変わりやすい。

24日　大会第１日目　90m・70m（雷雨）
起床他スケジュールはこの日のために合わせていたので、同じ。
8：00～8：45　フリートレーニング（4回）
朝から雨が止まず雷がかなり鳴っている。

開会式の前

《選手の目標》

園田　イタリアに来てからは体調がとても良い。練習では、身体の中心から外へ伸ばすようなイメージがよいので、ポイントを押し手の肩に置いて、外れても顔に出さず楽しく射ちたい。

桜井　今日まで身体の異変は全く無い。練習でも全体的に力まずにとてもいい感じで射てた。ミスをしたときは、引き手の手首に力が入っているなど、だいぶ分かるようになったので、試合では、引き手の手首と、肩のラインを少し気にして射ってみます。

角野　体調はとても良い。練習では、あまり当たってないがタイミング良く、自分のリズムで射つことだけ考えていたので、気分良く射てた。試合でもこのことだけ考え、伸び伸び射ちたい。

吉田　練習中（22日）90mで301点を射った。うれしかった。しかし左上の黒を狙って射ったので、少し不安が残る。50mで右に行くのを直そうと努力した。結果はエイミングで力を入れないでおこうということだった。力まず射とうと決めた。

9：10～10：40　90M

11：00～12：10　70M

9：00に始まる予定が10分伸びた。アナウンスでは『５分前』と放送してから15分経過している。気温15度ぐらいで、雨はかなり降っている。だけど他の役員達は楽しそうに笑っている。本来なら女子から先に試合を行うものだがなぜ男子から始めるのかが分かった。的を移動する手間が省けるからだ。

つまり運営も審判も楽しく、楽なようにやっている。我々も選手たちにじれったさやいらだちを感じさせないよう努めた。

《結果１》

園田　281・311＝592点　24位　団体７位

桜井　284・310＝594点　20位

角野　281・300＝581点　36位

吉田　254・281＝535点　82位

『選手の個人の意志に任せたい・試合を十分に楽しんでもらいたい』

この２点を主に考え、結果がどうであれベストの状態に持っていくことを考えていましたが、ひとりひとりに簡単なアドバイスを出すことにしました。思うように当たらず他の選手と比較してしまっている時は、すぐ後ろについて励ましたりで、必要なことはこちらも真剣になることだと感じます。

試合終了後すぐに練習会場へ行き、今日の反省を活かし練習。

13：30　昼食

15：30　帰宿

21：00　全員寝る

25日　大会第２日目　50m・30m　（曇り）

起床後のスケジュールは同じ。

8：00～8：50　フリートレーニング（６回）

9：15～10：15　50m
10：25～12：20　30m

《結果２》

園田　313・340　1,245（24位）　団体11位
桜井　306・340　1,250（27位）　3,698
角野　294・328　1,203（56位）
吉田　303・327　1,165（80位）予選落ち

30mからは、６射毎の集計が電光掲示板に出ていたので、選手も自分がどの順位にいるかが分かる。ボーダー64位にいちばん近いのが角野で吉田は届きそうもない。団体は８位から徐々に下がりつつあったが、有利な位置は11位である（韓国と当たらない）。かといって、選手に『外せ』という指示は出来ないので、桜井・園田には『敵と戦っているつもりで狙い込め』と言った。結果は成功し、順位は11位に落ち着いた。彼ら２人にはこのようにすると乱れるなと、個人戦でのアドバイスも出来た。

これも立入氏のアドバイスと協力のおかげである。

昼食を含め14：30まで練習をし、16：00帰宿。

21：00には消灯　明日は試合がないので起きているかと思っていたら全員寝ている。良く寝る選手達だ。

26日　大会３日目　女子個人戦（晴れ）

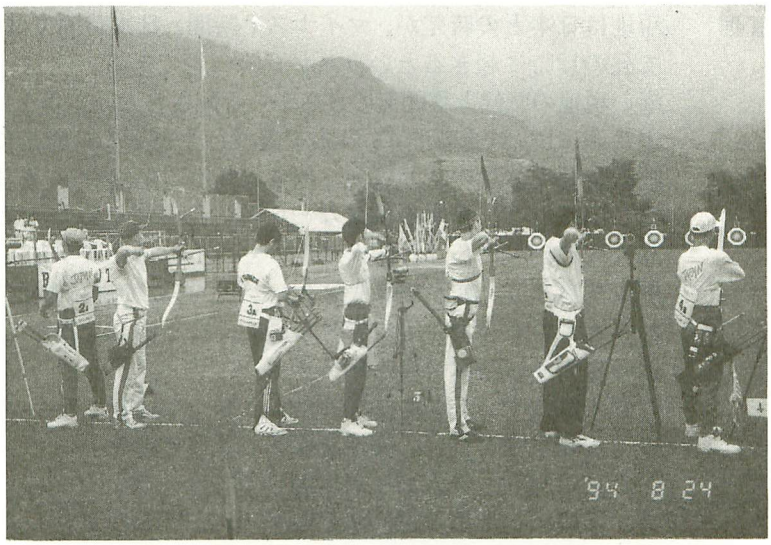
８：00　起床　体操後　朝食
10：00より13：30まで練習。　70m

今日は、練習会場にいる他国の選手に試合を申し込み実践した。
桜井　フランスの選手と試合　167点（６射×３回）で勝つ。
（相手160点）
園田　イスラエルの選手と試合　150点で負け。
（相手156点）
角野　トルコの選手と試合　154点で勝つ。
（相手は150点）
14：00より45分間　調整　15：45 帰宿

27日　大会４日目　男子個人戦（曇り）

６：00　起床　6：30　体操　6：45　朝食　7：10　出発
8：00～９：00　練習会場にて練習
９：00より１回戦　１／64　（６射×３回）
桜井（24位）158点　バケレイト・ジェイソンＵＳＡ（41位）158点
シュートオフ　８点　対　９点　で桜井の負け。
園田（27位）157点　曽　冠　諦　台北（38位）160点
角野（56位）140点　栄　勝　賢　韓国（９位）158点
３名とも１回目・２回目までは勝っていた。とくに角野は５点も勝っていたが３回目にミスをしている。他の内容は良かった。練習通りの

結果が出たと思う。
最終順位　桜井　33位　園田　35位　角野　61位
10：00より気持ちを新たに団体戦の練習を始める。
タイペイの監督に団体の練習試合を申し込んだら引き受けてくれた。
１回目　246点　ＶＳ　240点で日本の勝ち。（１人３射×３名）
２回目　238点　ＶＳ　242点で負け。



競技の最中

28日　大会５日目　団体戦（曇り）
朝のスケジュールは昨日と一緒。
８：00～９：30まで練習
試合開始まで時間があったので、迷ったあげく予選７位のイギリスと練習試合を行った。結果は248ＶＳ248と同点でタイブレークまで練習できた。
９：35　試合開始15分前の放送があったので、円陣を組もうとしたら試合開始のブザーが鳴った。
一回戦の相手はロシア、（予選６位）1,300点を射つ選手もいる。急に試合が始まったせいか、まだ日本の選手達には、先ほどのイギリスとの練習試合の余韻が残っていた。
一回戦１／８　対　ロシア　238ＶＳ235で勝つ。
10：00　二回戦の相手はアメリカ（予選３位）。しかも一回戦では、253点というスコアーを出している。
二回戦１／４　対　アメリカ　234ＶＳ　243で負け。
二回目の９射までで４点勝っていた。三回目の９射で相手は86点を出した。個人戦の時と同じである。
以上で競技が終わってしまった日本は、練習会場で少し練習をした。

16：30閉会式　２時間はかかった。
20：00　バンケット
29日　8：00　バスに乗りミラノへ。　ミラノ泊
30日　14：00　ミラノ　マルペンサ空港　発
31日　8：30（日本時間）　成田空港着後　解散

〈コーチング内容〉

体調の維持・管理　現地は日本との時差が、マイナス７時間。日本時間では朝５時に寝て昼の12時に起きるというスケジュールである。
幸い現地の気候と雰囲気の良さから心配された時差ボケはなかった。
選手達には、試合時間が、日本で普段行う練習の時間帯であること。睡眠時間や休息の時間は多く取り入れること。疲れや身体の異常は、申し出ること。生水を飲まない。等の指示で平気だった。

練習について　立入氏の経験から、『外国人に良いところを見せようとするので練習は良く当たり、本番で悪くなる』ということを聞いたので、初日は、わざと、エイムオフや多少射ちにくくなるような指示を与えた。後は各自の練習時間等は希望に準じた。
　個人競技や、団体競技の練習はなるべく試合に近づけるよう他国の選手と試合を行い、交流を深めるようにした。

心理面について　１，ＰＯＭＳ　個人別・尺度別のデーターチェック
２，ＴＯＭＳ性格・精神状態のデーターチェック
３，呼吸法
以上の３項目を

団体戦終了後全員で

〈反省と感想〉

今回のジュニア大会前に、年齢制限が改制され、1976年１月１日以降に生まれた者全員が参加可能となり、ＦＩＴＡでも、ジュニア公認記録が設立されました。出発前まで、過去２回の記録を見ても、上位が狙える期待がありましたが、どんな結果であろうと将来に繋がる有意義な試合であってほしいと思っていました。

一人一人の性格的な長所・短所を把握する事を考え、指導に結びつける判断は、立入先生（チーム・キャプテン）の行ったＰＯＭＳシステムや精神分析の結果を見て、自分の学校の生徒の内容が、ほぼ、一致しており、他の２名の選手のアドバイスに、大いに役立ちました。また、女子コーチの五百蔵先生のジュニア大会３度目の経験や、指導法も大変参考となり、心理面、精神面は万全の体制であった事は確かです。

代表となった日本チームの四名は、フォーム（技術面）で直したい所もありましたが、私個人の考えであったため、また、外国人の技術を見てしまうため、直さず、自信を持たせ良い所を最大限に伸ばしてあげる方針を取りました。

一つ、残念に思ったのは、一名が、自信を失い、予選64位までに残れなかったのが腑いない自分の反省点です。

結果２をご覧になればわかる通り、世界のジュニアでさえ、1,300点，を越える者が男子だけで、７名も居ます。他にもまだ可能性のある者が何名もいると思います。また決勝ラウンドに参加出来る、64位のボーダーは1,194点で、日本で行う高校生大会のレベルとは違う事が分かります。外国選手のアーチェリー経験年数（キャリア）が違う事が、一番ですが、どこの国の監督も日本人選手の『２年半』というキャリアには「信じられない」と驚いており、「将来が楽しみだ」と言っていましたが、Ｖバーも付けず、センタースタビのトリプルで全員が射ったアメリカ、正十字で基本が出来ているイタリア、ボクサーの様な体型で安定している韓国等を見ていると私には皮肉に聞こえます。

技術的に比較にならない程、レベルは違いますが、唯一、勝っているのが弓具面で、他国も感心があったようですが、シューティングとなれば、全く見向きもされない、これが私の感じた現実でした。

日本の高校生は、経験年数だけでなく、もっと統一した指導体制を作る事が大切ではないかと思います。せっかく選手を育てても、受け入れてくれる大学側が少ないし、体制も今のままでは良くないと思います。インターハイ・国体のみを目標に選手を育てるという考えではなく、少しでも、世界的なレベルに近づけられるよう指導すべきだとつくづく感じました。また、この貴重な経験を、熱心に指導されている方にも体験してもらいたいと思います。

最後に、今大会を経験した４名の選手達がこれを機に成長してくれる事を祈ります。

第３回世界ジュニア選手権大会参加報告

イタリア　トレント　1994．8．21～28

日本代表チーム女子コーチ
兵庫県　甲南女子高等学校教諭　五百蔵　正　雄

《日本代表女子チーム》

横田　知子	大分	大分東明高校
今福　織江	大分	大分東明高校
八木かおり	京都	府立莵道高校
西端　摩耶	兵庫	甲南女子高校

〈日程及び記録〉

8月21日　7：00　日本を出発して約24時間かけてイタリア・トレントに到着したが、選手はあまり疲れていない様子で安心した。毎回恒例のようになっている（とは言っても、選手たちには初めての）朝の散歩も気持ち良くできた。

7：30　朝食。全員良く食べている。

10：00　ホテル出発。

10：30　受付を済ませ、ＩＤカードの交付を受ける。

11：15　練習会場到着。

11：45　練習開始

八木・今福・横田はそれなりに射っているが、西端の調子が少し悪いようだ。選手には各自の好きな距離を射たせ、的中することよりも、今の自分の調子をつかむように指示する。

12：45　昼食。

13：45　練習。(15：30まで)

16：00　ホテル着。少し散歩して、ジュース・アイスクリーム等飲食。

19：00　夕食。

ミーティング。

・今日の練習について。・明日のスケジュールについて。

・睡眠、食事の重要性。・国際交流について。

（※　以下、毎日の選手の反省文を一部加筆訂正し、掲載する。）

今福：体調……　朝は多少眠たいというところがありましたけれど、昼以降は眠たさもなく元気でした。少し夜のごはんで気分が悪くなりましたが、明日になれば大丈夫だと思います。

今日の自分の射の感想…

１、２日弓を引いていないというのもあって、楽に引けてる面もありました。でも、後半からいつものくせのタイミングが長くなるという悪い面が出てきてしまいました。それに、いろいろ考えて引いていること

もありました。

全体的に見れば、それほど乱れもなくて、いつもどおりうてていたのではないかと思います。明日も今日以上の調子で、全て(リズム・バランス・タイミング)を良くし、流れを止めないでスムーズにうっていこうと思います。

先生に質問……

肩で引く(肩の使い方)ということがよく理解できないのですが教えて下さい。

八木：　今日、午前中70Mと60Mを射って、自分の射ち方ができていました。70Mはポンポンと射てていたのですが、60Mになると、クリッカーのタイミングがくるってきて、うまく自分の射ち方ができませんでした。1本的外を射ってしまってから後、びくびくしながら射っていました。

昼からは50M・30Mを射って、50Mは最初バラバラだったのが徐々にグルーピングしてきたという状態でした。五百蔵先生にも言われたことなのですが、リリースがひっかかるときが何回かあって、右にはすずことがありました。だからもっとおもいきって射って、ひじをうしろにすることを意識して射つとだいぶましになりました。30Mは、だいたいクリッカーのタイミングも良くなって、自分の射ち方ができていました。一番気をつけたいことはクリッカーのタイミングと、リリースがひっかからないようにおもいきって射つことです。

体の調子は別になにもおかしいことはありません。

横田：　各距離とも、私が心がけている“ハリ”のある射ち方が出来ていた。時々はずれてしまう矢がいままであったけれど、ここに来ての練習では少なくなった。でも、はずれ矢はなくさなければなりません。「思い切り射つ」ということは出来ていました。

体調は良好ですが、右肩が少しこっていて痛いです。

※　横田の文章中での「はずれ矢」とは、70・50Mでの6点以下、60・30Mでの8点以下を意味している。

西端：　午前も午後もあまり気持ちの良い射ち方ができなかったです。先生に最後に言われたことを守ってみると、感じ良く射つことができました。明日はもっと「思い切り」と「張り」のある射ち方をしたいと思っています。

体調は、快調と言えば快調なのですが、時々お腹が痛くなります。胃の方もこっちに来てから、少し痛いです。

22：30　消灯。

22日　6：00　起床。

6：30　散歩。

7：00　朝食。

8：00　ホテルをバスで出発。
8：30　練習会場到着。
8：45　ランニング・準備運動・ストレッチを20分間。
以後毎回同様に入念なウォーミングアップを行う。
9：10　全員元気良く射っている。西端の調子が悪い。
西端は私の学校の生徒であり、あまり彼女に付ききりになると、他の選手の手前もあるので十分指導出来ない。少し悩む所である。
13：00　昼食。
14：00　練習会場発。
14：20　ホテルに戻り、近くのスーパーマーケットへ買い物に出る。
以後、夕食まで自由時間。
19：30　夕食。
20：30　ミーティング
・明日のスケジュール。・明日の練習内容と方法。
・食事時の日本選手の様子について話す。
・心理テストを行う。

今福：体調……　良好であります。
今日のシューティング……
今日は今までよりも良いイメージで射てていたように思います。バランスも良く、だいたいリズムも同じくらいで射てていたと思います。でも体力不足のせいもあり、クリッカーが切れなくなると引き手が少し震えてしまって、すごくぎこちない、タイミングの合っていないリリースになってしまいがちです。
明日心掛ける事……
明日も今日のようなイメージで、もっとタイミング良く射てるようにしたいと思います。
そして、自分らしいシューティングをして、自分の体のおぼえている通りに射っていこうと思います。

八木：　今日の練習は、最初に60Mを射ちました。風があったのでエイムオフをしていたのですが、射つ瞬間にサイトをゴールドにつけてしまってエイムオフにならない時があったので気をつけたいです。あとは普通通りに射てていましたが、時々射ち方が雑になってしまってフォロースルーがおろそかになっていたので、明日の公式練習や試合では、一射一射丁寧に射っていきたいです。

横田：　左から右に風が吹いていて、矢が流されやすかった。左の青をねらって、右の赤以内で止めることが出来てたのでまずまずだと思います。
射ち方ではあまり気になるようなところはなかったです。
明日から始まります。
試合では自分らしいハリのある、そして気持ち良く射てるよ

うにイメージを大切にします。

西端：　背中で引くことを意識して射つようにしました。最後には、先生が押さえた時のタイミングを自分でもわかるようになったので、明日もそこを意識して思い切り良く射ちたいです。

22：00　消灯。

23日　6：00　起床。
6：30　散歩。
7：00　朝食。
8：00　ホテル出発。
8：30　競技会場到着。
9：00　公式練習。(12：30まで)
各自自由に好きな距離を射たせる。
13：00　昼食。
14：00　競技会場発。
14：20　ホテル着。
開会式出席の準備。
15：45　ホテル出発。
16：15　競技会場到着。
17：00　開会式。(アトラクションを含め、18：15まで。)

上空からイタリアの国旗をたなびかせ、パラグライダーが降りて来る。会場中央に置かれた120cmの的の中心に見事に着陸！「あんな小さいところによくもまあ」と思わず拍手。イタリア軍の軍隊員によるマーチングバンド演奏、地元の人達による民族舞踊の後、7歳くらいの子供の、始球式ならぬ始射式（？）。5Mの距離から3射満点。総じて面白い開会式であった。

19：00　ホテル着。
19：30　夕食。
21：00　ミーティング。明日の予定を伝達。

全員の体調は良好。快食・快眠・快便の確認が出来、選手とのコミュニケーションもしっかり取れ、コーチとしては嬉しくもあり、満足である。

今福：体調……　少し眠たいくらいで、後は全然平気です。
今日のシューティング……

今日も今までと同じで、うまく射てていたと思います。でも、今までよりもエイミングは長くなかったです。だいたい同じリズムで射てていました。射っている自分もすごく気持ちが良かったです。

自分は今日先生がおっしゃっていたように、点が悪いと顔に出てしまうタイプです。自分が気持ち良く射てていたのに点数が良くないと、首をかしげてしまって、気持ちの上で落ちこんでしまうパターン

が多いです。そこで、試合中の自分の課題ですが、①最後まであきらめずに自分のシューティングをする。②点数で負けても気魄で負けない。そうしながら試合を楽しんでいきたいと思います。

八木：　今日はいつもより弓が重たく感じて、クリッカーを切るのが遅くなった。だからエイミングも長くなってしまって、クリッカーのタイミングもばらばらでした。とにかく流れを止めないで、毎回同じタイミングで射てるようにしていきたいです。明日からの試合では、練習通りにいつものペースで射てるようにしていきたいです。試合だからといって、いつもとちがう射ち方にならないようにしていきたいです。

横田：　射ち始めは思うように射てず、思い切りがなくてグルーピングもしていなかった。しばらくすると思い切り射てるようになり、いつものペースが戻ってきました。明日からの試合では、自分らしくのびのびとした射をし、ハリのある、そして攻めていく試合をしよう。

楽しく試合をするぞ!!

西端：　今日は昨日よりも少し気持ち良く射てて、最後の30M でも思いっきりのある射ち方が出来たと思います。

明日は後で悔いが残らないように、自分の射ち方で思いっきりいこうと思います。体調は快調です。

22：00　消灯。

24日　6：00　起床。

6：30　散歩。

7：00　朝食。

午前中は男子の競技が行われるので、ホテルの玄関で壮行。

11：00　ホテル出発。

11：30　競技会場到着。

昼食。

14：00　競技開始。70M・60M

やや風あり。全員頑張っている。

	今福	八木	横田	西端
70M	296	288	297	299
60M	319	323	314	295
合計	615	611	611	594

17：00　競技終了。

19：30　夕食。

ミーティング。明日の試合のスケジュールについて。ルールの確認。

21：30　消灯。

午前中の天候は晴。午後も晴。日向は暑く、日陰は涼しい。湿度が大変低いせいか、汗をかいてもすぐ乾く。それ以上に、１日中のどが渇くのには少しだけ悩まされた。

今福：体調……　全くもって、健康であります。
今日のシューティング……
今日は70Mがあんまり伸びずにすごくくやしい思いをしました。なおかつ60Mの１エンド目が48という悪い出だしで、半分あきらの面もありました。その時の先生の「思いきり射て!!」の一言で目が醒めて、「うおっしゃあぁっ!!いつもの自分の思いきりのいいシューティングをしよう」と思ってから、とにかく点数ではなくて、迫力のある射をすることだけを心掛けて、スコープもあまり見ずに同じリズムで射っていきました。すると、的に面白いほど当たりだしました。自分の思い通りに射てるようになってから、試合が楽しくなりました。
明日は始めからそんなふうにして射てるように心掛けたいと思います。

八木：　今日の試合は70Mでおもいきって射つことができませんでした。当たらないので当てようとして、よけいに射ち方が悪くなってしまいました。最後まで自分のおもっている射ち方ができませんでした。60Mになると、最初の１射目がおもいきって射てていたので、60Mはそのままいい調子で射てました。明日の試合ではおもいきって射てるようにしたいです。

横田：　70M・60Mのいずれともはずれ矢が目立つ気がした。でも、ほとんどの射で思い切って射つ事が出来ていたので、昨日心掛けた「攻める射ち方」というのが自然と出来ていたと思います。何エンドか思いきり射っていてもスコアがついてきてくれない時もありました。試合で楽しんでプレーする事が出来、明日につなげることが出来たと思います。射ち方としては、気になるような点もないように思います。
自分らしい射をやるぞ。

西端：　70Mは、自分の射ち方ができて、とってもよかったと思います。60Mは70Mとはちがい、思いっきりも足りなかったし、自分のリズムが少し70Mとちがいました。でも、最後の２回は、明日につなげる射ち方ができたので、よかったです。明日は、楽しく思いっきり試合をしたいと思います。団体の３人の中に残れるように頑張ります。

25日　7：00　起床。今日は男子とは散歩・朝食など別行動。
8：00　散歩。
8：30　朝食。
11：00　ホテル出発。
11：30　競技会場到着。
昼食。
14：00　競技開始。50M・30M

	今福	八木	横田	西端
50M	303	315	289	298
30M	342	336	312	329
合計	1260	1262	1212	1221

18：30　競技終了。団体予選順位９位　団体得点3743点
19：45　夕食。
ミーティング。
21：30　消灯。

今福・八木には試合の30Mにおいて、プレッシャーをかけたり、早く射たせたり、サイトピンを留めさせたりｅｔｃ.色々な射ち方をさせた。

横田は総合点数で４番手であったが、本人の調子そのものは決して悪くはなく、逆に私が技術的・精神的に立ち直れるようなアドバイスをしてあげられず、彼女の持てる力を生かしきれなかった点に責任を感じる。しかし今日の感じからすると、明日の個人戦において一番活躍しそうな気がする。点数そのものは悪かったが、内容のある試合をしていた。団体戦の事を考えると、トーナメントでＫＯＲＥＡと早期に対戦しないために日本チームの順位を下げる指示を出そうかとも思ったが、今まで子供たちに「精一杯頑張れ」と言い続け、また、一所懸命射っている彼女たちの姿を見ると、どうしてもそれは言えなかった。全員初めての海外遠征であるにもかかわらず、全員が1200点を越えるなど、各々が自分の持っている力を出すことができたのは本当に素晴らしい。

今福：　今日は50Mではあまり点数が伸びませんでしたけど、30Mはすごく気持ちよく射てていました。30Mでは、先生が「自分にプレッシャーをかけて射て」と言われたので、自分自身「10点に入れなきゃいけない。これははずせない！」と思いながら射っていました。すると、これが不思議なことによく当たりました。１本だけ６点に外れましたが、あとは10・10でなんとか挽回できたのがよかったです。いつも試合の時は、30Mの３エンド目くらいから自然に（勝手に）プレッシャーがかかって、縮こまった射になりますが、最初からプレッシャーをかけておくと後になってもかからないので、すごく楽に射つことができました。

今日の試合では、それを学ぶことができたと思います。一つエラクなったような気がします。

八木：　今日は50M・30Mともじぶんなりによく射てていました。引き戻しが多かったのですが、タイミングよく射てていました。30Mの後半からは少しねらいすぎてしまって、思い切って射つことができませんでした。

全体的に今日の射ち方はよかったと思います。

横田：　思うように射っていても、ゴールドに嫌われていてなかなか入ってくれなかった。

必ずはずれ矢があり、そのはずれ矢がゴールドの近くであればいいのだけれど、青まではずれてしまっていて、どんどん自分でスコアを下げていっているようでした。自分ではまっすぐのラインで射っているのにはずれてしまうので、その原因が分からなかったけど、思い切り射てていたのはよかったと思います。

楽しんでプレーできたと思うけど、もっともっと楽しみたかったけれど、とりあえず今日は、明日につながる射ができたと思います。

西端：　50Mは、自分なりに思いっきり射てたと思います。30Mは初回にサイトのばねが取れてしまって、少し焦りましたが、射つ時はそれほど緊張せずに射てて、10点に入った時は、とてもうれしかったです。とても良い経験ができたと思います。

今日は昨日より楽しく射つことができました。明日は、今日よりもっともっと楽しく射ちたいと思います。

26日　6：00　起床。
6：30　朝食。
7：00　ホテル出発。
7：30　競技会場到着。
8：00　練習。
9：00　個人戦競技開始。

今日の個人戦の１回戦では、予選44位の横田と21位のイタリア選手、42位のポーランド選手と23位の八木、そして39位の西端と26位の今福がそれぞれ対戦することとなった。西端と今福の日本人直接対決は、仕方がないことではあったが、どちらかが確実に２回戦へ進出できるので、やむを得ず見守るしかなかった。

個人戦１回戦結果

◎横田137点：イタリア選手137点（シュートオフ10：８により、横田２回戦進出）

◎八木147点：ポーランド選手148点（結果、八木　個人成績33位）

◎西端126点：今福137点（結果、今福２回戦進出・西端　個人成績49位）

個人戦２回戦結果

◎横田144点：フィンランド選手141点（結果、横田３回戦進出）

◎今福148点：スウェーデン選手152点(結果、今福　個人成績21位)

３回戦１/８ファイナルで横田が対戦するのは、予選５位（1299点）のSteinborn Sabine選手（ドイツ）。

個人戦３回戦結果

◎横田136点：ドイツ選手142点（結果、横田　個人成績12位）

全員善戦したと思う。

12：30　昼食。

13：30　練習。

次の団体戦に向けて練習。

15：00　競技会場出発。

15：30　ホテル到着。

16：00　町へ散歩に出かける。

19：30　夕食。

ミーティング。

今日も風が強く、なおかつ、時々風向きが変わり射ちにくかった。やはり、低ポンドの日本選手は不利であることを痛感した。

21：30　消灯。

今福：　今日は思い切って射てていたように思います。リズムも早いリズムで……。風もある程度読めて射てていたと思います。

１回戦の時は、風を気にしてしまって、エイミングが長くなってしまい、指に力が入って、５点を射ってしまうハメになりました。

２回戦の３エンド目で、自分ではすごくいいリズムで射てていて、少しアップ目の赤くらいで止まっているかナ？と思って、スコープものぞかずそのままで射っていたら、みごとなまでに赤から出ていて、とても悔しかったです。

でもこの試合に出場できたお陰で、自分はうまくなれたような気がします。

今度は団体戦です。みんなを引っ張っていけるよう努力してがんばっていきます。

八木：　今日の試合は１回戦で負けてしまったのですが、自分としてはいい試合ができました。いつもこういう試合になると緊張して、自分の射ち方ができないのですが、今日は緊張しないで思い切って射てました。立入先生に言われたことなのですが、教えてもらった呼吸法をしていたので緊張しないで落ち着いて射てていたと思います。

横田：　今日の試合は良いプレーが出来、１本でも多く射てればいいな……と思っていました。１回戦目でシューフオフをするなど、良い試合が出来て、自分でも伸び伸び射つことが出来たと思います。

「思い切り良く射て」「思い切ってやれば良い結果が出る」と分かっているけれど、それ以上に思い切ってやることが必要だとも分かりました。そして自信もつきました。シュートオフの時は、シューティングラインに入るまでは「早く射つぞ……」と思っていたのが、始まってからは何も考えずに射っていました。最後は風に流されもしましたが、気持ち良く射てました。

西端：　今日は風が自分で思っているよりも強くて、矢が風に流されてしまいました。あまり自分で納得のいく試合ができなかったです。練習の時も、自分で「入った」と思った矢がダウンすることが少しありました。

団体戦では悔いの残らない試合をしようと思います。

27日　7：00　起床。
7：00　散歩
7：30　朝食
今日は男子団体戦のみの日なので、女子はゆっくりと練習に向かう。
11：00　ホテル出発。
11：30　競技会場到着。
11：45　練習開始。
各自個人での練習を45分ほど行い、その後団体戦の練習をする。
近くにポーランドの選手がいたので、テストマッチを申し入れて実施する。
これには負けたが、選手や私にとってはいい練習が出来た。
15：00　練習会場出発。
15：30　ホテル到着。
19：30　夕食。
ミーティング。とにかく明日は頑張ろう。悔いのないように。精一杯やろう。
21：30　消灯。

今福：　今日はあんまり良いシューティングができていたとは言えないです。なぜなら、気持ちの上でのることができないでいたからです。チーム戦の時も自分では集中しているつもりでも、自分の思い通りの射ち方はできていなくて、取りかけはいつもの位置よりずれているし、押し手を左に振ってしまっているし、と、あまり良いものではありませんでした。

50金を出したときもそのままいけばいいのに、集中力が欠けて、残りの矢はバラバラというハメでした。自分がチームの一番手で点を入れていかなきゃいけないのにどうしても入らず、自分に嫌けがさしていました。自分自身を冷静に判断してコントロールすることができなかったと思います。

明日はそうならないように、自分をコントロールしていけるように努力します。そして、自分の持っている力を100％出し

てがんばります。

八木：　今日の練習では、個人で練習している時はふつうに自分の射ち方ができるのですが、団体戦の練習になると、ねらいすぎてエイミングが長くなりました。それと、指に力が入りすぎて、何本かアップする矢がありました。

明日は思い切って射てるようにしたいです。

横田：　フリー練習で２時間ちょっとしか射てなかったけれど、気持ち良く射てていた。はずれ矢もあったが、ほとんどがイメージ通りに射てていた。

明日は試合には出られないけれど、私の分も思いっきりプレーしてきて下さい。

西端：　今日は気持ちよく射てました。明日は、射つ前にしっかりイメージを作り、自分の射ち方をしようと思います。

明日の試合が終わった時に、悔いが残らないように頑張ります。

28日　６：00　起床。
　　６：30　朝食。
　　７：00　ホテル出発。
　　７：30　競技会場到着。
　　８：00　練習。
　　８：00　団体戦競技開始。

「今日は２回戦でＫＯＲＥＡと対戦する。どのような戦い方をすれば良いか……。多分ＫＯＲＥＡは優勝するだろうから、どこまで通用するか、とにかく頑張らせよう。」と、いらぬことを考えているうちに、１回戦の対ＴＡＩＰＥＩ戦の２エンド目。なんとしたことか、すでに16点差をつけられている。「しまった！」と思っても点差は大きい。至急にアドバイスをするが、最終の３エンド目で２点差まで挽回するのがやっと。結局、208対210で敗退。団体成績９位。１回戦突破もならなかった。まだ対戦していないＫＯＲＥＡ相手に、まだ見ぬ敵相手に、すでに精神的に負けてしまっていた。

今福：　団体では惜しくも負けてしまい、すごく悔しい思いをしましたが、この負けも無駄にせずにプラスに持っていって、アジア大会ではこんな悔しい思いをしないように帰ってから猛練習しようと思います。帰ってからすぐに九州大会もあるので今度の経験を上手に活かしたいです。前にも書きましたが、自分はまだまだこれから沢山の試合に出ます。息を抜く暇もないくらい忙しくなると思いますが、頑張ろうと思います。

八木：　団体戦は負けてとても残念だったけど、自分としては頑張って最後まで気を抜かずに射てました。１回目、みんな不調だったけど、先生方が楽しい試合になるようにということを何回もおっしゃっていたことを思い出して、次を頑張ればいいとプラ

スのイメージにもっていけました。２回目は10点以上も差がついたけど、あと１回あるんだから次の回に頑張ればいいと思えるようになりました。結果は負けてしまったけど、３回目にすごく追い上げることができて、自分としても満足しています。

横田：　団体戦には出場できなくて、この試合会場で射つのも最後なので、伸び伸びと射つことを心がけました。自分でも思い通りに射てて気持ち良かったです。悩みながらやっていたのでは、伸び伸びと射てません。イタリアに来て悩みなどは何もなかったので、自分らしい射ち方が出来ていました。そして自分の良いところを見直すことも出来ました。９月に入るとすぐに試合があるので、それにも活かそうと思います。

西端：　今日の団体戦では、先生に言われたように、ふくちゃん（今福）が射ち始めたら自分の射のイメージを作りました。最初の３本はけっこうスムーズに射てたのですが、後の２回は、３本中１本がアップしてしまいました。多分、指に力が入っていたのだと思います。練習の時はけっこう思いっ切り射てていて、自分なりに良かったのですが、試合では練習の時の思い切りの良さが足りなかったのだと思います。これからはこの悔しさをバネに、試合の時はいつでも練習と同じように思い切り射てるように頑張りたいです。

今回の試合で、自分たちのペースを保って射つことが出来たのは、先生方のお陰だと思います。ありがとうございました。

総　括

今回の試合では、過去２回コーチとして同行した経験を生かし、出来るだけ選手に伸び伸びと、そして１日24時間どういう場面においても楽しませようという思いで日本を発った。

クオリフィケーションラウンドでは、練習において選手４名中、西端の調子が悪く、他の３人は大丈夫であったので、ほとんどの時間を西端に費やした。私としては、自分の学校の生徒であるため、他の３人の選手に悪いという気持ちが強く働いたのだが、日本チーム全体の競技力向上のことを考え、また、チームリーダーの立入先生や男子コーチの池田先生にも相談した結果、自分の行動は間違っていないと確信した。一人でも調子が悪ければ、チーム全体の士気にかかわるし、チームの雰囲気も悪くなってしまう。

試合運びについてであるが、クオリフィケーションラウンドで団体８位か９位では２回戦でＫＯＲＥＡと対戦しなければならなくなるので、30Mで点数を落して順位を下げ、違うブロックに入ろうかと考えた。だがしかし、選手に毎日言っている「楽しく一所懸命射とう」という言葉がウソになってしまうし、また、自分の性分にも合わないのでベストシューティングをさせた。結果としては団体９位で、そのまま同じブロックに入ってしまった。

団体戦では前述の通り、選手には１回戦のＴＡＩＰＥＩ戦を意識させずに射たせ、私は２回戦のＫＯＲＥＡのことばかりを考えていたので私自身に油断が生じ、選手の半分の力もを出させることが出来ず、１回戦敗退という惨めな結果に終わってしまい、選手たちに

申し訳ない気持ちで一杯になった。

トーナメント戦では、やはり一試合一試合において全力を尽くさなければならないということを骨身にしみて痛感した。私にとっては、見えない敵ＫＯＲＥＡ に対戦前から負けてしまったという感じである。

素晴らしい選手を送ってくださった各学校の顧問の先生方には、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

今大会は年齢制限が拡大され、全体的にレベルが上がっており、日本チーム上位３名の点数が全て1200点を大きく上回っていたにもかかわらず、予選の成績は９位であった。やはりＪｒの世界でも、シングルの個人成績で1280～1300点を確実に射つ選手が４人いなければ、個人でも団体においてもメダルを取ることができないのだと痛感した。

しかし、今後のＪｒアーチェリーのとらえ方として、予選方式などは今まで通りのシングルラウンドやダブルラウンドの延長では駄目だろうと思うし、また、現行の予選方式にこだわっていては進歩はないであろう。

選手・生徒たちは、我々が思っている以上に体も柔らかければ、頭も柔らかい。どのような競技方法であってもすぐに順応できるのである。我々指導者の方がもっとしっかりしなければ、選手は育たない。そして、個人決勝ラウンドやトーナメント戦に対応できる強い選手を育てなければ、世界大会やオリンピック等では入賞さえ不可能なことだと思う。

今大会参加の日本選手たちは、今回負けはしたものの、この経験を生かして今後も頑張って欲しいと思います。そして次の世界大会やオリンピックでは、日の丸を揚げられる選手に育っていってもらいたいと願っています。

1994全国選手権大会優勝校（男子）

「１点の重みを胸に」

福岡県立柏陵高等学校　男子アーチェリー部
顧　問　藤　川　　毅

今年のチームの出発は、昨年の県予選でわずか１点の差で敗れ、インターハイ出場の切符を手にすることができずに無念の涙をのむことから始まりました。

これを契機に、生徒たちの「勝ちたい」という意志は強固なものになり、厳しい練習であっても自ら率先して行う姿勢が育っていきました。その甲斐あって本年の県予選では、1947点という高得点でインターハイ出場を決定することができました。

しかし、本番では、予選ラウンドを1886点で３位通過、決勝ラウンドに入っても練習点が出ずに準決勝を１点差で通過し、決勝戦では延長戦になるなど、予想以上の苦戦を強いられました。

そのような中で、生徒たちは今までの練習を信じ、己を信じ、共に努力をしてきたチームメイトを信じて、懸命に持てる力を完全燃焼させていました。私は、最後まで立派に戦い念願の優勝を勝ち取った生徒たちの精神力に深い感銘を覚えました。優勝が決まった瞬間、生徒の一人が「先生を胴上げしよう。」と言っていましたが、重量級の私を胴上げしてもらうよりも、私の方こそが生徒一人一人を胴上げしてやりたい気持で一杯でした。

また、今大会では、女子におきましても、２年生中心のチームながら団体４位と健闘していますので、来年を期待したいと思います。

最後に、生徒たちを暖かく見守り励ましてくださった皆様、本当にありがとうございました。今後とも皆様の御指導、御鞭撻を宜しくお願い致します。

平成６年度インターハイ優勝メンバー紹介

選手・マネージャー

関　本　　寛（主将）

〈自己診断〉

性格は大人しく真面目

〈練習以外で努力した点〉

家でゴムを引きながら試合をイメージすること

学年　３年（1977年３月17日生）
伸長　174cm
体重　64キロ（平成７年正月明け現在）
最高点　90m　303点　50m　328点
　　70m　309点　30m　349点

〈主将として〉

僕が主将になってからした事と言えば、考えてみるとたいした事はしていなかったと思いますが、ただ一つやってきた事は点数を出す事でチームを引っ張っていく事でした。最終のシーズン前の冬は全く点数が出ずに苦労しました。しかし、春が近付くにつれて点数を伸ばすことができました。シーズンに入ると２年生もだんだん伸びてきてチームの戦力も上がっていき団体戦では負ける気がしませんでした。そう思っていた通りにインターハイでは優勝する事ができました。これは、部員みんなの気持ちが一つになったお陰だと思います。みんなには本当に感謝しています。

廣　田　将　志（副将）

〈自己診断〉
性格は温厚で明るく、冷静で頭脳派、多少優柔不断な面がある。人からは少し変わってるとよく言われる。

〈練習以外で努力した点〉
筋力トレーニング、メンタルトレーニング

学年　3年（1976年12月16日生）
伸長　170cm
体重　60キロ（平成7年正月明け現在）
最高点　90m　288点　50m　325点
　　70m　324点　30m　348点

〈柏陵アーチェリー部伝統儀式について〉

我々柏陵アーチェリー部には、いろいろな伝統儀式があります。その中の一つに、「ワサビの儀式」があります。これは、始めての遠征の時の夕食時に刺身などに付いているワサビを、皆から分けてもらい一気に味わって食べ洗礼されると言うものだ。ただ翌朝人によっては下痢のおまけも付いてくる恐ろしい儀式だ。しかし、これをすると試合に強くなるというジンクスがあるので参加者は喜んでするのである・・？。次に「サウナミーティング」である。これは、遠征先などでサウナがあればその中でミーティングをし、過酷な条件の中で冷静に発言するというかなり苦しいものである。過去の先輩たちにものぼせた人がかなりいるらしい。最後に極め付けは「風呂ジャンケン」である。これはチームに分かれて湯船に浸かってジャンケンをしてチームで四連勝しないと湯船から出れないというものだ。これも、過酷な条件下で本当のチームの状況を見れる事と同時にチームワークの強化と判断力を養うものである・・？。時には先生チームとすることもあるが大変強い。インターハイ前の合宿では、京都の府立工業を巻き込んでのジャンケン大会になってしまい両チームとも精魂つき果てての長期戦の末、柏陵が勝利した。その甲斐あって、インターハイでは柏陵が優勝、府立工業が3位になった。裸の付き合いのパワーであろうか。他にもいろいろあるが、とにかくあらゆることをチーム作りに利用するのが柏陵方式である。勇気のある学校は一度合宿をしてみませんか。但し、お互い健康には十分に気を付け、他人の迷惑にならないようにしましょう。

赤　間　　豪

〈自己診断〉
試合に失敗しても後々まで引きずらない楽天家

〈練習以外で努力した点〉
特になかったが、四六時中アーチェリーの事ばかり考えていた。

学年　3年（1976年8月28日生）
伸長　167cm
体重　54キロ（平成7年正月明け現在）
最高点　90m　280点　50m　329点
　　70m　325点　30m　354点

〈チームワークについて〉

ライバルは時に自分をつよくしてくれる。僕は試合中何度も精神的に潰されそうになったが、そんなとき必ずチームメイトであるライバルたちの頑張る姿に支えられた。柏陵にはそんなライバルが同級生、後輩関係なく沢山いる。練習中のライバルたちの努力を知っているからこそ、自分も負けじと頑張ってきた。ライバルが沢山いたから点数も上がり相手の気持ちが理解できるようになったのだと思う。そんなライバルたちとの日々の競争が絶対のチームワークになって行くと思う。「ライバルに勝て」が、柏陵のチームワークの秘訣である。

松　田　浩　行

〈自己診断〉
気は長く、力持ち
〈練習以外で努力した点〉
家でのウエイトトレーニング

学年　2年（1977年5月8日生）
伸長　166cm
体重　61キロ（平成7年正月明け現在）
最高点　90m　295点　50m　329点
　　70m　329点　30m　351点

〈先生について〉

初めは楽しみでするはずだったアーチェリー。しかし、先生の熱心な指導に心打たれて、僕も練習をするようになりました。土、日、休日も欠かさず教えてくださいました。その御陰で少しづつ上達して、先生と6本勝負などをしてもらうようになりました。僕らがインターハイラウンドなどで強いのも、先生の「勝負」のお陰だと思います。初めは、全くと言っていいほど相手にならず、越えられない大きな壁だと思っていたが、最近では張り合えるようになり、とても面白いです。

試合、合宿などに行って挨拶一つできなくて、よく叱られましたが、叱られるのと比例して人間的にも大きくなっていきました。今ではどこに行っても誰にでもしっかり挨拶ができるようになりました。

大きな試合の途中でも、自分を見失ってしまうと、時々気合いの名の元に蹴りが飛んできます。特に、よく緊張する僕は、インターハイでも飛んできました。このような指導も、その時は痛いし、ビックリするけれど、効果は抜群で後から考えると結構有り難いものです。

僕にとって、先生は尊敬する師であり、ライバルでもあります。我が師の紹介　藤川毅先生（身長181cm体重93キロ）体格は素晴らしく、サングラスがよく似合い二人のお子さんの優しいパパ。僕は、このような先生といつまでも、師としてライバルとして付き合っていきたいです。

中　島　一　能（マネージャー）

〈自己診断〉
明るく、責任感がある。気は長いほうだが切れると危ない
〈練習以外で努力した点〉
メンタルトレーニング、腹筋
背筋、ランニング

学年　2年（1977年5月9日生）
伸長　159cm
体重　54キロ（平成7年正月明け現在）
最高点　90m　283点　50m　319点
　　70m　305点　30m　345点

〈インターハイ前の練習について〉

私達は、インターハイ出場の5名のメンバーが決まってからは、練習中や放課後はできるだけ一緒に行動し、チームワークを作っていく事から始めました。その中で、いろいろと意見の食い違いなどもありましたが、その度に皆で解決していくうちに、それぞれがチームというものを意識できるようになっていきました。

練習の内容も試合においてどのような状況になっても対応できるように、試合を想定した練習を繰り返して行っていきました。そうして試合中はいつも「練習通りにやろう」という言葉を掛け合い、それがいつの間にか私達の合い言葉になっていきました。今、思えば決勝ラウンドでは苦戦しましたが、練習でやってきたことを全て出し切れた結果が優勝に結びついたのだと確信しています。

最後に、私達が優勝できたのは、学校に残って練習しながら応援してくれた部活の皆や、学校の先生方、その他多くの方々の支え、そして何よりも、私達を時には厳しく、時には暖かくご指導してくださった藤川先生のお陰だと思います。本当に有難うございました。

1994全国選手権大会優勝校（女子）

「甲南女子高校アーチェリー部紹介・そして雑感」

五百蔵　正　雄

甲南女子高校アーチェリー部を指導してきて13年目、初めてインターハイ団体優勝することができました。これはひとえに、全国の諸先生方にご指導をいただいたお陰だと思っています。ありがとうございました。そして、ここまで成長した選手をこんなに頼もしく感じ、私に感動を与えてくれた大会はありませんでした。すばらしい選手に恵まれたことを感謝しております。

甲南女子高校は神戸市の東の端にあり、道１本隔てた隣は芦屋市になる静かな住宅街にあります。南に大阪湾を見下ろし、よく晴れた日には遠く大阪府下岸和田方面まで見渡せ、後ろは六甲山につながる高台に校舎が立っています。生徒の通学区域は広範囲にわたり、アーチェリー部の部員だけをとってみても、西は明石市から北は川西市、東は吹田市、大阪の中心部からと通学に１時間～１時間半以上かかる生徒も稀ではありません。（合宿、遠征のときは大阪駅集合の方が便利なくらいです）このような状況の中での早朝練習を実施するのは極めて難しく、かつ校則で下校時間は夏期は５：30、冬期は５：00と決められているため、練習時間の確保が最大の悩みです。『短い練習時間でいかに効果を上げるか』13年間この問題につきあい続けた日々だったといっても過言ではありません。この宿命ともいうべき条件（少々大袈裟かな？）を克服するためにいろいろと練習方法、トレーニング方法、試合に臨む心構え、コンデションの作り方等々工夫をしなければなりませんでした。全国大会に行った折り、夜のミーティングなどでいろいろな先生に悩みを打ち明けアドバイスを戴いたり、選手には試合会場で全国の一流選手の一挙手一投足まで観察させた時期もありました。（いまやっと少し御恩返しができたようでホッとしています）強引に引っ張り過ぎて空回りしたり、チームとしての部員の気持ちがバラバラの時突き放してみたりしながら、選手の間に自主性が芽生え、自分で考えるということの大切さが分かるまで辛抱強く待ちました。１週間に１日自主練習の日をもうけ、その日練習に出た部員しか見ないことを徹底してやったこともありました。

私が赴任した当時のアーチェリー部は《和気あいあい、家族的なムードで活動。優しい先輩がいっぱい！》というようなキャッチフレーズで活動しており、新卒だった私には遊び半分、いや遊び全部という感じでした。どこからどう手をつければよいやら、どう意識改革すればよいのやら全く分かりませんでした。むしろ、アーチェリーという部がなく、アーチェリーというスポーツを全く知らない生徒を集めて始めたほうがどんなに楽かと思い続けた日々・・・・これがわたしの指導としての出発点でした。神戸市大会、県大会で優勝できるようになり全国大会になんとか出場できるようになってきた時、次に手をつけたのは学校当局に働きかけてアーチェリー場をなんとかキチット練習できるように改良することでした。当時破損もおおく防矢の設備も十分とは言い難く、付き添いなしでは安心して練習に集中できる状態ではありませんでした。何とか50Mは射つことはできるのですが、ひとたび雨が降れば下はぬかるみ水たまりを避けて矢取りにいくという状態でした。現在では、広さは十分とは言えませんが立派なものをつくって戴きました。その後、片隅にトレーニング機器をそろえました。（写真１）

意識の向上、施設の改善、県高体連アーチェリー部会の組織の整備、そして私の指導経験が増して行くにつれて選手もだんだんと育ってくるようになりました。

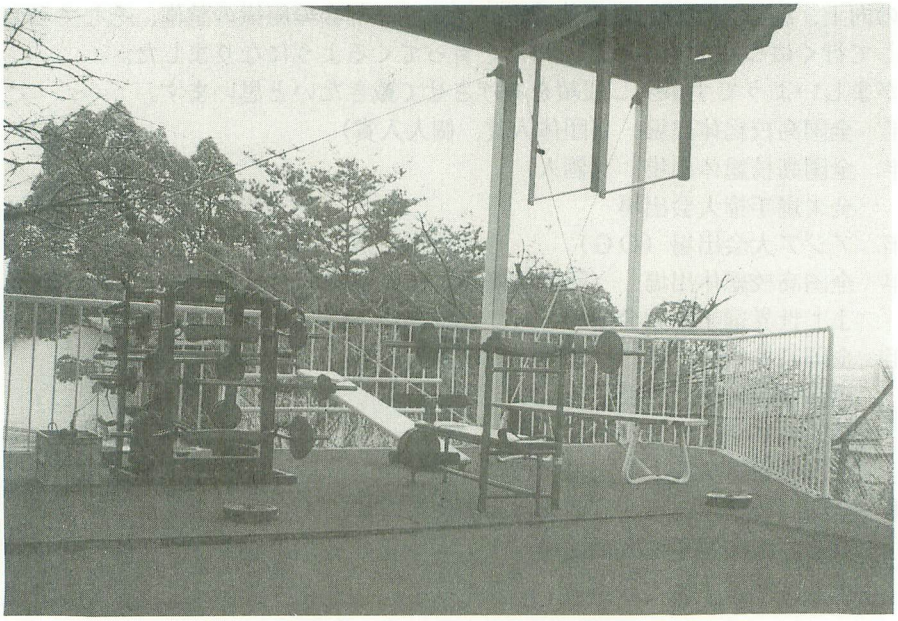
おこがましいようですが少し成績をあげさせて戴きたいと思います。

1988年　全国高校総体出場　（団体入賞，個人入賞）
1989年　全国高校総体出場　（個人）
〃　全米選手権大会出場
1990年　アジア大会出場（ＯＧ）
1991年　全国高校総体出場　（団体準優勝，個人優勝）
〃　Ｊｒ世界選手権大会出場
1992年　全国高校総体出場　（団体入賞，個人入賞）
全米選手権大会出場
オリンピック出場（ＯＧ）
室内世界選手権大会出場（ＯＧ）
1993年　全国高校総体出場　（団体優勝，個人入賞）
全日本室内選手権大会出場
〃　Ｊｒ世界選手権大会出場

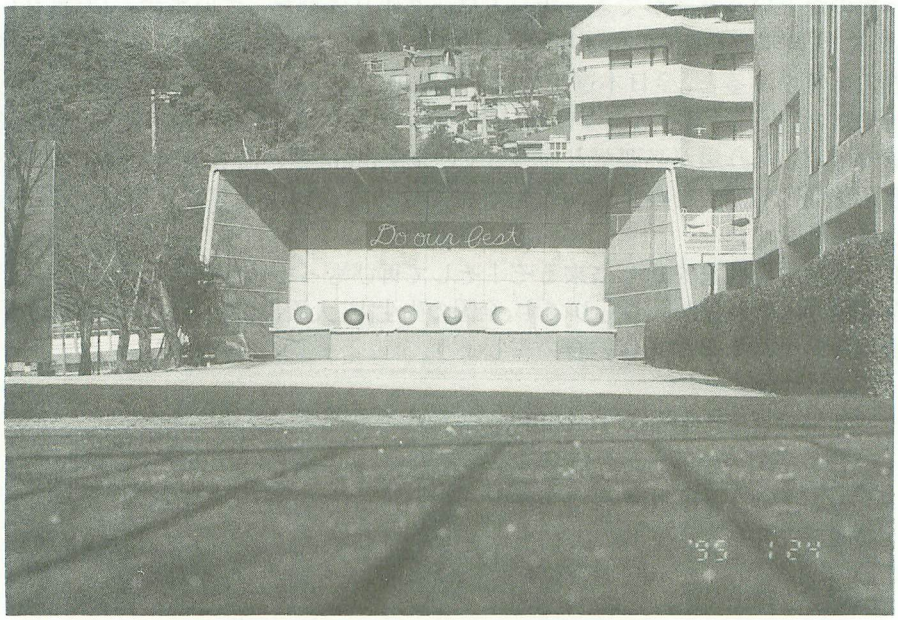
部の引き継ぎは毎年６月に部員全員で投票してきめます。そして高２全員でその１年間の《決意》を標語にしてアーチェリー場に揚げます。半紙に格言を書き額に入れて揚げる年があるかと思えば、大きな布で横幅いっぱい横断幕を張る年があったりしておもしろい。選手達の個性があらわれていて、指導上も参考になることが多い。アッと驚かされる発想をする学年は見込みがある選手が育つような気がします。選手として選ばれなかった生徒も最高学年になったのだという意識ができ、チームワーク作りに役だっています。（写真２）

最後に、ここ数年高校生のレベルは飛躍的に伸びていると思います。インターハイ、国体の入賞者の点数をみると、全日本選手権に十分出場できる点を取っています。これからは高校生の時代だと思うし、又そうでなければならないと思います。そのために皆で力を合わせ、指導方法を研究しあう場が必要だと痛感しています。私は幸いにも全国大会等で多くの先生方から教えを受ける機会を与えられてきて、このような良い選手を育てることができたことを感謝しております。

今年も、全員で優勝杯を返しに来るぞ！そして再びもって帰るぞ！
意気込みはどこにも負けないつもりです。全国の先生方、大震災にあったここ神戸でも頑張っています。夏、また力と技を競い合いましょう。



【写真１】トレーニング機器



【写真２】アーチェリー場と標語

〔学校紹介〕

創部を振り返って

岡山理科大学附属高等学校
アーチェリー部監督　豊　福　　浩

1．創　　部

岡山理科大学附属高等学校アーチェリー部は、昭和55年９月に３名の生徒が中心に呼びかけ、同好会として発足した。当時はアーチェリーがブームだったが、岡山県下の高校ではクラブとして活動しているところはなかった。それまで３人の生徒は、岡山県アーチェリー協会に所属する社会人に指導を受けていた。やがて、全国大会への出場を目標とするようになった３人は、志田教諭に部をつくりたいと相談に行き、本校の校長、教頭、体育教諭の理解を得、総勢10名で発足した。

志田教諭はアーチェリーの経験はなく、暗中模索の創部だったが、グランドの片隅にロープを張り25mの練習場を確保した。練習は、岡山県アーチェリー協会の方にお世話になったり、岡山理科大学アーチェリー部の溝井監督に指導していただいたりしながら週に２日おこなっていた。

2．顧問になる

このようにして同好会として安定してきた昭和57年、私が岡山理科大学附属高等学校にきた。私は大学でアーチェリー部に所属していたが、附属高校にアーチェリー部があることなどはまったく知らなかった。私は大学を卒業する時に、もうアーチェリーとは縁がないものと思っていたが、さっそく志田教諭のもとに行き、同好会の練習を見学させてもらった。その時私は、荒削りながらも熱心に練習をしている生徒たちを見て、「２、３年で全国へ行けますよ」と言ってしまったのだ。

3．全国大会を目指して

それから、コーチとして練習に参加した私は、大学でおこなった練習そのままを取り入れ、練習日も１週ごとに週２日から３日と増やし、とうとう毎日練習するようになった。自分たちは楽しい部活動がしたいという生徒もいて、当然反発も強くあった。しかし全国へ行きたいという生徒を中心に少数精鋭をめざした。それまではあまりやっていなかった基礎体力トレーニングや、ウエイトトレーニングが練習の半分を占めるようになった。しだいに練習得点が上がりだし、生徒も一層熱心になった。

当時の高校のアーチェリー競技は50mを36射、30m

を36射行射し、1射につき10点満点、合計720点満点でおこなうハーフラウンドだった。そこで、25mの練習場しかない我が部では、わからないように陸上競技部との境目のロープを少しずつ移動させ、30mを射てるようにした。また、50mの練習は、陸上競技部が遠征に出かけてしまってグランドで練習をしていない日に、50m的を設営して練習をした。

その結果、まったく経験のなかった生徒達も目に見えて実力をつけ、中国地区高校選手権大会、全国高校選手権大会、全国高校選抜大会に出場するまでになった。

4．記　録

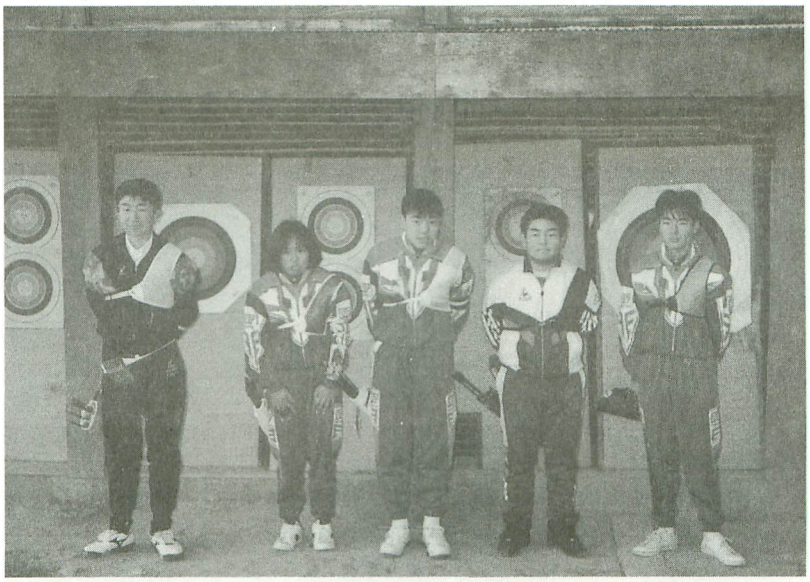
年　度	中国大会	全国大会	全国選抜
昭和 56	団体 4 位		
57	団体 5 位		
58	団体 3 位	団体 17 位	個人 10 位
59	団体 3 位	団体 16 位	個人 17 位
60	団体 3 位	団体 9 位	個人 3 位
61	団体 2 位	団体 19 位	個人 25 位
62	団体 11 位	団体 34 位	個人 8 位
63	団体 優勝	団体 19 位	個人 28 位
平成 1	団体 3 位	団体 23 位	個人 19 位
2	団体 優勝	団体 18 位	個人 13 位
3	団体 4 位	団体 10 位	個人 43 位
4	団体 6 位	団体 38 位	個人 36 位
5	団体 4 位	団体 32 位	個人 37 位
6	団体 2 位	団体 35 位	

以上のような戦績をおさめた。

5．全国トップへ

なかでも印象深かったのは、初めて全国大会で入賞した昭和60年の鳥取国民体育大会だった。この大会で団体3位に入賞し、部員一同大喜びをしたものだった。また、同じ年の全国選抜大会でも、枯木選手が個人3位に入賞し、昭和61年の全米選手権大会予選会へ出場できた。その大会で、枯木選手は高校新記録をマークして全日本ジュニア代表としてアメリカへ

遠征した。その後、日本体育大学へ進学していた枯木選手は、昭和62年のソウルオリンピックの選考会へ出場し、その年の全国選抜大会で８位入賞した本校の石原選手と競い合うことにもなった。



６．問　題　点

このように、全国大会等には出場し、まずまずの成績をおさめることもできるようになったが、いろいろと問題点もでてきた。

①アーチェリー競技自体がマイナーなスポーツである。弓矢といえば、ロビンフッドかウイリアム＝テルしか知られていない。

②最近では矢がもが有名になり、矢を発射することを危険だと思われたり、遊びのように言われることもあった。

③新入生は、見たこともないスポーツに挑戦することになった。その反面、全員が未経験だから同じスタートラインで始められる利点もあった。

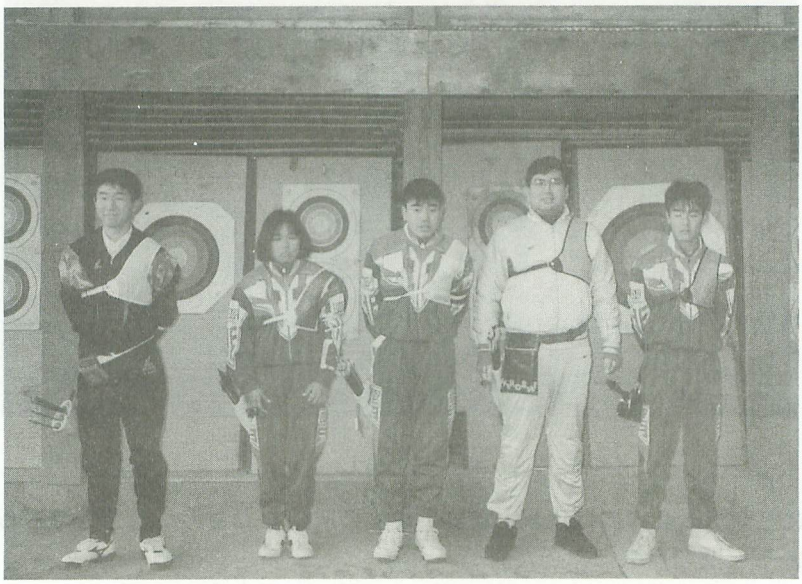
④道具が高価である。他の競技でも同様だと思うが、高校に入学したばかりの生徒に10数万円もする弓具を購入させるのは気が引けた。そこで、部の備品として生徒会に練習用の弓具を購入してもらい、半年間はそれを使用させた。上達の度合いによってより高価な中級、上級者用の弓の購入を勧めていった。

⑤岡山県にアーチェリー部は１校しかなかった。他県の監督の先生から「全国に簡単に出場できて理大附高はいいな」と言われないように、生徒に発破をかけ続けてきた。しかし、県内に競争相手がおらず、岡山県大会では社会人としかあたらない生徒にとって、競争心を生み出すということは大変なことだった。特に女子生徒は、我が部に過去に２名しかいなかったが、新見女子高校の後藤教諭に創部していただき、岡山県の少年女子の指導をお願いすることになった。しかし、現在男子部員しかいない我が部と、女子部員だけの新見女子高校では練習試合も出来ず、共学校の創部を待っていた。幸いなことに、後藤教諭の紹介で高梁日進高校に同好会をつくっていただいたが、現在は部員数が少なくなり休部になった。

7．今後の課題

ここ数年我が部では、岡山県内の試合では好成績(50.30mラウンドで682.672.など)をマークするようになったが、全国大会ではまったく力が発揮できなかった。これは、県内に競い合えるような高校がないことが原因だと思われる。岡山県高等学校体育連盟に加盟させていただいたのを機に、私たちはよりいっそうアーチェリーに精進し、他校にも部をつくり競い合い、全国でより優秀な成績をおさめることだと思ってる。

今後も頑張りますので、よろしくご指導の程お願いいたします。



生涯の基礎づくりをめざして

山口県立西京高等学校アーチェリー部
顧　問　木橋悦二　　吉永公美

本校は、昭和61年、普通科（普通科体育コース１クラスを含む）と商業に関する学科をもつ高等学校として新設され、本年で９年目を迎えた。県民の熱い期待をうけて、陸上部をはじめとして諸部が設置されたが、いずれの部もよく健闘し、数々の競技会で好成績をあげている。

アーチェリー部は、開校と同時に設置され、希望者を募って、練習が始まった。当時、グランドの北東遇に置かれた射場は、本校が田園地帯にできたこともあって、周囲には家屋が少なかったから、後方に防矢ネット（専用ではない）を立てただけの簡単なものであった。的台がなかったため、鉄道用の枕木を積み重ねて代わりとし、その上に畳を置いた。もちろん屋根がなかったから、練習後はビニールシートをかけた。このビニールシートかけがまた大変であった。風の強いところであるし、雨による畳の腐食を防がねばならない。また、ネットはあったが、初めの頃ずいぶん矢が貫通したものらしい。現顧問の私と吉永公美先生は開校三年目に着任したのであるが、練習で一番に気を使ったのは「行射での安全の確保」であった。現在でもそうであるが、顧問が射場にいないときには長距離を射たないことにしている。ある日のこと、貫通した矢が後方の田圃に飛びこんだ。地主さんに断わって、顧問による矢さがし、お礼を述べるためにお家に伺ったところ、「ずいぶん前から、農作業のたびに拾っておいたものです」と差し出された矢の束は10本ばかり。恐縮し、陳謝したことはいうまでもありません。

それでも、射場の広さにおいては、恵まれた部類に属すのでしょうか。幅20メートル長さが100メートルありますから、つめれば20人の部員が一度に射つことが可能です。いきなり、射場のことをくどくど書きましたが、アーチェリーを取りまく環境は物心両面にわたって、決して良いとはいえません。全国大会などでお会いする監督の先生方が異口同音に「射場をなんとかしたい」と言われます。山口県には８校にアーチェリー部があります。が、本校は後発校です。部の設置やその後の指導、大会の運営など先輩方から多くの助言や協力をいただきました。

現在の１、２年生部員

本校に限らず、アーチェリー競技の隆盛をはかるためには、今後多くの課題を越えなくてはなりません。学校体育における、あるいは、学校教育における部活動の理念やあり方をじっくりと考究することが先ず必要なことです。

1994.12.29　納射会

私たちが、顧問となった昭和63年度、15名ばかりの部員がおり自主的に練習していましたが、射場には緊張感がなく、話し声がたえまなく聞こえ、したがって集中力を欠いた射が見られました。主将に聞いてみました「一番希望することは何か」と、「今まで試合になかなか出場できませんでしたから、できるだけ多くの試合に出場させてください。」部員の状況をつぶさに観察し、話を聞いていく中で顧問としての最初の重要な指導の核心となるものは部活動の理念を明確にし、具体的な練習内容と方法ならびに目的・目標を提示することでした。

私たちにとって幸いなことは、吉永先生が現役の選手であり、部員に視覚的・実際的な指導ができること。ロサンゼルスオリンピック入賞者である石津裕子先生の指導をときどき受けることができたことなどです。

現在、わが国の競技スポーツの多くが、学校体育に依存していることは言及するまでもありません。しかし、生涯学習社会の進行とともに、学校を取り巻く環境は大きく変化しており、ひとり、スポーツだけが時代の流れから屹立しているわけにはいきません。私たちが、「生涯体育を展望しつつ、全人教育を視座においた指導を展開すること」を大目標としてから、早７年が経過しました。具体的には、日曜日、祝日の練習は原則としてしないこと、練習時間は２時間程度を標準とし、できうるかぎり練習内容をくふうして内容を濃くすること部員の意識を高め、集中して練習に臨めるよう精神面での助言をできるかぎり行うことなどを部活動の指針としてきました。

「学習に向かう熱意がないものにアーチェリーはできない」と口癖のように繰り返し、あいさつや礼儀作法についても有為な社会の形成者になることを願って、普段に努力することを促しています。

伝統を創るというのは、しかし、一朝にできることではありません。先進校に負けじと一心に努力をかさね、顧問の指導に誠実に耳を傾けてきた多くの部員の存在こそ貴重であり、今日まがりなりにもインターハイにも出場できるようになったことを思うと感謝の念でいっぱいです。技術については、貪欲にかつ固執せず、素直な気持ちで学ぶ姿勢を崩さないでほしいとみんなが願っています。目下の照準は全国大会で優勝すること。実現の日は不明であるけれども、部員のエネルギーの源泉となっていることは確かです。

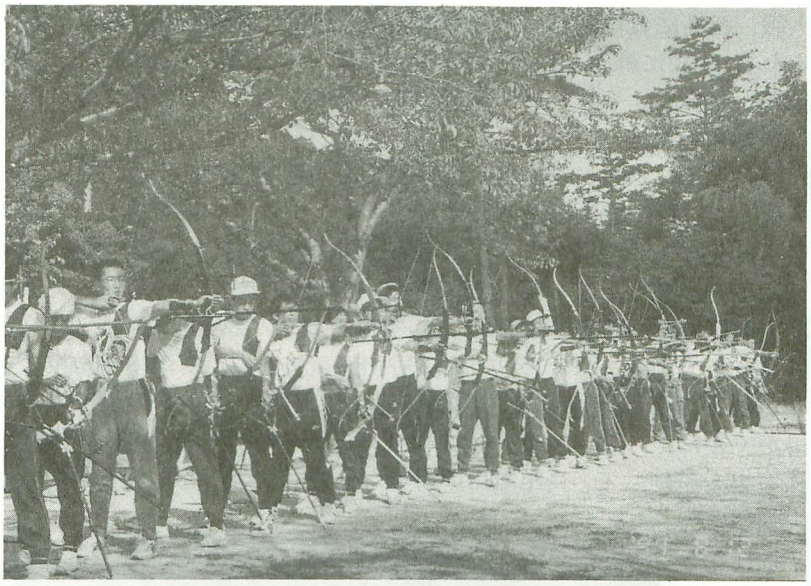
卒業生もあちこちで活躍してくれています。平成４年度の全国実業団選手権では、松村洋

子さんが優勝しています。こうした先輩たちが、休日には顔をだし励ましてくれる現今です。いつまでも初心と多くの人々に常にささえられていることを忘れずに歩んでいる若いチームです。

1993年度には、20名ほどの１年生が入部してきました。当時３年生が一人しかおらず、部の運営について危惧するところがあったときでしたから、部員数の増加は大きな喜びでした。彼らは２年生となり、一人として辞めることなく、新たな部の発展をめざして頑張っています。現在の部員数は36名。いささか射場の狭隘さを感じています。

いずれかの大会で、『西京』が目に留まりましたらいろいろとご指導ください。

彼らの心に『最強』になろうというともしびの燃え続けることを祈って紹介を終わります。



夏　季　合　宿

創部７年目を迎えて

香川県立観音寺第一高等学校　アーチェリー部
顧問　小　野　秀　典

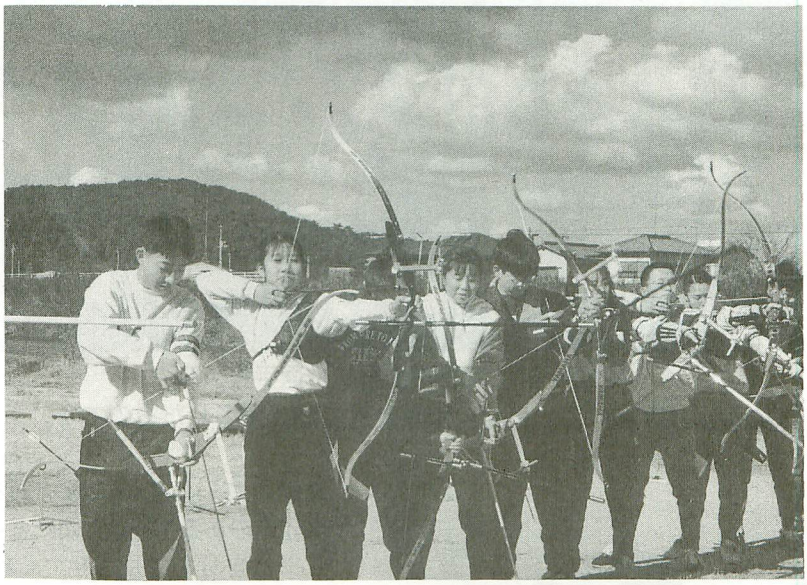
今年の正月、８人の卒業生が我が家にやってきた。一昨年卒業した本校アーチェリー部第３期生の生徒達である。この学年は男子６人、女子３人（この日は残念ながら男子１人が風邪を引いていて来れなかったが）で男女まとまりのよい、しかも互いにライバル心を持ち切磋琢磨し練習に励んだ学年である。創部４年目の平成４年、東四国国体のリハーサルを兼ねた第25回全国高校選手権大会が地元で開催されたが、その時の男子団体準優勝の中心メンバーが彼らである。食事をしながら、大学生活のことや高校時代の部のこと、そして現在のアーチェリー部のことに話が咲く。「先生、去年のインターハイ、男子予選通過できんかったんやなあ。」「新人戦、西高に負けたんやってなあ。」「今年は、頑張ってやらないかんで。」「夏休みに帰ってきたら、学校に練習しにいくきんな。」と口々に後輩や私に対する注文が飛び交う。こんなに先輩達が後輩に、そして私に期待しているのだから、と思いながら正月４日から平成７年の練習が始まった。

本校は香川県の西部にあり、普通科と理数科をもつ進学校である。また質実剛健の校風のもと部活動も盛んで、特に陸上部は四国地区でもトップクラスに位置し、平成４年に創部した弓道同好会も昨年の富山インターハイで女子団体準優勝という成績を収めるなど、生徒一人一人が文武両道を目標としている学校である。未普及競技であったアーチェリーは東四国国体を控えた７年前に高松西高校に部ができ、本校でもその２年後の平成元年３月にアーチェリー部が同好会として創設された。幸いにも、香川県競技力向上対策室や学校の全面的なバックアップのおかげで、創部２年目には学校から歩いて約５分くらいの財田川の河川敷に50Mをうてる射場ができた。３年目の冬には学校から約3.5km離れた瀬戸内海の燧灘が一望できる所にあった採石場を整地して、長距離用の射場が完成した。いずれも借地のため仮設ではあるが、当時の部員達と一緒に市内・郡内の畳屋さんから古畳をもらい、父兄の方もわざわざ遠方から畳を取り寄せていただき、自分達の思い入れの強い射場で練習できるようになった。

河川敷にて練習風景

創部当初は、県の競技会では西高に勝って団体で全国大会に出場することを目標に、国体に向けては西高と二人三脚で合同練習、岡山・広島・滋賀・福岡などへの遠征を行い、

その遠征を通して多くの先生方にお世話になりながら、アーチェリーや部に対する考え方を教えていただいた。その結果、熱心な生徒にも恵まれ、平成４年には地元開催の全国大会男子団体準優勝、男子個人５位、平成５年の栃木インターハイでは女子団体予選６位通過、女子個人３位、地元の東四国国体でも少年男女そろって５位と創部当初予想もしていなったような成績を残すことができた。



現在の１・２年生　河川敷射場的前にて

しかし、当然のことながらスポットライトをあびる生徒だけではない。部員全員には十分に目が行き届かず、伸ばすことができなかったという反省。いつも口をすっぱくして言っている時間厳守・礼儀の徹底・きびきびした練習態度など、期待を裏切られることもしばしばであった。野球やバスケットやバレーとは違い、個人競技のアーチェリーで、部全体で活動していくという意識を植えつけられなかった自分の指導力不足。明と暗のギャップに悩む数年間であった。

どこの高校でも似たような状況とは思うが、アーチェリー部に入ってくる生徒は中学時代にやっていたスポーツに限界を感じた者、スポーツ経験のない者が意外と多いのではないだろうか。入部してくる生徒の質も毎年変わり、リーダーシップを発揮できる生徒がいる年もあれば、そうでない年も。昨年、北海道大学に進学しアーチェリーで活躍している生徒からきた手紙に、「全国的にみると決して強い部ではないけれど、みんながみんないい射ち方を心がけて射っているし、全員がうまくなろうと思って練習しているのが伝わってきます。何より、学年主体の部活動運営という点では、役職を分担して各自が与えられた仕事をこなすことによって全体として大きな活動に参加しているという感じです。」ということが書かれていた。もちろん大学と高校では比較のしようがないかもしれないが、顧問の指導を加えながらも生徒達には、先生にやらされているという意識から、自分達で考えてやってやろうという意識を定着させ、そこを出発点として部の伝統をつくっていきたい。

41名中８名、この数字は本校アーチェリー部の卒業生のうち、大学進学後もアーチェリー

平成４年　第25回全国高校選手権大会
地元　財田町にて　当時の部員全員で記念撮影したものです。

平成５年　栃木インターハイ
団体女子メンバー
（東四国国体のメンバーでもありました。）

を続けている者の人数である。今春、卒業予定のある生徒は、「僕にとってアーチェリーは自分を成長させてくれたものでした。飽きっぽい自分にとって、うまくなりたい一心で３年間続けられたのはこの競技だけでした。その結果、試合でいい成績が残せたときは“やればできる”という自信を得ることができ、試合を通して他校にも友人もできました。アーチェリーに感謝し、これからもアーチェリーを続けて、より自分を成長させていきたいと思います。」という感想を残してくれた。高校の部活動で自信をつけ、あるいは悔いを残したため、進学後もアーチェリーを続けていく生徒が増えれば、顧問として最高の喜びである。

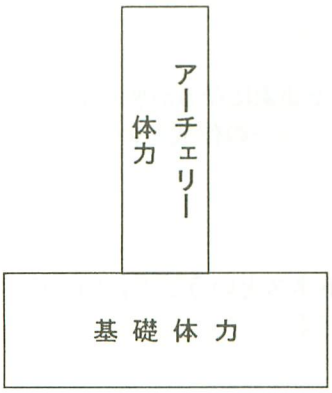
平成６年、香川県下３番目のアーチェリー部が高松東高校で創部された。これからは３校で競い合い、香川の高校生が全国を舞台に堂々と自分達の射ができるように、今後更に努力を重ねていきたいと心を新たにしている。

〔特別寄稿〕

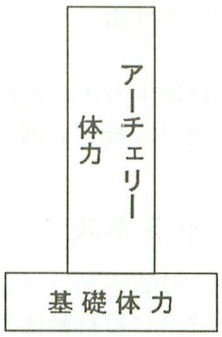
「JOCチームドクターから見たアーチェリー」

JOCチームドクター　河　野　一　郎

アーチェリーは強化の重点種目になり得る。理由としては、アーチェリーは他の種目と比較して身体的条件たとえば身長、体重の差などがリミティングファクターとなりにくいと言うことがあげられる。つまり外国選手との体格的な差が成績に影響を及ぼしにくいと言うことである。その点で言うならば、「日本の選手はもっと戦えるはず」である。そこで一昨年日本の男女トップアーチャーのフィットネスを調べたが結果としては「ごく普通の人がアーチェリーをしている」という感じを受けた。つまり、外国たとえば韓国の選手と日本の選手を比べてみると下図のようなことが言える。



外国選手



日本選手

アーチェリーの種目特性から決して筋骨隆々である必要でないが、アーチェリーに必要なフィットネスとは何か考えてみる必要がある。
一般的なスポーツフィットネスには次のようなものがある。

1　フィジカル（肉体的）フィットネス
2　スキル（技術的）フィットネス
3　メンタル（心理的）フィットネス
4　メディカル（医学的）フィットネス
5　ゲームフィットネス

コンディショニング

そこでアーチェリーのフィットネスを探るためにまずコンディショニングということを考えてみたい。コンディショニングを考える上で手かがりになるのはコンディショニングが成功したときの経験も重要であるが、むしろコンディショニングを失敗し目標を達成できなかった時の分析が重要である。

Ⅰ　目標を達成できなかった原因

①技術・体力的要因
②心理的要因
③スポーツ医学的要因

スポーツ医学的要因には内科的要因と外科的要因があるが、選手のレベルが高いほど外科的なものより内科的なものが多くなる。これは外科的要因を持っている選手は代表になる以前に選考に漏れるということもあるが、やはり試合からくるストレスによる内科的要因（カゼ、腹痛）等は重大である。

Ⅱコンディションを崩す要因は疲労

①トレーニングの失敗
②休養の取り方の失敗

トレーニングは選手のコンディションを良くする要素になるが悪くする要因にもなる、そこでコーチの適切な練習計画、トレーニングメニューの作成ということが重要になってくる。

フィジカルフィットネス

次にフィットネスの中から特にフィジカルフィットネスということに関し述べてみたい。フィジカルフィットネスには行動体力と防衛体力が有る。

Ⅰ　行動体力（運動をするための力）
①始動力（パワー・瞬発力）
②持続力
③調整力（バランス）

Ⅱ　防衛体力（ストレスに対する抵抗力）
①物理化学的（自然環境・用具）
自然環境とは例えば気温・湿度・日光などであり、これらのものから受けるストレスな個人差がある。また用具に関するストレスとは、使用する用具の変更等であるが、ともにコーチの果たす役割が大きい。
②生理学的（睡眠・時差・食事）
睡眠不足は調節力が下がり特に持久的パフォーマンスに影響が大きい。これも個人差があり、遠征などの際はマネージメントとして特に留意が必要な点がある。
③生理学的（細菌等の感染・カゼ）
行動体力を上げようとする（練習量・トレーニング量を増やす）と生理学的防衛体力は下がり風など引きやすくなる、両者は相反する関係にあり、特に試合などが間近にある場合配慮が必要である。
④精神的・心理的

疲労のコントロール

次に重要になってくることは疲労についてである、アーチェリーの疲労とはどういう疲労なのか、またその対策は何かということについて考えてみたい。

Ⅰ　疲労の原因

①疲労物質（乳酸等）の蓄積→スポーツ科学

②エネルギー（グリコーゲン等）の消耗→スポーツ栄養

グリコーゲンパッキングつまり簡単に言えば「食べる」と言うことであるが、かつては「なにを食べるか」ということがよく論じられたが、今は「どのように食べるか」ということが重要視されている。

身体作りという点からは、トレーニング後２時間以内にアミノ酸、蛋白質を摂取するとよい、具体的には、練習後栄養のバランスを考えしっかりと食事をとること。また疲労回復という点からはエンプティーになった後すぐ糖質を摂取することが必要である、時間がたつと吸収の効率が悪くなり疲労を長く残すことになる。例えば試合、遠征等の帰り道、適当な糖質（あめ玉、チョコレート等）を補給する事で、疲労の翌日への持ち越しを少なくすることができる。

③水分（スポーツドリンク）

汗をかくことで血液が濃縮され血液の成分バランスが崩れ障害が表れる。それを防ぐために水分補給は重要である。ことに炎天下での試合や夏合宿などでは健康管理の観点からも十分な配慮が必要である。

④神経・平衡

⑤その他の要素の疲労の有無

Ⅱ　疲労のチェック

疲労の原因は上記のようなものがあげられるが、それでは疲労はどのような形で表れるのであろうか。それは筋肉、骨格、関節に表れる。そこで次に大切なことは、自分で自分のコンディションを知ること、疲労が蓄積していないかどうか知ることである。

そのためには、疲労のチェックということが必要になってくる。

疲労の簡単なチェック法としては脈拍を計る、柔軟性を計る、特に左右差に注意する等がある。

例としては起床時に脈拍を計り、前屈等をして柔軟性をみるその時に左右差がないかどうか注意すること。このようなことを毎日続け体調や練習成果との相関関係をみてみると何らかの答えが見つかるものと思われる。チェックをするタイミングとしては起床時以外にもウォームアップ時・クーリングダウン時・就寝時等が考えられる。

ここで重要なことは、疲労のチェックということがおざなりな行為として終わることなく、選手自身がその意味を十分に理解し自覚的に行うことが肝心である。そして、選手にその自覚が生まれるように適当な手助けをすること、例えばチェックの結果と練習成果との関係の具体的な提示、就寝前の身体の手入れと翌朝の疲労残留の度合いの違いなどの指摘をすることがコーチの働きとして望まれる。

Ⅲ　体の手入れ

関節は疲労がたまってくると楽な方（曲がりやすい方）へと曲がる特性がある。つまり筋肉個々の疲労の度合いにより柔軟性が異なり関節の可動範囲の狭まり柔軟性の左右差等という形で表れる。そして左右差は必ずフォームの崩れという形で表れてくる。そこで身体の手入れをした時としない時の差を選手自身に実感として感じさせ、自覚的に身体の手入れの必要性を感じさせることが重要である。その点では、先にも述べたようにコーチの果たす役割は小さくはない。

疲労した筋肉（柔軟性を無くした筋肉）を回復させる方法にはいろいろなものがあるが「ＰＮＦ」という方法があり、フォームの矯正にも有効である。

Ⅳ　参考資料

「スポーツＰＮＦトレーニング」	覚張秀樹　矢野雅和	大修館書店	2369円
「スポーツＰＮＦマニュアル」	覚張秀樹	南江堂	4200円
「ＰＮＦ神経筋促通手技業」	エリック・ビェール	医歯薬出版	3914円
「臨床ＰＮＦ」	Patric ia E.Sui	メディカル葵出版	8240円

注　本文は昨年12月に静岡県で行われた「全国高校指導者講習会」での河野一郎先生の講義内容をア専門部で文章化したものです。

全国高等学校体育連盟ア専門部・全日本ア 連盟　登録届用紙の流れについて

平成６年度用

全国高体連ア専門部事務局 → 各都道府県高体連ア専門部事務局

登録用紙送付

２月末日発送

各都道府県高体連ア専門部事務局 → 各都道府県高体連ア専門部加盟校

各校へ一部づつ配布

各都道府県高体連ア専門部加盟校 → 各都道府県高体連ア専門部事務局

学校負担金
単独校
４０００円
複数校
８０００円

＋

個人登録金
１人当たり
１０００円

＝

個人登録金1000円の内訳
全日本ア連盟５００円
各県ア協会２００円
全高体連ア専部３００円

各都道府県高体連ア専門部事務局 → 各都道府県ア協会事務局

確認後・事務局認印をし、一括して

各都道府県ア協会事務局 → 全国高体連ア専門部事務局

確認後・事務局認印をし

学校負担金
単独校
４０００円
複数校
８０００円

＋

個人登録金
１人当たり
８００円

全国高体連ア専門部事務局 → 全日本ア連盟事務局

確認後・事務局認印をし

五月末日迄に

選抜出場枠決定資料のため。

全日本ア連盟事務局 → 各都道府県ア協会事務局

会員証発行６月末日

確認後・事務局認印をし

各都道府県ア協会事務局 → 各都道府県高体連ア専門部事務局 → 各都道府県高体連ア専門部加盟校

登録届記入方法

指定都道府県番号 ＝ 別紙・資料№1参照

該当項目に○をして正式学校名を記入

都道府県名を記入し該当項目に○をする

西暦で記入

各都道府県高体連加盟学校指定番号 ＝ 別紙・資料№2参照

1/1、1/2、2/2等

19 年 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟会員登録届

(№ ／)

郵便番号を記入し正確な所在地を記入

学校長名を記入し公印を押す

学校の電話番号を記入
〔　　〕内は市外局番
(　　)内は市内局番
(　)の後に番号

ＦＡＸが設置している場合は記入
記入の仕方は電話と同様に記入

顧問の先生方全員の氏名を記入
代表者は認印を押す

所属	都・道・府・県 ア【高体連専門部 協会（連盟）】	加盟団体登録番号	第 H 号
学校名	都・道・府 県・市・私 立	学校長名	印
所在地	〒□□□-□□		
電話	(　)(　)	FAX.№	(　)(　)
顧問名	代表者 ㊞・　・　・		

女子 登録番号	氏名	学年	年齢	生年月日	男子 登録番号	氏名	学年	年齢	生年月日
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・
H -				・・	H -				・・

各学校毎に
女子は５００１番より
男子は１００１番より
順番に記入

学年は３・２・１年の順番で記入
年齢は４月１日を起算としての年齢を記入

女子生徒のみ又は男子生徒のみが登録している学校は、該当する項目に○を

女子生徒及び男子生徒が登録している学校の場合に○を

種別		人数	女子	男子	合計	金額	チェック	県高体連ア専部	都道府県ア協	全高体連ア部	全日本ア連盟
単独校	女子	1年				単独校負担金＝４０００円	受付月日	月　日	月　日	月　日	月　日
		2年				複数校負担金＝８０００円	担当者名				
	男子	3年				800円×　人＝　円	確認認印	印	印	印	印
複数校		合計				合計金額＝　円	備考				

各学年、女子、男子別に人数を記入し、合計を記入。合計と合計の交わる欄は総合計人数を記入

(1) 記入は、楷書で黒ボールペンを使用してください。また、数字はアラビア数字で記入してください。

(2) 登録届用紙は、各学校で原本１部（朱印の上）を作成し、４部をコピーして必ず５部全てを送付のこと。

５部の内訳：全日本アーチェリー連盟提出……１部　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部用……１部

各都道府県アーチェリー協会（連盟）…１部　各加盟高等学校用……１部

各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局……１部

(3) 登録届提出先：〒330　埼玉県大宮市堀ノ内１丁目615　大宮開成高等学校内

「全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局」

該当する項目に○をし生徒１人当たり800円を掛けた金額を記入し合計金額を記入する

その他に生徒１人当たり２００円を掛けた金額と上記の金額の合計を各都道府県ア協会へ送金する又は専門部

＋

個人１人当たり1,000円
(800円専門部・協会200円)

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届　別紙

指定都道府県番号表

指定都道府県番号	都道府県名		指定都道府県番号	都道府県名		指定都道府県番号	都道府県名
1	北海道		17	長　野		33	岡　山
2	青　森		18	富　山		34	広　島
3	岩　手		19	石　川		35	山　口
4	宮　城		20	福　井		36	香　川
5	秋　田		21	静　岡		37	徳　島
6	山　形		22	愛　知		38	愛　媛
7	福　島		23	三　重		39	高　知
8	茨　城		24	岐　阜		40	福　岡
9	栃　木		25	滋　賀		41	佐　賀
10	群　馬		26	京　都		42	長　崎
11	埼　玉		27	大　阪		43	熊　本
12	千　葉		28	兵　庫		44	大　分
13	東　京		29	奈　良		45	宮　崎
14	神奈川		30	和歌山		46	鹿児島
15	山　梨		31	鳥　取		47	沖　縄
16	新　潟		32	島　根			

★個人登録番号の付記について

1）指定都道府県番号はHの前に　　例：東京都の場合 [１３] Ｈ－

2）指定学校番号はHに続いて　　例：東京都の玉川学園高校の場合　１３Ｈ－[０６]

3）個人登録番号を－の後に男子は1001・女子は5001より各学校で付記

例：東京都の玉川学園高校の場合　１３Ｈ－０６－１００１（男子の場合）
１３Ｈ－０６－５００１（女子の場合）

19　年　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟会員登録届

（№　／　）

所　属	都・道・府・県　ア〔高体連専門部／協会（連盟）〕	加盟団体登録番号	第　H　号
学校名	都・道・府／県・市・私　立	学　校　長　名	印
所在地	〒□□□-□□		
電　話	〔　　〕（　　）	FAX.№	〔　　〕（　　）
顧問名	代表者　印・　・　・		

女　子					男　子				
登録番号	氏　名	学年	年齢	生年月日	登録番号	氏　名	学年	年齢	生年月日
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・
H -				・　・	H -				・　・

種別		人数	女子	男子	合計	金額	チェック	県高体連ア専部	都道府県ア協	全高体連ア部	全日本ア連盟
単独校	女子	1年				単独校負担金＝４０００円	受付月日	月　日	月　日	月　日	月　日
	男子	2年				複数校負担金＝８０００円	担当者名				
		3年				800円×　人＝　円	確認認印	印	印	印	印
複数校		合計				合計金額＝　円	備　考				

★(1)　記入は、楷書で黒ボールペンを使用してください。また、数字はアラビア数字で記入してください。

(2)　登録届用紙は、各学校で原本１部（朱印の上）を作成し、４部をコピーして必ず５部全てを送付のこと。

５部の内訳：全日本アーチェリー連盟提出……１部　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部用……１部

各都道府県アーチェリー協会（連盟）…１部　各加盟高等学校用……１部

各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局……１部

(3)　登録届提出先：〒330　埼玉県大宮市堀ノ内１丁目615　大宮開成高等学校内　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局　宛

略称（全国高体連アーチェリー専門部事務局　宛）

選手権大会　栄光の歩み

（第１～19回：１日制、第20回～：男女別２日制で実施）

回数	男・女	団体の部	個人の部
第１回大会		（68’８.10.大阪府・東大阪グランド）	
	男子	浜松興誠高（静岡）1639.	稲川篤郎（浜松興誠高）577.
	女子	同志社高（京都）1419.	布浦裕子（同志社高）503.
第２回大会		（69’８.10.静岡県・県営草薙運動場）	
	男子	岸和田産業高（大阪）1689.	下向辰法（岸和田産高）573.
	女子	同志社高（京都）1470.	布浦裕子（同志社高）529.
第３回大会		（70’８.９.東京都・駒沢第一球技場）	
	男子	岸和田産業高（大阪）1606.	伊藤寿彦（岸和田産高）601.
	女子	同志社高（京都）1505.	熊谷登美（同志社高）527.
第４回大会		（71’８.１.京都府・府立大グランド）	
	男子	浜松工業高（静岡）1622.	亀井孝（同志社高）600.
	女子	甲南女子高（兵庫）1493.	井上典子（同志社高）534.
第５回大会		（72’８.４.神奈川県・三ッ沢球技場）	
	男子	横浜高（神奈川）1702.	角井和夫（広島工業高）583.
	女子	浜松北高（静岡）1601.	辻紀子（甲南女子高）552.
第６回大会		（73’８.５.東京都・駒沢第一球技場）	
	男子	愛知高（愛知）1764.	鈴木優（静岡三ケ日高）621.
	女子	同志社女子高（京都）1553.	辻紀子（甲南女子高）558.
第７回大会		（74’８.３.滋賀県・県営彦根総合運動場）	
	男子	同志社高（京都）1707.	河内敏雄（同志社高）600.
	女子	同志社女子高（京都）1644.	後藤有理子（同志社女高）573.
第８回大会		（75’８.３.愛知県・愛知学院大グランド）	
	男子	大阪工業大高（大阪）1753.	梅内秀和（八戸工大第二）646.
	女子	同志社高（京都）1586.	小里頼子（札幌啓成高）551.
第９回大会		（76’８.１.北海道・札幌真駒内アイスアリーナ）	
	男子	三本木農業高（青森）1810.	市川松治（三本木農高）633.
	女子	富士見高（静岡）1686.	佐野敦子（富士見高）592.
第10回大会		（77’７.31.宮城県・秋保森林スポーツ公園）	
	男子	慶応義塾高（神奈川）1817.	神野浩（慶応義塾高）627.
	女子	浜松商業高（静岡）1724.	松永弘子（富士見高）607.
第11回大会		（78’７.27.青森県・十和田市陸上競技場）	
	男子	愛知高（愛知）1785.	山本博（横浜高）639.
	女子	三本木農業高（青森）1641.	山内京子（浜松商業高）570.
第12回大会		（79’７.29.広島県・県営総合グランド）	
	男子	浜松工業高（静岡）1836.	山本博（横浜高）630.
	女子	山陽女子高（広島）1641.	大道理枝（山陽女子高）582.
第13回大会		（80’８.３.滋賀県・秦荘町民スポーツセンター）	
	男子	横浜高（神奈川）1925.	山本博（横浜高）670.
	女子	千葉英和高（千葉）1739.	大道理枝（山陽女子高）618.
第14回大会		（81’８.２.東京都・駒沢第二球技場）	
	男子	名古屋電気高（愛知）1888.	岐部恭史（大阪工大高）640.
	女子	大津商業高（滋賀）1794.	名倉裕子（浜松工業高）621.
第15回大会		（82’８.１.群馬県・川場中学校グランド）	
	男子	丹南高（福井）1817.	薄井雅美（馬頭高）625.
	女子	富士見高（静岡）1682.	平田さゆみ（札幌月寒高）598.

第16回大会（83'８．７．奈良県・三宅健民運動場）㊟雷雨の為、団体・個人共に63射迄の記録		
男　子	馬　頭　高（栃　木）1650.	池　田　辰　弥（慶応義塾高）571.
女　子	大津商業高（滋　賀）1587.	岩　波　ひろみ（大津商業高）543.
第17回大会（84'８．５．鳥取県・東郷湖羽合臨海公園スポーツ広場）		
男　子	米　子　北　高（鳥　取）1904.	松　田　武　文（米子北高）643.
女　子	札幌啓北商業高（北海道）1816.	山　本　和　美（札幌啓北商高）620.
第18回大会（85'８．11．山梨県・敷島総合公園運動場）		
男　子	米　子　北　高（鳥　取）1889.	室　伏　優一郎（横　浜　高）650.
女　子	大津商業高（滋　賀）1789.	児　玉　晶　子（米子北高）648.
第19回大会（86'７．27．沖縄県・宜野湾市海浜公園多目的広場）		
男　子	横　浜　高（神奈川）1787.	蓮　田　秋　二（東京学園高）629.
女　子	札幌啓北商業高（北海道）1753.	中　込　恵　子（甲府第一高）612.
第20回大会（87'７．25～26．京都府・日吉胡麻総合運動広場）		
男　子	三本木農業高（青　森）1876.	鎌　田　芳　彰（幕　別　高）643.
女　子	折　尾　高（福　岡）1775.	大　城　春　野（宜野湾高）611.
第21回大会（88'７．26～27．北海道・旭川市）		
男　子	北大津高（滋　賀）1883.	吉　田　賢（甲府第一高）657.
女　子	折　尾　高（福　岡）1881.	岩　山　美　保（折　尾　高）635.
第22回大会（89'７．26．～27．福岡県・北九州市）		
男　子	柏　陵　高（福　岡）1685.	山　本　敦（永　谷　高）603.
女　子	旭　川　北　高（北海道）1802.	鈴　木　知　子（桜　丘　高）634.
第23回大会（90'７．27．～28．石川県・柳田村）		
男　子	柏　陵　高（福　岡）1917.	宮　永　雅　史（柏　陵　高）657.
女　子	折　尾　高（福　岡）1796.	森　本　淳　子（同志社高）626.
第24回大会（91'７．27．～28．山形県・鶴岡市）		
男　子	同志社高（京　都）1813.	藤　原　悟（広島工業高）630.
女　子	折　尾　高（福　岡）1681.	岡　野　善　恵（甲南女子高）578.
第25回大会（92'７．26．～28．香川県・財田．仲南町）		
男　子	横浜高校（神奈川）1880.	木　村　正　純（横浜高校）650.
女　子	横浜学園（神奈川）1828.	川　上　祐佳里（柏　陵）639.
平成５年度　全国高等学校総合体育大会　第26回大会（93'８．１～４．栃木県・馬頭町）		
男　子	横　浜（神奈川）234.	木　村　正　純（横　浜）656.
女　子	大分東明高（大　分）205.	山　岡　麗　子（横浜学園）629.
平成６年度　全国高等学校総合体育大会　第27回大会（94'８．６～８．富山県・宇奈月町）		
男　子	柏　陵（福　岡）244.	桜　井　隼（東京工業）654.
女　子	甲南女子（兵　庫）218.	河　崎　由加里（山陽女子高）639.

選手権大会記録

[団体の部]

《男子》横　浜　高（神奈川）1925
- 山本　博　670（323.347）
- 臼井　肇　628（294.334）
- 足立　朋美　627（299.328）

・第13回大会

《女子》折　尾　高（福　岡）1881
- 岩山　美保　635（299.336）
- 坂田美穂子　624（291.333）
- 岡部　由布　622（290.332）

・第21回大会

[個人の部]

《男　子》

ハーフ・R	山本　博	670（323.347）	神奈川・横浜高・第13回大会
５０　M	山本　博	323	神奈川・横浜高・第13回大会
３０　M	山本　博	347	神奈川・横浜高・第13回大会

《女　子》

ハーフ・R	児玉　晶子	648（310.338）	鳥　取・米子北高・第18回大会
５０　M	児玉　晶子	310	鳥　取・米子北高・第18回大会
３０　M	鈴木　知子	341	愛　知・桜ヶ丘高・第22回大会

選抜大会　栄光の歩み

【男　子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	90m 70m 50m 30m	期日	開催地
1	河合徳之	浜松工	1199	246. 309. 306. 338.	'83. 3 .25-27	愛知・森林公園
2	角田信一	馬頭	1154	259. 277. 294. 324.	'84. 3 .25-27	静岡・富士市
3	松田武文	米子北	1131	208. 288. 301. 334.	'85. 3 .25-27	滋賀・秦荘町
4	田中喜美男	横浜	1198	265. 300. 294. 339.	'86. 3 .25-27	福井・芦原町
5	和田和則	馬頭	1174	234. 269. 307. 317.	'87. 3 .25-27	東京・駒沢公園
6	荒金利剛	米子北	1164	237. 282. 318. 327.	'88. 3 .25-27	大阪・久米田高
7	於久直人	北大津	1250	273. 319. 315. 343.	'89. 3 .25-27	神奈川・横浜高
8	赤井雅宏	北大津	1200	252. 307. 306. 335.	'90. 3 .25-27	兵庫・神戸市
9	田中勝美	横浜	1214	277. 321. 291. 322.	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
10	厚海善栄	田村	1216	259. 316. 307. 334	'92. 3 .25-27	京都・山城総合
11	木村正純	横浜	1232	249. 312. 326. 345	'93. 3 .25-27	静岡・草薙
12	園田孝史	横浜	1282	292. 322. 322. 346	'94. 3 .27-28	滋賀・長浜市
13	松田浩行	柏陵	1288	296. 322. 322. 348	'95.3.26-28	滋賀・長浜市

【女　子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	70m 60m 50m 30m	期日	開催地
1	上鹿渡由美	北海道清水	1183	285. 303. 270. 325.	'83. 3 .25-27	愛知・森林公園
2	田中志律	千葉英和	1124	257. 268. 274. 325.	'84. 3 .25-27	静岡・富士市
3	藤本正美	大津商業	1195	265. 299. 296. 335.	'85. 3 .25-27	滋賀・秦荘町
4	大城春野	宜野湾	1153	276. 286. 272. 319.	'86. 3 .25-27	福井・芦原町
5	松宮真由美	丹南	1207	283. 299. 306. 319.	'87. 3 .25-27	東京・駒沢公園
6	近藤真弓	信愛学園	1216	287. 312. 292. 325.	'88. 3 .25-27	大阪・久米田高
7	小山美代子	兎道	1237	291. 314. 304. 328.	'89. 3 .25-27	神奈川・横浜高
8	高木祐子	富士見	1177	263. 289. 305. 320.	'90. 3 .25-27	兵庫・神戸市
9	谷口和子	折尾	1214	288. 316. 280. 330.	'91. 3 .26-28	愛知・愛学院大
10	大内愛	山陽女子	1215	294. 304. 293 324	'92. 3 .25-27	京都・山城総合
11	山岡麗子	横浜学園	1235	293. 313. 295 334	'93. 3 .25-27	静岡・草薙
12	今福織江	大分東明	1297	315. 321. 318 343	'94. 3 .27-28	滋賀・長浜市
13	冨島優	甲南女子	1271	292. 319. 318. 342	'95. 3 .26-28	滋賀・長浜市

選抜大会記録

11回大会以前（アウトドア）

【男子の部】

TOTAL	於久直人	1250（273・319・315・343）	滋賀・北大津・第7回大会
90m	田中勝美	277	神奈川・横浜・第9回大会
70m	田中勝美	321	神奈川・横浜・第9回大会
50m	木村正純	326	神奈川・横浜・第11回大会
30m	木村正純	345	神奈川・横浜・第11回大会

【女子の部】

TOTAL	小山美代子	1237（291・314・304・328）	京都・兎道・第7回大会
70m	長見みどり	296	広島・山陽女子・第7回大会
60m	池田敦美	316	山形・天真学園・第7回大会
50m	松宮真由美	306	福井・丹南・第5回大会
30m	後藤和美	339	埼玉・大宮開成・第11回大会

12回大会以降（インドア）

【男子の部】

TOTAL	松田浩行	1288（296・322・322・348）	福岡・柏陵・第13回大会
90m	松田浩行	296	福岡・柏陵・第13回大会
70m	園田孝史	322	神奈川・横浜・第12回大会
	松田浩行	322	福岡・柏陵・第13回大会
50m	板倉幹郎	322	神奈川・三浦学園・第12回大会
	松田浩行	322	福岡・柏陵・第13回大会
	舟橋裕樹	322	愛知・三河・第13回大会
30m	松田浩行	348	福岡・柏陵・第13回大会

【女子の部】

TOTAL	今福織江	1297（291・314・304・328）	大分・大分東明・第12回大会
70m	今福織江	315	大分・大分東明・第12回大会
60m	小出美沙都	325	大分・明星・第12回大会
50m	今福織江	318	大分・大分東明・第12回大会
	冨島優	318	兵庫・甲南女子・第13回大会
30m	熊谷愛	344	福岡・柏陵・第12回大会

日本高校記録
（FITA ROUND）

平成６年11月20日現在
全国高体連アーチェリー専門部

〈男　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
シングル	大橋　亨	東京工業高・東京	１２８９ (296 323 320 350)	89年東京都秋季大会	89.10.8	東京・世田谷区
９０Ｍ	三浦　一己	野津田高・東京	２９９	91年東京新聞杯大会	91.6.2	東京・世田谷区
７０Ｍ	坂本　隆輝	東京第二・熊本	３２９	93年熊本県公認記録会	93.9.12	熊本・荒尾市
５０Ｍ	藤原　悟	広島工業高・広島	３３０	91年中国地区選手権	91.9.22	広島・千代田町
３０Ｍ	若杉徳之	柏　陵・福岡	３５１	92年福岡県秋季大会	92.9.20	福岡・福岡市
ハーフ	園田隆史	横浜高・神奈川	６７１ (323 347)	第49回国体神奈川県予選	94.6.26	神奈川・横浜市
５０Ｍ	鎌田芳彰	幕別高・北海道	３２５	第41回「かいじ」国体	86.10.14	山梨・敷島町
３０Ｍ	田島光浩	愛知高・愛知	３５０	第41回国体地区予選	86.8.30	岐阜・関市
ＴＥＡＭ	光田　健 西川清一 宮永雅史	柏　陵・福岡	１９５５ 663 (321.342) 646 (302.344) 646 (311.335)	90年福岡県高校総体	90.6.3	福岡・福岡市

〈女　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
シングル	大内　愛	山陽女子高・広島	１２９１ (315 322 314 340)	第34回全日本選手権	92.11.6	静岡・掛川市
７０Ｍ	大内　愛	山陽女子高・広島	３１９	92年広島県夏季大会	92.8.9	広島・瀬野川町
６０Ｍ	八木かおり	兎道高・京都	３２９	第1回ソウル国際大会	94.6.11	韓国・清州市
５０Ｍ	村上　千夏	折尾高・福岡	３１９	91年全九州選手県	91.9.1	福岡・小国町
３０Ｍ	井上鹿代子	富士見高・静岡	３４８	89年地区大会	89.6.11	静岡・田方郡
ハーフ	横田　知子	大分東明高・大分	６５４ (308 346)	第49回国体大分県二次予選	94.5.14	大分・別府市
５０Ｍ	宮岸かおり	札幌啓北高・北海道	３２０	第44回国体地区予選	89.8.4	北海道・旭川市
３０Ｍ	横田　知子	大分東明高・大分	３４６	第49回国体大分県二次予選	94.5.14	大分・別府市
ＴＥＡＭ	横田　知子 今福　織江 三浦　洋子	大分東明高・大分	１９０７ 646 (307.339) 645 (314.331) 616 (292.324)	94年大分県高校総合体育大会	94.6.4	大分・大分市

〔日本高校最高記録〕
ＦＩＴＡダブルラウンド

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
男子	園田　孝史	横　浜・神奈川	２５１１ (1230 1281)	世界ジュニア大会最終選考会	94.6.30	広島・広島市
女子	児玉　晶子	米子北高・鳥取	２５３７ (1275 1262)	第27回全日本選手権大会	86.11.10	山梨・敷島市

日本高校記録（ＦＩＴＡ　ＲＯＵＮＤ）

参考記録（室内）

平成７年３月28日現在
全国高体連アーチェリー専門部

〈男　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
TOTAL	松田浩行	柏　陵・福　岡	１２８８ (296 322 322 348)	第13回選抜大会	95.３.28	滋賀・長浜
９０Ｍ	松田浩行	柏　陵・福　岡	２９６	第13回選抜大会	95.３.27	滋賀・長浜
７０Ｍ	園田孝史	横　浜・神奈川	３２２	第12回選抜大会	94.３.27	滋賀・長浜
	松田浩行	柏　陵・福　岡	３２２	第13回選抜大会	95.３.27	滋賀・長浜
５０Ｍ	板倉幹郎	三浦学園・神奈川	３２２	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜
	松田浩行	柏　陵・福　岡	３２２	第13回選抜大会	95.３.28	滋賀・長浜
	舟橋裕樹	三　河・愛　知	３２２	第13回選抜大会	95.３.28	滋賀・長浜
３０Ｍ	松田浩行	柏　陵・福　岡	３４８	第13回選抜大会	95.３.27	滋賀・長浜

〈女　子〉

種　別	選　手　名	学校名・府県名	記　録	大　会　名	樹立年月日	会場地名
TOTAL	今福織江	大分東明・大分	１２９７ (314 321 318 343)	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜
７０Ｍ	今福織江	大分東明・大分	３１５	第12回選抜大会	94.３.27	滋賀・長浜
６０Ｍ	小出美沙都	明　　星・大分	３２５	第13回選抜大会	95.３.27	滋賀・長浜
５０Ｍ	今福織江	大分東明・大分	３１８	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜
	冨島　愛	甲南女子・兵庫	３１８	第13回選抜大会	95.３.28	滋賀・長浜
３０Ｍ	熊谷　愛	柏　　陵・福岡	３４４	第12回選抜大会	94.３.28	滋賀・長浜

ＦＩＴＡ世界記録・日本記録

1994年11月20日現在

男子

ＦＩＴＡ　ＲＯＵＮＤ　日　本　　世　界

FITA ROUND	山本　博	(埼玉)	1338	1993年	HAN,Seung-Hun	KOR	1354	1994年
90M	山本　博	(日本)	325	1989年	ESHEEV,VLadimir	USSR	330	1990年
70M	山本　博	(埼玉)	344	1990年	YAMAMOTO,Hiroshi	JPN	344	1990年
50M	山本　博	(埼玉)	342	1991年	HAN,Seung-Hun	KOR	348	1994年
30M	松下和幹	(日本)	357	1986年	HAN,Seung-Hun	KOR	360	1994年
TEAM FITA ROUND	山本　博 於久直人 西川清一	1335 1295 1271	3901 (日本)	1992年	PARK,Kyinzg-Mo KIM,Kyeng-HO HAN,Seong-Nam	KOR	4035	1993年

ＯＬＹＭＰＩＣ　ＲＯＵＮＤ

O.R.MATCH (18)	山本　博	(日本)	166	1994年	CHIKAREV,Vadim	KAZ	175	1994年
O.R.MATCH (18)	山本　博	(日本)	114	1992年	PARK,Kying-Mo	KOR	119	1993年
O.R.MATCH TOTAL (72)	松下和幹	(日本)	643	1994年	FLUTE,Sebastien	FRA	678	1993年
O.R.TEAM MATCH (3X9)	松下和幹 西川　定 山本　博	(日本)	248	1994年	CHUNG,Jae-Hun OH,Kyo-Moon PARK,Kyung-Mo	KOR	259	1994年
O.R.TEAM MATCH (3X27)	松下和幹 西川　定 山本　博	(日本)	727	1994年	CHUNG,Jae-Hun OH,Kyo-Moon PARK,Kyung-Mo	KOR	761	1994年

50，30M　ＲＯＵＮＤ

50,30M ROUND	山本　博	(神奈川)	690	1988年
50M	山本　博	(神奈川)	336	1988年
30M	山本　博	(神奈川)	354	1988年
TEAM TOTAL	山本　博 松下和幹 石鉢利明	676 673 666	2015 (埼玉)	1993年

＜日本最高記録＞

ＤＯＵＢＬＥ　ＦＩＴＡ　ＲＯＵＮＤ

DOUBLE FITA ROUND	松下和幹	(神奈川)	2632	1987年
90M	松下和幹	(神奈川)	629	1987年
70M	松下和幹	(神奈川)	664	1987年
50M	松下和幹	(日　本)	669	1987年
30M	松下和幹	(日　本)	707	1985年
TEAM DOUBLE FITA ROUND	山本　博 松下和幹 古橋照司	2581 2580 2535	7696 (日本)	1988年

女子

FITA ROUND　日　本　　世　界

FITA ROUND	大内　愛	(広島)	1321	1994年	CHO,Youn-Jeong	KOR	1375	1992年
70M	大内　愛	(広島)	327	1994年	CHO,Youn-Jeong	KOR	338	1992年
60M	大内　愛	(広島)	335	1993年	KIM,Soo-Nyung	KOR	347	1989年
50M	中込恵子	(日本)	334	1990年	LIM,Jung	KOR	340	1994年
30M	中川さつき	(広島)	350	1992年	EDENS,Joanne	GBR	357	1990年
TEAM FITA ROUND	平末千秋 中込恵子 中川さつき	1293 1278 1258	3829 (日本)	1990年	CHO,Youn-Jeong KIM,Soo-Nyung LEE,Eun,Kyung	KOR	4094	1992年

OLYMPIC　ROUND

O.R.MATCH (18)	大内　愛 今福織江	(日本) (日本)	159	1994年	HAN,Hee-Jeong	KOR	171	1994年
O.R.MATCH (18)	市木玲子	(広島)	111	1993年	KIM,Hyo-Jeong	KOR	117	1993年
O.R.MATCH TOTAL (72)	大内　愛	(広島)	632	1994年	WILLIAMSON,ALison	GBR	651	1994年
O.R.TEAM MATCH (3X9)	大内　愛 持田　牧 藤田玲子	(日本)	235	1993年	LIN,Sang WANG,Xiaozhu ZHANG,Fan	CHN	250	1994年
O.R.TEAM MATCH (3X27)	今福織江 大内　愛 八木かおり	(日本)	679	1994年	MENSING,Barbara PFOHL,Cornelia WAGNER,Sandra	GER	718	1994年

50, 30M　ROUND

50,30M ROUND	児玉晶子	(神奈川)	659	1986年
50M	中川さつき	(広　島)	323	1988年
30M	児玉晶子	(神奈川)	349	1987年
TEAM TOTAL	児玉晶子 安田みずほ 飯島久代	652 648 607	1907 (神奈川)	1990年

<日本最高記録>

DOUBLE　FITA　ROUND

DOUBLE FITA ROUND	児玉晶子	(神奈川)	2621	1986年
90M	児玉晶子	(神奈川)	638	1986年
70M	児玉晶子	(日　本)	664	1986年
50M	中込恵子	(日　本)	649	1990年
30M	伊藤邦栄	(関西大)	691	1984年
TEAM DOUBLE FITA ROUND	児玉晶子 柴田晶与 中川さつき	2531 2495 2463	7489 (日本)	1984年

記録収集について

競技委員会

記録収集の意義につきましては組織の歴史であり、同時に将来的な発展の最も大きな源動力となるべきものであります。競技力の向上、組織の活性化、競技の普及拡大、すべてこの記録無しには考えられません。つきましては記録送付及び記入要領は下記の要領でお願いします。

【1】送付記録は原則としてコンピュータデータの形式とする。

【2】種別、種目、項目は従来通りとする。

【3】各都道府県で【2】の2種別、6種目について競技者のランキングを作成し、そのデータを送付する。

【4】送付用フロッピーディクスは競技委員会記録部より配布するので、その中に入力する。

【5】記録送付競技会

(1) 都道府県高等学校体育連盟主催の競技会

(2) 全ア連主催あるいは各県公認競技会・予選会

データ入力上の注意

【1】各項目のセル幅について

(1) セルを移動すると画面左上にセル番地と共に数字が出ますが、これは設定されたセル幅です。出ないのは標準のセル幅（半角10）です。

(2) セル幅の変更はしないで下さい。

【2】各項目への入力について

(1) 順位

各県単位の順位はつけても良いが、送付用は消去して下さい。

(2) 氏名

全角左詰めとします。（全角6文字）

例	氏2文字	名2文字	□□□□
	氏2文字	名1文字	□□□
	氏1文字	名2文字	□□□
	氏3文字	名3文字	□□□□□□
	氏3文字	名1文字	□□□□

(3) 所属県名

全角左詰め文字入力とします。（全角3文字）

都・府・県の文字はいりません。

(4) 登録番号

左詰めで、半角数字（文字）入力します。（半角９文字）

例　25H015005

　　42H021001

(5) 学校番号

左詰めで、半角数字（文字）入力します。（半角５文字）

例　40H01

　　11H04

(6) 学校名

全角左詰めとします。ハーフ・シングル（半角10）、団体（半角11）５文字内で入力します。学校名の後に高校・高の文字は５文字以内ならば、つけて下さい。

(7) 学年

半角、数値入力とします。

(8) 合計

各種目の距離別小計は数値入力とします。

種目の合計欄には計算式が書き込まれている筈ですから、各距離得点へ入力して下さい。

団体は必ずチームの１位・２位・３位の順に左から入力して下さい。

（団体順位のソートは団体合計・１位得点・２位得点の順に実行します）

(9) 日時

日時は半角数字（文字）入力します。年は不要です。

例　08/03

　　11/03

　　10/10

(10) 競技会名

全角５文字位で入力して下さい。

　例　長崎県民体育大会……長崎県体又は県体

(11) 会場名

全角入力とします。（全角６文字）

セル幅は全角６文字に設定しています。これを越えても入力はできますが、長過ぎると製本時に切れることがあります。

開催された県名／会場地名を入力します。（／を間に入れて下さい）

例　埼玉／上尾橘

　　大分／狭間町

グラウンド等はGで省略して下さい。

例　田布施高校グラウンド……田布施高校G

【3】得点記録集計のディスクについて

(1) LOTUS－123　R2.1JまたはR2.2Jで作成されたデータとする。

(2) ディスクは原則として3.5”(2DD.HD)を使用するが、5”(2HD)でも良い。

(3) ディスクは必ずコピーディスクにラベルをつけ、県名・入力責任者名・住所を記入して送付する。

【4】送付先及び締切期日

送付先　〒856　長崎県大村市森園町1079-3
長崎県立大村工業高等学校
機械科　大塚　敬輔　宛

TEL　0957 52-3772・3773　内線45

FAX　0957 52-3773

締切期日　当該年度の12月20日（必着）
遅れると製本期日の都合上記載されない場合があります。

問合わせ　質問・問合わせは上記住所・電話番号へお願いします。

高校公認記録規程

第１条　全日本アーチェリー連盟（以下「全ア連」という。）規約第11章第136～143条にもとづき、全国高等学校アーチェリー連盟（以下「本連盟」という。）規約第８章第11条第３項により競技記録公認規定をこれにより定める。

第２条　本連盟の加盟・登録者が、この規定の定めるところにより、その加盟学校および登録構成員が、以下にかかげる諸条項のもとに行われた競技会において作られた記録に限り公認申請することができる。

第３条　日本高校記録は、全ア連競技規則第137条の外、次の条件を満たすこと。

１）当該年の４月１日現在18歳未満の高校生の記録であること。ただし、定時制生徒は19歳未満とする。

２）(1)全ア連が公認した競技会における記録。

(2)各都道府県単位または地域高校競技会の記録。

ただし、印刷したプログラムがあり、競技委員長・審判長・射場長は公認審判員であること。

(3)ハーフラウンド及びハーフラウンド団体の記録は、ハーフラウンドの競技会の記録であること。

第４条　個人の距離別の記録公認については、第３条に規定された競技会において樹立されたものを申請することができる。

第５条　前条に定める競技会の記録公認申請は、競技の日より原則として１カ月以内に主催または主管団体長が前条の確認をなし、全ア連所定の記録承認申請書（連盟様式－６）に必要事項を記載し、全ア連事務局に提出するものとする。

第６条　全ア連理事会で審査の結果、新記録として承認されたときは、その旨を本連盟においても発表し、高等学校記録証を交付する。

第７条　毎年12月10日付をもって、各都道府県高体連ア専門部または各都道府県ア協会は第３条に定めた競技会にる当該都道府県の高等学校最高記録を保管し、その写しを毎年12月20日までに本連盟事務局まで送付しなければならない。

第８条　本規定は、本連盟理事会において改廃する。

第９条　本規定は昭和57年５月９日より施行する。

昭和60年４月１日一部改正

昭和63年２月11日一部改正

平成６年８月５日一部改正

申請書送付先

〒150　東京都渋谷区神南１－１－１

岸記念体育会館内　全日本アーチェリー連盟　宛

平成　　年　　月　　日

全日本アーチェリー連盟

会　長　　殿

主催者名

主管団体名

会　長　名　　㊞

新記録の樹立承認申請書の送付について
（申　　請）

標記のことについて、下記の通り新しい記録が樹立されましたので、ここに関係書類を添えて申請いたします。

なお、関係書類の到着のうえは、書類内容の点検をいただくとともに念のため受領確認書を送付くださるようお願いします。

記

1.　内容記録：記録申請

2.　送付書類：ア）記録承認申請書……1　部

イ）スコアーシート（写）…1　部

ウ）競技会プログラム……1　部

エ）競技会成績表……1　部

以　上

受領確認	全日ア連	受付月日：　　月　　日
		確認者： 氏　名：　　㊞

（上記記入のうえ、複写書類を返送下さい）

（様式－６ア）　　平成　　年　　月　　日

全日本アーチェリー連盟会長殿

主管団体名

会　長　名　　㊞

記録承認申請書

下記の通り新記録が樹立されましたので、ここに承認申請をいたします。

申請内容		日本記録		日本高校記録		日本国際記録		
競技会名	第　　回							
期日	平成　　年　　月　　日～　　月　　日.（　　日間）							
会場								
区分・種別		団体		個人		男子		女子
種目・距離		ハーフ・R		シングル・R		ダブル・R		グランド・R
		個人TOTAL		個人距離	90.　70.　60.　50.　30.m			
競技者名	（学校・所属名） ＿＿＿＿＿＿＿＿	①氏　名：　　登録番号　H　－						
		②氏　名：　　登録番号　H　－						
		③氏　名：　　登録番号　H　－						
記録内容	団体記録	合　計：＿＿＿点						
		①＿＿＿＿＿点（90・70m：　点・50m：　点 70・60m：　点・30m：　点）						
		②＿＿＿＿＿点（90・70m：　点・50m：　点 70・60m：　点・30m：　点）						
		③＿＿＿＿＿点（90・70m：　点・50m：　点 70・60m：　点・30m：　点）						
	個人記録	点（　　，　　，　　，　　点）						
	距離記録	m：　　点（　　点・　　点）						
		m：　　点（　　点・　　点）						
競技会責任者	競技委員長または審判長の署名・捺印　㊞							
備考	1．申請書は、新記録が樹立された種目毎に１枚あて提出すること。 2．添付種類は、①スコアーシートーの写し（コピー可）. ②競技会プログラム. ③競技会成績一覧表.　を提出すること。 3．未登録の場合、記録樹立後の競技者登録および承認申請書の提出は、いかなる理由があっても認められない。							

大会開催地・開催順（予定）

和　　暦	西暦	ＩＨ・選手権	選　抜　大　会	国　　体
平成７年	1995	広島県・	滋賀県・長浜	福島県・三春町
平成８年	1996	山梨県・		広島県・
平成９年	1997	京都府（予）		大阪府・
平成10年	1998	香　川（予）		神奈川県
平成11年	1999	岩　手（予）		熊本県
平成12年	2000	岐　阜（予）		富山県
平成13年	2001	沖　縄（予）		

ＩＨは、東　地区・・・北海道・東北・関東地区（15都道府県）
　　中　地区・・・北信越・東海・近畿地区（15府県）
　　西　地区・・・中国・四国・九州地区（17県）
　　のローテイションで９年（中・西）に１回の開催。

（続）平成７年度以降の全国高等学校アーチェリー選手権大会について

平成７年度

期　　日　平成７年８月１日（火）より平成７年８月４日（金）
場　　所　広島広域公園第１球技場
競技種目　50M－30Mハーフラウンド（団体戦予選、個人戦決勝）
競技日程

日　程	競　　技	内　　容
１日目	団体予選 個人決勝	開会式
		男子50m
		女子50m
２日目	団体予選 個人決勝	男子30m
		女子30m
		個人表彰式・予選通過校発表
３日目	団体決勝	男子１回戦
		女子１回戦
		男子２回戦
		女子２回戦
		男女準準決勝
		男女準決勝
		男女決勝・男女３位決定戦
		団体競技表彰式・閉会式

競技方法

団体競技予選と個人競技決勝は50M－30M各36射のハーフラウンドとする。

従来通り、個人戦と団体戦予選は兼ねて実施される。

団体競技予選はチーム３名の個人得点合計で順位され、予選通過は男女ともに24位までとされる。

予選結果で上位８チームまでは別表のように１回戦シードされる。すなわち、予選１位は予選17位と16位の１回戦の勝利者と２回戦で対戦することになる。

選手交代は前年通り、エントリーされた選手を公式練習前、決勝ラウンドの前日までに実施される。

競技は団体予選と個人決勝は、１標的に同時２名で２立ち（ＡＢ、ＣＤ）とし、団体決勝ラウンドは、１標的に同時３名（同一チーム）で１立ちとし、２分３射で矢取りとする。

試射はフリータイムとして行う。

参加制限として個人競技のマネージャーは認めない。

表彰は団体競技ともに男女各８位までを表彰する。

平成８年度

期　　日　平成８年

場　　所　山梨県

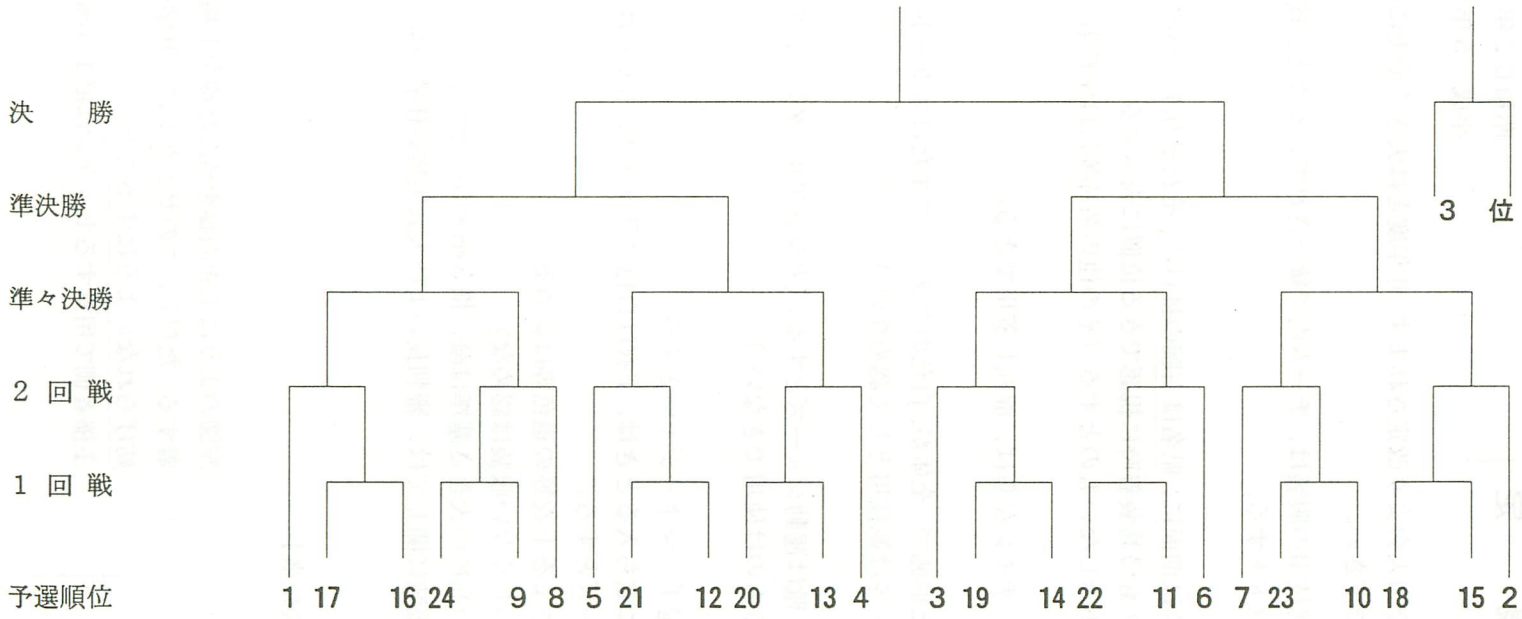
競技種目　団体競技・個人競技　予選はシングルハーフラウンド、決勝はチャンピオンシップラウンド

競技日程

日　程	競　　技	内　　容	
１日目	開会式 団体競技・個人競技予選ラウンド 長距離	開会式 男子90M・70M　各18射 女子70M・60M　各18射	
２日目	団体競技・個人競技予選ラウンド 短距離	男子50M・30M　各18射 女子50M・30M　各18射 予選通過校発表	
３日目	団体競技・個人競技決勝ラウンド １回戦・２回戦・準決勝	団　体	男子１回戦 女子１回戦 男子２回戦 女子２回戦 男女準々決勝
		個　人	男子１回戦 女子１回戦 男子２回戦 女子２回戦 男女準々決勝
４日目	団体競技・個人競技決勝ラウンド 準決勝・３位決定戦・優勝決定戦 表彰式・閉会式	団　体	男女準決勝 男女３位決定 男女優勝決定戦
		個　人	男女準決勝 男女３位決定 男女優勝決定戦 表彰式・閉会式

競技方法

団体競技・個人競技の予選は従来のシングルラウンドの半分の本数で争う、シングルハーフラウンドとする。決勝ラウンドは70Mで122cm的を使用し、３名の競技者が１名ずつローテーションして同じ標的に向かって行射する。その他　詳細に関しては次号で説明します。


決　勝
準決勝
準々決勝
2 回 戦
1 回 戦
予選順位
3 位
1 17 16 24 9 8 5 21 12 20 13 4 3 19 14 22 11 6 7 23 10 18 15 2

服　装　規　定

競技部　競技委員会　細則
昭和６２年２月１１日改定
平成　５年３月２６日改定

服装規定が本年度の全国大会より改定されます。昨年度とは大きく変更になるところがありますので、よく読んで下さい。

大会参加者における競技用の服装は、チーム内で統一されていること。統一の範囲は、上衣、下衣、帽子、靴、靴下とする。

１、上　衣

学校名は背面もしくは前面に、県名は右腕の袖口に、それぞれ１ヶ所明示しなければならない。なお、いずれも弓具装着時に視認できる位置に表示する。

その他の名称等は表示しないものとする。(その他の名称等には学校名、クラブ等の愛称も含む)

長袖、短袖は同一デザインならば、混在し着用できる。

２、下　衣

競技するのに適した形態で、全体が、白色のクラックスまたはスカートとする。(ジーパン、綿パン、ジャージ等は競技用として認めない。)

３、帽子、靴、靴下

白地のものとする。靴は運動シューズとする。(カジュアル、ダンス、タウン等の競技に適さないと認められるものは使用できない。)

４、その他

(1)　チームとは登録選手、マネージャーとする。

(2)　監督が競技場内に立ち入るときは、下衣は白色スラックス、もしくはスカートとし靴は白地の運動シューズとする。

(3)　使用頻度、経年による上衣等の退色等は認める。

(4)　大会の場にふさわしくない服装は認めない。

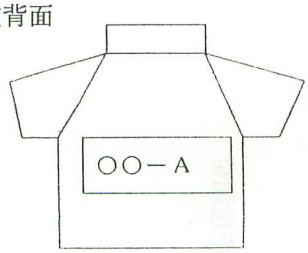
(5)　視認できる部分の商標の大きさ基準は縦、横５cm×５cmとする。

上記の規定外の服装に関しては、審判長および大会実施責任者の裁定に委ねる。

＊備考

【競技用ゼッケンの着装位置】

上衣背面



左図のように上衣両脇を結んだ線を上端とする位置に装着する。ただし、このゼッケンにより学校名等の視認が妨げられないようにすること。

主催者側で用意するゼッケンは縦１５cm、横２５cmです。

尚、本規定は平成５年４月１日より実施するものとする。

大会実施要項に記載すべき内容（各都道府県内大会）

1．大 会 名……ア．平成〇〇年度、第〇〇回
　　イ．大 会 名（兼.第１次予選、第２次予選、最終予選）
2．期　　日……ア．平成〇〇年〇月〇〇日（　）～〇月〇〇日（　）
　　イ．平成〇〇年〇月〇〇日（　）開始　　時　　分～
3．場　　所……ア．〇〇高等学校グランド.（ＴＥＬ　　―　　―　　）
4．主　　催……ア．〇〇県教育委員会、〇〇市教育委員会
　　イ．〇〇県高等学校体育連盟
5．主　　管……ア．〇〇県高等学校体育連盟アーチェリー専門部
　　イ．〇〇県高等学校アーチェリー連盟
6．日　　程……ア．開会式、競技開始、競技終了、表彰式（時間明示）
7．参加資格……１）全日本アーチェリー連盟ならびに全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部に生徒会員登録する高等学校生であること。
　　２）学校長の出場許可があり、当該高等学校教員が引率してくること。
　　３）年齢は、４月２日を起算日とし19才未満の生徒とする。
　　４）チーム編成において、全日制課程、定時制課程、通信制課程の生徒による混成は認めない。
8．参加制限……１）参加制限内容の明示
　　２）　　〃
　　３）参加申込み後のメンバー変更は認めない。
9．競技規定……平成〇〇年度、全日本アーチェリー連盟「標的競技規則」および大会運営規定を適応する。
　　１）競技種目
　　ａ．ＦＩＴＡ〇〇〇〇ラウンド競技とし、学校対抗・個人戦を実施する。
　　ｂ．学校対抗（団体の部）は、各校上位３名の得点を合計し成績決定する。
　　ｃ．学校対抗の部に出場する選手の得点は、個人の部の成績を兼ねる。
　　２）競技方法
　　ａ．各距離とも１標的１名で、Ａ・Ｂ・Ｃの３立制で実施する。
　　ｂ．試射は、ＡＢＣ．ＡＢＣの３射×12回の６射以内を最長距離で実施する。
　　ｃ．行射はＡＢＣ／ＣＡＢ／ＢＣＡの順で、３射毎に得点記録・矢

取りを繰り返す。

3）得点記録方法

得点記録は、同一標的を使用する全選手で行う。ただし、的中得点の自己申告ならびに自己記入は、全て失格矢の取扱いとし得点を認ない。

a．的中する矢の得点判読と記入は、その矢を所有する競技者以外の者が全てを呼称し、同標的を使用する他の競技者がシートに記録を記入する。

b．同標的を使用する全競技者が、相互にローテーションして的中得点の呼称とシート記入の確認者となって、得点記録を実施する。

c．得点判読・誤記入等で疑義がある場合には、審判員の判断をあおぎその判定を最終のものとする。

10. 服装規定……　開・閉会式および競技中の服装は、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が制定する服装規定の通りとする。

11. 表　　彰

12. 参加費用

13. 連絡事項

14.そ の 他

プログラム作成の基準について

Ⅰ．目　　的

各県が作成するプログラムの記載内容を統一するとともに、相互の連携を以て組織の充実と地域編成を推し進めるため、この基準を定める。

Ⅱ．対　　象

加盟各都道府県の高等学校生徒を対象とする競技会プログラムとし、出来るかぎり速やかに対応すること。

Ⅲ．作成基準（次の通りとする。）

1．内　　容

県内における高等学校アーチェリー競技会に相応しい掲載内容とする。

（広告は努めて掲載しないことが望ましい。）

2．規 格 等

ア）規　格　Ｂ－５判サイズ、紙質：中質紙

イ）様　式　横書き（縦左とじ：右山折り返し）

ウ）書　式　手書き・タイプ印刷等

Ⅳ．掲載内容等（次のとおりとする。）

①［おもて　表紙］

1）大会名

2）期日・会場名

3）主催・主管

4）参加校数

5）大会・競技役目

②［表紙みかえし］＝（表紙裏）

1）競技日程

2）式典次第

3）参加校顧問名・出場選手数一覧表（男女別）

③［掲載内容等の順］

1）栄光のあゆみ（過去の成績）……Ｐ．１

2）大会記録・県高校記録

3）参加資格・制限……Ｐ．２

4）競技規定

ア．競技種目

イ．競技方法

ウ．得点記録の方法

④立順組合せ一覧表（男女別）……Ｐ．３～

⑤成績表……Ｐ．３最終頁

（作成にあたっては、以下を参照のこと。）

①［表　　紙］

大　会　名

平成　　年度
○○県高等学校□□アーチェリー競技会
（兼．全国高等学校選手権△△予選会）

□□…春季・秋季・県民
△△…１次・２次・最終

期　　日　平成○○年○月○○日（　）～○月○○日（　）
会 場 名　○○高等学校グラウンド（○○市民アーチェリー射場）
主　　催　○○県教育委員会　○○県高等学校体育連盟
後　　援　上部団体（県教委・県高体連の指導に従うこと）
主　　管　○○県高等学校体育連盟アーチェリー専門部
参加校数　男　　子　○○校　○○○名
　　女　　子　○○校　○○○名

大　会　役　員

大 会 会 長（高体連会長ｏｒ協会会長）
大会副会長（高体連副会長ｏｒ協会副会長）
大会委員長（専門部部長ｏｒ協会理事長）
大会委員（専門部副部長ｏｒ協会副理事長）

競　技　役　員

競技委員会（専門委員長）
競技副委員会（専門副委員長）
　総　　務・式典表彰・広　報　係・救　護　係
　審　判　長・審　判　員
　射　場　長・計　時　係・計　測　係・会　場　係
　本部記録・記　録　係
　　・記録通報（本連盟へ競技会記録を報告する責任者）

②［表紙みかえし］

競技日程　○月○○日（　）
　開　会　式　○○時○○分～
　競技開始　○○時○○分～（学校対抗）（個人戦）
　競技終了　○○時○○分
　閉　会　式　○○時○○分～

式典次第

[開　会　式]	[閉　会　式]
選手集合・整列	選手集合・整列
1．開　会　宣　言	1．開　式　通　告
2．優　勝　杯　返　還	2．成　績　発　表
3．大会会長挨拶	3．表　　彰
4．審　判　長　注　意	4．審　判　長　講　評
5．選　手　宣　誓	5．大会会長挨拶
6．閉　式　通　告	6．閉　式　通　告
選手退場・解散	選手退場・解散

参加校の顧問名・出場選手数一覧表（男・女別計）…参考様式

学　校　名	男　子		女　子		合　計		顧　問　名
	団体	個人	団体	個人	団体	個人	

③［過去の成績］（各年度・回数別に）参考様式

男女別　団体　優勝校名・記録［得点合計（上位３人の得点内訳）］

〃　　個人　優勝者名・記録［得点合計（50m・30mの得点内訳）］

年	回	性	団　　体	個　　人
＊＊	1	男	○　○　高1930（660.640.630）	○○○○（＊＊高）650（610.640）
		女	◇　◇商高1870（630.630.610）	◇◇◇◇（＋＋高）640（610.630）
＋＋	2	男		
		女		
＋＋	3	男		
		女		

④［大会記録］

［団体男子］

○　○　　高　1930　┌◇◇　◇◇660（320．340）
（第○○回大会）　　│□□　□□640（310．330）
　　└△△　△△630（315．315）

［団体女子］

○　○　　高　1870　┌◇◇　◇◇635（310．325）
（第○○回大会）　　│□□　□□620（300．320）
　　└△△　△△615（300．315）

［個人男子］

△△　△△（□□高）　６４５（３１０．３３５）

（第○○回大会）

［個人女子］

△△　△△（□□高）　６３５（３１０．３２５）

（第○○回大会）

県高校記録

［団体男子］

◇◇　　高　１９３１　◇◇　◇◇６５１（３２０．３３１）
　　□□　□□６４５（３１５．３３０）
　　△△　△△６３５（３１５．３２０）

（第○○回大会）

［団体女子］

◇◇　　高　１８８０　◇◇　◇◇６３０（３１０．３２０）
　　□□　□□６３５（３１０．３２５）
　　△△　△△６１５（３０５．３１０

（第○○回大会）

［個人男子］

○○　○○（◇◇高）６８０（３３０．３５０）

（第○○回大会）

［個人女子］

○○　○○（◇◇高）６５０（３１０．３４０）

（第○○回大会）

⑤［参加資格］

１）高等学校に在籍する生徒で、平成　年度「全日本アーチェリー連盟」に生徒競技者登録を完了したものであること。

２）年令は４月２日を起算し、18才未満の生徒とする。ただし、同一学年での出場は１回限りとする。

参加制限

⑥［競技規定］

平成○○年度、全日本アーチェリー連盟「標的競技規則」および大会運営規定を適用する。

１．競技種目

１）ＦＩＴＡハーフ・ラウンド競技とし、学校対抗・個人の部を実施する。

２）学校対抗（団体）の部は、各校上位３名の得点を合計し成績決定する。

３）学校対抗の部に出場する選手の得点は、個人の部の成績を兼ねる。

２．競技方法

１）各距離とも１標的１名で、Ａ・Ｂ・Ｃの３立制で実施する。

２）試射は、ＡＢＣ.ＡＢＣの３射×２回の６射以内を最長距離で実施する。

3）行射の順序は、各距離ともＡＢＣ矢取り、ＣＡＢ矢取り、ＢＣＡ矢取りの順とし３射毎に得点記録、矢取りを繰り返し行う。

4）立ち遅れ、立ち残りは指導警告とし、度重なる警告は失格処置とする。

3．記録方法

得点記録は、同一標的を使用する全選手で行う。ただし、的中得点の自己申告ならびに自己記入は、全て失格矢の取扱としこの得点を認めない。

＊　大会実施時の要領（参考表記）

①　的中する矢の得点帯の判読と記録記入は、その矢を所有する競技者以外の者が全てを呼称（判読）し、同標的を使用する他の競技者が高得点が高得点から順に、スコアーシートに記録を記入する。

（例：ゼッケンＡの選手は、ゼッケンＢの選手の的中矢の得点を判読し、ゼッケンＣの選手が、スコアーシートへ記録記入を行う。）

②　同標的を使用する全競技者が相互にローテーションし、的中得点の呼称とスコアーシートの記入と確認を行って得点記録を実施する。

③　標的の的中孔×又は∟印は、使用する選手側で記入を実施すること。

4．服装規定

開・閉会式および競技会ともに、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が制定する服装規定の範囲とする。

⑦［立順組合せ］一覧表（男女別）…参考様式

（男子の部）

校名	ゼッケンNO	選手名	学年	得点 50m	得点 30m	個人 合計	個人 位	団体合計（順位）
○○○高校	1－A							
	2－A							＿＿＿＿
	3－A							（順　位）
	4－A							＿＿＿
△△工高校	1－B							
	2－B							＿＿＿＿
	3－B							（順　位）
	4－B							＿＿＿

⑧［成績表］

第〇〇回　高等学校□□アーチェリー競技会

成　績　表

92.　.　.

［団体男子］　於：◇◇高校

順位	学校名	得点	得点内訳			
			選手名	50m	30m	TOTAL
1						
⋮						
3						

［個人男子］

順位	選手名	学年	学校名	得点内訳		
				50m	30m	TOTAL
1						
2						
3						

その他事項

1）既に加盟する高体連が、プログラムの作成を規定する場合には、その規定を優先し指示事項に従うものとする。ただし、上記に規定する項目・内容等を順不同であっても網羅記載すること。

2）未だプログラムの作成基準を定めないその他の都道府県においては、上記に記載する項目・内容順にプログラムを編集作成すること。

注意事項

1）大会の主催・後援等の共催申請は、早目に関係機関・団体に申請し、編集製作時には共催名義の了解を得ておくこと。

2）大会役目・競技役員の委嘱は早目に作成し、各役員の所属する勤務先の直属上司宛に、２週間前までには発送し依頼しておくこと。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約

第１章　名　　称

第１条　本専門部は全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部と称する。

第２条　本専門部の事務局は部長指定の学校に置く。

第２章　目　　的

第３条　本専門部は全国高等学校体育連盟（以下「全国高体連」と称する）規約第３条に基づき、高等学校におけるアーチェリー競技の健全な育成発展を図ることを目的とする。

第３章　事　　業

第４条　本専門部は第３条の目的を達成するため、次の事業を行う。

（１）　全国大会開催に関する事項の審議並びに執行。

（２）　アーチェリーの普及並びに競技力の向上に関する事項。

（３）　アーチェリーの講習及び調査研究。

（４）　関係団体との連絡。

（５）　その他目的達成に必要な事項。

第４章　組　　織

第５条　本専門部は全国高体連規約第６条に基づき、各都道府県アーチェリー専門部をもって組織する。

第５章　役　　員

第６条　本専門部は次の役員を置く。

（１）　役員

１．部長　１名　　２．副部長　若干名　　３．委員長　１名

４．副委員長　若干名　　５．常任委員（ブロック代表９名＋若干名）

６．委員（各都道府県より１名）　７．監事　２名　８．事務局長　１名

（２）　本専門部は顧問を置くことができる。

第７条　役員の任期は２ヶ年とする。但し、再任は防げない。補欠によって就任した役員の任期は前任者の残任期間とする。

第８条　本専門部の役員は校長、教諭より選出する。但し、顧問を除く。

（１）　部長及び副部長は委員の推薦により、全国高体連理事会の承認を得て、部長をこれを委嘱する。

（２）　常任委員は全国９ブロック（北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州）において選出された１名と若干名の推薦者を部長これを委嘱する。

（３）　委員は各都道府県高体連アーチェリー専門部より１名を選出する。

（４）　委員長及び副委員長並びに事務局長は常任委員会にて選出し、全国専門委員長会（以下委員会と称する）にて承認する。

（５）　監事は委員会で選出する。

（６）　顧問は委員会で推挙することができる。

第９条　役員の任務及び構成は次のとおりとする。

（１）　部長は本専門部を代表し、会務を統轄し全国高体連理事会に出席する。副部長は部長を補佐し、部長事故あるときはその職務を代行する。

（２）　三役は三役会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長）を構成し代表者会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長、競技委員長、強化委員長、審判委員長、総務委員長）とともに本専門部の企画、立案する。

（３）　常任委員は、常任委員会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長、常任委員）を構成し、本専門部の企画立案するとともに委員会の承認をえてその執行にあたる。

（４）　委員は委員会（各都道府県代表、部長、副部長、委員長、副委員長、常任委員、監事、顧問）を構成し、本専門部の重要事項を審議決定する。

（５）　監事は本専門部の会計を監査し、その結果を委員会に報告する。

（６）　顧問は本専門部の組織運営について委員会並びに常任委員会の諮問に応ずる。

第　６　章　　会　　議

第10条　委員会は年１回部長が召集し、次の事項を審議する。但し、部長が必要と認めた場合または委員の⅓以上から会議の目的事項を示して請求があった場合は、速やかに委員会を召集しなければならない。

（１）　会議では次の事項を審議する。

ア．事業報告並びに計画　　イ．決算並びに予算

ウ．役員の選出　　エ．規約の改正　　オ．その他の重要事項

第11条　常任委員は必要に応じ、部長がこれを召集する。常任委員は常任委員会の開催を要請できる。

第12条　委員会及びに常任委員会は総会の½以上の（委任状を含む）の出席がなければ開くことができない。すべての会議は部長が議長となる。

第　7　章　　専門委員会

第13条　本専門部の事業遂行のため、各種の専門委員会を設けることができる。

（1）　専門委員会の名称・目的及び委員は委員会の決議を経て部長が定める。

（2）　専門委員会の規定は別にこれを定める。

第　8　章　　事　務　局

第14条　本専門部に事務局をおく。事務局の規定は別にこれを定める。

第　9　章　　規約の変更

第15条　本専門部の規約は委員会において、委員の⅔以上の同意を得て変更することができる。

第　10　章　　会　　計

第16条　本専門部の経費は補助金・助成金その他の収入によってこれをあてる。

第　11　章　　付　　則

第17条　規約の施行については必要な事項は委員会の議決を経て部長が定める。

附則　この規約は平成元年２月11日より施行する。

平成５年８月１日一部改正

総務委員会規　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき総務委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第２条　本委員会は次の事業を処理する。

１．全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第４条の事業に必要な資金を調達すること。

２．優秀選手の表彰に関すること。

３．関係功労者の表彰に関すること。

４．規約改正に関すること。

５．機関誌の発行に関すること。

第３条　本委員会は次の委員をもって組織する。

１．本委員会において推薦された若干名の委員。

２．部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

第４条　本委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条　本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条　緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は昭和58年８月１日から施行する。

昭和60年８月10日一部改正

平成元年７月27日一部改正

平成５年８月１日一部改正

競技委員会規程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき競技委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第２条　本委員会は次の事業を処理する。

１．競技会に関する基本方針を確立すること。

２．全国高等学校アーチェリー選手権大会および選抜大会の実施方法その他の重要事項を審議すること。

３．本専門部関係の競技会の調整をはかること。

４．各競技会の記録整理および認定保存をはかること。

５．その他競技に関する必要事項。

第３条　本委員会は次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じて臨時の委員を置くことができる。

１．本委員会において推薦された若干名の委員。

２．部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

第４条　本委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条　本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条　緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は昭和58年８月１日から施行する。

昭和60年８月10日一部改正

平成元年７月27日一部改正

平成５年８月１日一部改正

審判委員会規程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき審判委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第２条　本委員会は次の事業を処理する。

１．競技会への審判員派遣に関する基本方針を確立すること。

２．審判員養成および研修事業に関すること。

３．審判資格修得および更新に関すること。

４．その他、競技規則および審判に関する必要な事項。

第３条　本委員会は次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じて臨時の委員を置くことができる。

１．全国９地区（ブロック）の審判委員会委員長および専門部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

２．委員会で推薦された若干名の委員。

第４条　本委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条　本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条　緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は平成元年７月27日より施行する。

平成５年８月１日一部改正

強化委員会規　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき強化委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第２条　本委員会は次の事業を処理する。

１．強化ならびに普及活動に関する計画立案と、その推薦および指導に関すること。

２．国際競技等に代表選手を派遣すること。

３．指導者の養成および活動に関すること。

４．その他、強化、普及に関する必要な事項。

第３条　本委員会は次の委員をもって組織する。

１．本委員会において推薦された若干名の委員。

２．部長が常任委員の中から指名する若干の委員。

第４条　本委員会は委員長１名、副委員長１名、委員若干名を置く。

第５条　委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第６条　委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第７条　副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第８条　委員の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第９条　本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条　本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条　緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則　この規程は昭和58年８月１日から施行する。

平成元年７月27日一部改正

平成５年８月１日一部改正

事　務　局　規　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第14条に基づき事務局に関わる規定を定める。

第２条　事務局は次の事業を処理する。

１．全国高等学校体育連盟との連絡等に関すること。

２．各大会における関係機関への連絡等に関すること。

３．全日本アーチェリー連盟と各都道府県アーチェリー協会（連盟）との連絡等に関すること。

４．各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部との連絡に関すること。

５．会員登録に関すること。

６．その他部長が指定する事項を処理する。

第３条　事務局には次の職員を置く。

事務局長　１名　　事務員　若干名

第４条　事務局長は、事務局を統轄し、事務局員を指導監督する。

第５条　事務局員の数並びにその任命は常任委員会の承認を得て事務局長が行う。

第６条　事務局員は事務局長の命を受け、本専門部会の事務を処理する。

第７条　事務局長の任期は２ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。

附則　この規程は平成元年７月27日より施行する。

平成５年８月１日一部改正

アーチェリー専門部表彰　規　　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下専門部と称する）では、表彰に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し表彰する。

第２条　この規程は全国高等学校体育連盟アーチェリー競技の普及振興に功績があった者等に対し表彰を行うとともに、全国高等学校体育連盟表彰規程の被表彰者の推薦母体に資することを目的とする。

第３条　前条に定める被候補は、次の各号から推薦するものとする。

１．本専門部長・専門委員長・専門部役員。

２．各都道府県専門部長・専門委員長。

３．その他。

第４条　表彰者の選考は部長・副部長・委員長・副委員長・事務局長があたり、常任委員会の承認を受けるものとする。

第５条　表彰は、常任委員会または全国高等学校アーチェリー選手権大会において行う。

第６条　本規程表彰者推薦のための基準は次の通りとし、重複表彰はしない。

１．本専門部長・専門委員長・専門部役員。

１）専門部役員については、３期（６年）以上とする。

２．各都道府県専門部長・専門委員長。

１）専門委員長については６年以上とする。

３．その他、特に功績のあった者。

第７条　推薦手続きは毎年４月中旬・10月中旬までに本専門部事務局宛に提出する。

第８条　経費は本専門部一般会計より支出する。

附則　この規程は昭和58年８月１日より施行する。

平成元年７月27日一部改正。

平成３年７月25日一部改正。

アーチェリー専門部慶弔　規　　程

第１条　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「専門部」と称する）では、慶弔に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し敬意を表わすことができる。

第２条　その基準と範囲は次のとおりとする。

１）　慶事に関して

ア）功績者および関係役員等が、他からの栄誉を称えられた場合。

２）　弔事に関して

ア）功績者および関係役員等に不幸が生じた場合。

３）　範囲

ア）記念品または弔慰金等およびこれらの電文とする。

第３条　その他、この規程に定めない特別の場合については、常任委員会の承認を得て敬意を表すことができる。

ただし、緊急の場合は部長がこれを支出し、常任委員会に報告・承認を得るものとする。

第４条　経費は本専門部一般会計より支出する。

附則　この規程は、平成２年４月１日より施行する。

連絡先および口座番号

1．事 務 局

〈登録担当〉

〒153　埼玉県大宮市堀ノ内1-615　大宮開成高校内

ＴＥＬ０４８－６４１－７１６１

ＦＡＸ０４８－６４７－８８８１

2．競 技 部

〈記録登録〉

○大　塚　敬　輔　〒856　長崎県大村市森園町1079-3

県立大村工業高校機械科内

ＴＥＬ０９５７－５２－３７７３　内線４５

ＦＡＸ０９５７－５２－３７７３

3．全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局の口座

（銀行名）　あさひ銀行大宮支店（店番369）

（預金種目・口座番号）　普通預金　２５４７０７９

（口座・代表者名）　全国高体連ア専事務局　宮崎　利帳

4．全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部総務の口座

（銀行名）　東海銀行覚王山支店　（店　番）２６４

（預金種目・口座番号）　普　通：１６１－２１５

（口座・代表者名）　全国高校アーチェリー　田　中　康　彦

5．斡旋物資について

平成７年度より斡旋物資についてはア専門部を経由せず、直接各地のミズノ販売店あるいはスポーツ用品店に問い合わせてください。

あとがき

本年１月17日早朝兵庫県南部から大阪府北部にかけ阪神大地震が起こり、未曾有の大災害となりました。この震災では、兵庫県及び大阪府の住民に大きな被害がありましたが、本専門部にとりましても、忘れることの出来ないものとなりました。兵庫県下では、本専門部加盟の多数の高校でレンジ・用具の損壊は言うに及ばず、自宅や学校も倒壊しました。そしてもっとも悲しむべきは、今震災で尊い仲間やその肉親を失ったことです。思い半ばでこの世を去った彼らの無念、それを見送らなければならなかった肉親の悲しみを思うとき、本当に言葉もありません。ここで改めて亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、一日も早い復興を願ってやみません。

我々は物事を遠近法的にみていると言われます。「自分にとって身近なもの、分かり易いものは大きく。身近でないもの、理解しにくいものは小さく」また「自分の痛みは分かり易いが、他人の痛みは分かり難い」。これは人間の宿命であるのかもしれません、しかしそれが宿命であればこそ「小さくみえるもの・分かり難いもの」に目を向け、理解しようとする態度が必要なのだと思います。本専門部には北は北海道から南は沖縄まで約300校、5000人を越える仲間がいます。この会報が届く頃北海道はまだ雪の中でしょう、そして沖縄はすでに桜が散ってしまっていることだと思います。人を思いやる心、他人の考えを理解しようとする姿勢を忘れず。全国の仲間が堅く結びあい力強く前進するために役立つような会報作りを目指し、一層の努力を続けていきたいと思います。

最後に会報第９号発刊に当たりご協力いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。(佐幸)

発行日　平成７年４月

編　集　総務委員会

発行所　全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

事務局　〒330 埼玉県大宮市堀ノ内１丁目６１５

大宮開成高校内（TEL048-641-7161）

（FAX048-647-8881）

印刷所　㈱シバタプロセス印刷

〒526 長浜市神照町499-1

TEL（0749）63－６８６０㈹

表紙の色

託馬野(つくまの)に　生ふる紫草(むらさき)　衣(きぬ)に染め

いまだ着ずして　色にいでにけり

（万葉集395　笠女郎(かさのいらつめ)）

CHAMPION'S CHOICE!

チャンピオンたちがホイットボウを選んだ理由。

ホイットボウの開発コンセプトは、"アーチャーによる、アーチャーのための弓"。つまり、射つ人の身になって設計された弓で、アーチャーのシューティング能力を最大限に引き出すことを目的に製造されています。精確に設計された先進フォルムのハンドルライザー。細部にまで心の行き届いたハンドメイドの精巧なリム。さらに部品の一つひとつに至るまで、すべての製品が世界的なトップアーチャーによる徹底的な実射テストを見事にクリアしています。

数十年にもわたって世界一であり続ける伝統、細部に及ぶ厳しい目、仕上げや品質の良さ、イノベーションや精度に対する追求心。これらすべてが、無類の優秀性を誇るホイットの世界的評価に結びついています。

（写真左より、ホイット・ゴールドメダリスト、
レイディアンL、レイディアンS）

ARCHERY DIVISION
For Archers' Minded
ISHII CORPORATION
osaka japan

株式会社石井工業

〒561 大阪府豊中市浜1-28-12
TEL. 06-334-5574　FAX. 06-334-3124

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS

確実なグリップを生む本格派。

RunBird
ATHLETIC FOOTWEAR

〈ランバード〉アーチェリーシューズ
36KA-8250 ¥10,000

- 甲/人工皮革(クラリーノエフ) ●底/VCRラバーソール
- 製法/セメント式 ●サイズ/22.0～28.0

芝のグラウンドでもグリップ性、ストップ性を発揮するVCR配合ラバーソールを採用。
アッパーにはソフトで足あたりが良く、耐久性・耐水性にすぐれた人工皮革(クラリーノエフ)を採用。

ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は「ミズノお客さま商品相談センターMUSIC」●東京TEL.(03)233-7110●大阪TEL.(06)454-5001